

財団法人日本タイ協會々報

第十八號

昭和十五年二月

贈

昭和十五年二月

財團
法人
日本タイ協會
々報

第十八號

財團
法人
日本タイ協會



財團 日本タイ協會々報第十八號 目次

口 繪 寫 眞

- 一、昭和十四年十一月卅日盤谷に於ける日泰航空協定調印式の光景
- 二、(上) 訪泰委員團(盤谷日本タイ協會々館支關に於て)
- (下) 看護婦修業のため來朝せるタイ國女子

新 聞 論 調

- 異種族結婚に就て(十二月十二日、盤谷タイムス紙所載).....一
- 極東問題(十二月十三日、盤谷タイムス紙所載).....三

資 料 欄

- 日泰定期航空業務の實施に關する協定.....五
- 一九三九年自一月至九月對日主要商品輸出入統計.....八
- 一九四〇—四一年度タイ國歲出入豫算.....一〇
- 不當利益取締法による煉乳公定價格.....一五
- 歐洲戰爭のタイ國貿易に及ぼしたる影響と本邦商品の將來.....一五

雜 苑

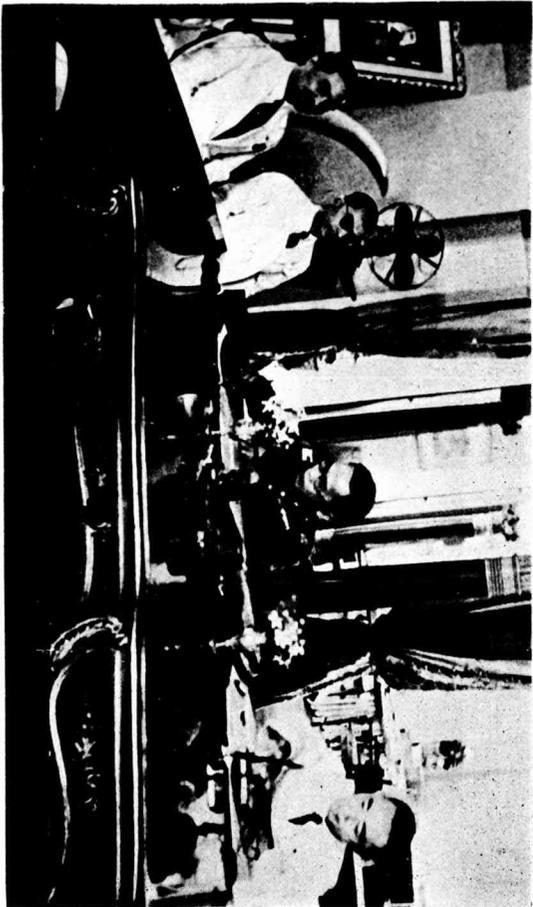
○日泰航空協定の調印式に使用して……………	航空局國際課長	大久保武雄……………二
○衆議院議員團のタイ國訪問を語る……………	山口武……………二	天田六郎……………三
○タイ國に於ける華僑問題……………		
○日本印象記……………		
一、滯日雜感……………	ブランチヌワーア……………五	
二、日本における國內事情とその文化の一端に關する視察旅行經過略述……………	二四八一年盤谷日本語學校特別科生徒番號一五二番	ウウキンム・ケイウ……………六
（佛曆二四八二年）……………	バンコック日本語學校學生	ウキワツ・アソク……………六
三、日本に於ける印象の處々……………		レツク・ナクソーン……………九
四、日本への旅……………		
○秩父宮殿下中支戰線御視察……………		九
○秩父總裁宮殿下、元駐日タイ國公使ビヤ・スーバンソムバット氏並に同氏家族に賜餐……………		九
○秩父總裁宮殿下へ元タイ國經濟相ブラ・サラサス氏よりタイ猫一箱獻上……………		九
○タイ國攝政首座殿下に大勳位御贈進……………		九
○タイ國政府より近衛會長外敷氏に贈勳……………		一〇
○タイ國政府磅リンク不變を聲明……………		一〇

雜報欄

○タイ國ウタラデイトに製糖工場建設……………	一〇〇
○タイ國にも寒波……………	一〇〇
○一九四〇年度のミス・タイ決定……………	一〇一
○盤谷に日本人會館建設……………	一〇一
○タイ國派遣衆議院議員團歸朝並に新任駐日タイ國武官海軍少佐ルアン・ソンプララ氏歡迎晩餐會……………	一〇一
○訪泰日航機「大和號」の往還……………	一〇一
○大日本航空株式會社盤谷駐在員首席の任命……………	一〇一
○日泰航空路印度支那迂回に變更……………	一〇一
○天田通譯官の歸任……………	一〇一
○タイ國看護婦見習生四名來朝……………	一〇一
○上野動物園よりタイ國へ仔獅子一箱寄贈……………	一〇一
○専修大學南洋事情研究會のタイ國留學生招待……………	一〇一
○名古屋日暹協會の改稱……………	一〇一
○神戸タイ國名譽領事館事務所移轉……………	一〇一
○北島多一氏令息の逝去……………	一〇一
○伊藤次郎左衛門（治助）氏の逝去……………	一〇一
○藤田平太郎男の逝去……………	一〇一

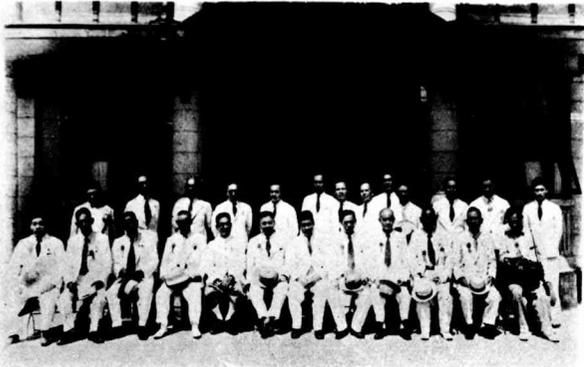
協會記事

○臺灣總督府より補助金下付……………109
○理事會及評議員會の開催……………109
○會員の消息……………109
○寄贈圖書……………109
○新刊圖書……………109
○財團法人日本タイ協會總裁及役員並職員……………109



記事要略

泉光の式印調定協空航泰日るけ於に谷繼日卅月一十年四十和昭 便 公 井 村
イバンバ・ヌソリア トクイヒチ・イナ理(沼外) 相首ムーラクソソ・ソツビ



(記事参照)

(て於に開支館々會協イタ本日谷縣)團員議院議衆泰訪
 ヤチンオル・員議野大・員議木山・員議島古・員議村假りよ日入二つ向列前
 山・員議石大・長會副ーリーサトッヒビ・長團井櫻・長々會協イタ本日シーエ
 員議永須・員議橋高・員議川



(記事参照)

子女國イタるせ朝來めたの業修婦護看
 シア ウーラクアクーナ・ニーラブ トツチイウ・イバラブリよ右てつ向
 シリターケマーソ・ンバワブ イバナヤチ・ーリヤチ

新聞論調

○異種族結婚に就いて

(十二月十二日、盤谷タイムズ紙所載)

日本の官民は共に、日本が支那事變に如何なる犠牲を拂つてゐるかと言ふ點から出發して、日本は武器を取つて達せんとした目的全部を果さねばならない、即ち征戰の全目的を貫徹する迄は武器を納めてはならないと云ふことを明言してゐる。其の他の日本の政治家も右の主張に反對するものはないが、今であれば日支兩國側にとつて遙かに有利に事變を片付けることができるとの意見を強調してゐる者がある。彼等の意見に依れば日本の目的とする處は支那主權を喪失せしむることに非ずして兩國の共同にある。扱て相隣接せる二國の政府は必ずしも常に兩國間に惹起せる問題に對して同意見に達することは期待し得ないものである。従來多くの加盟國を有してゐた國際聯盟は斯る際幾多の効果を齎したが、既に現今では無能なものと見なされてゐる状態である。二國間のみの聯盟では兩國を満足せしめる

様な好機に際會するなどといふ事は何事によらず殆んどないであらう。日本の場合に於ても、現在日本が支那に對して抱ける目的を放棄することに同意するとは考へられない。それにも拘らず歐洲の心ある人々は其處に同盟の可能性を見出さんと考慮し、検討してゐる。事實——現在の如く反目が優勢でなければ——それに依つて何等か有効なる方法或は日支會談さへ、實現するかも知れないのである。

扱て東京の報知新聞はその論說で日支事變の解決並に東亞新秩序の建設に關して一般の人々には目新しく感ぜられる意見を掲載してゐる。それは異種族結婚に依り永遠の融和と結合を促進する事が可能であり且つ妥當であるとの意見に關するものである。同紙は日本に於ける大部分の意見は「異種族結婚によつてのみ東亞は一體に結合し得るのである」との結論に達してゐると述べてゐる。然し斯る政策は支那に依る日本の民族的同化と云ふ不幸なる結末に導くと主張して右の意見に反對してゐる者がある。その主なる反對者は法政大學法學部長で、同氏に依れば支那の人口は四億であり、日本内地は僅かに八千萬である。而も今日の支那人は混交種族であり、日本人は比較的純粹な種族である事を指摘してゐる。それ故に彼の持論は純粹な血族は混血した民族よりも容易に同化されると云ふのである。

今日、此の國にある支那人はタイ人とは全然別の種族である。現今は支那から多數の男子のみならず女子の移民を見てゐるが、斯る事は從然には見られぬことで、老人達は今尙、女子移民は甚だ稀で大抵の支那人はタイ人を妻としてゐた時代を思ひ出す事が出来るのである。支那人が老齡に及んで歸國する事は屢々あつたが、その妻や子供は同伴しなかつた。右の理由から現在のタイ民族の中には支那人の血が可成混つてゐるのである。是はタイには利益を齎し支那には何の害も及ぼさなかつた事は疑問の餘地のない處である。確かに支那人は他の種族に同化されても何の危険もないのであつて、寧ろタイ國では異種族結婚が全然廢止されたことを遺憾としてゐる點が見られると吾人は信ずるものである。

○極 東 問 題

(十二月十三日、盤谷タイムス紙所載)

最近の「タイムス」紙は日本は汪兆銘と云ふ魚を釣針にかけたが、未だ釣上げるには至つてゐないと報じ、更に他の新聞は此の魚自身は釣上げられる事を熟望してゐると評してゐる。汪は大抵の支那人からは奸漢と目されてゐるが汪自身は自分の計畫こそが支那を救ふ最善の方法であると確信してゐるのかも知れない。事實彼の提案は或る點では日本に讓歩しなければならなかつたが、之に依つて忽ちに日本軍は引上げるであらうし、その後支那は自身の手で依つて従前の如く政治を行ふであらうと考へられたのである。可成多數に上る長期抗戰反對者はこの計畫が實現する事を希望してゐたであらう。然し十一月末、大阪に於ける總理大臣阿部大將の演説は、汪兆銘の新中央政府が樹立され、ば蒋介石政権は崩壊し、日本軍は支那から引上げたことを意味すると信じてゐるのは誤謬であると明白に宣言した。斯る意見を述べるに當つて首相は、蒋介石は今尙二百四十師團、約百八十五萬の兵を有して居り、其他、奥地には百萬以上のゲリラ隊が存在してゐる點を指摘してゐる。

以上の如く阿部首相の言に依れば日本は五年或は十年も繼續するかも知れぬ長期戦に直面してゐるのである。假に蒋介石政権を打倒したとしても、日本には現在蔣の指揮せる軍隊を如何に處理絶滅するかと云ふ問題も残つてゐるし更に新中央政府の樹立が實現したとしても之に對して第三國が如何なる反應を示すかと云ふ點も残つてゐるのである

阿部大將は結論として幾多の難關を突破するため經濟統制強化と豊富なる資源確保の必要を力説した。以上の如き阿部首相の宣言は種々の解釋を生んでゐる。即ち之は新中央政府の樹立と共に日本軍の即時引上げを信じてゐる汪兆銘に對する何の粉飾もない返答である。更に阿部大將の宣言は日本國民に對しても日本軍の支那引上げは重慶政府と何等かの満足すべき解決に到達し得た時であらうと云ふ事を暗示したのも思はれる。

同時に右の暗示も（假令右の様に解釋されても）現在日本が南支の廣大なる地域に戰線を擴大し、全海岸線を支配してゐる事實を考慮すれば、全然譯が分らなくなる。然し、支那事變の困難性及び歐洲大戰勃發に因る種々の混亂を考慮すれば、日本は支那とも米國とも出来べくば決定的なる解決をつきたいと切望してゐるであらう。支那は比較的に弱い國であるが、近來統一國家として顯著な進歩を見せてゐた。過去二年に亘る緊張は兩國に非常なる障害を與へてゐるに相違ないのである。吾々は、支那には現在の暗黒は黎明を告げる前奏曲であるとの意見を幾度か讀んだことがあるが、日本及び其の支持者は斯る期待は東亞の強國にのみかけ得ると信じたがつてゐる。吾々はその成行を靜觀すべきであらう。

四

資料欄

○日タイ定期航空業務の實施に關する協定

我國最初の國際航空協定たる日泰定期航空協定は十一月三十日バンコックに於てビブソンクラム首相と駐泰村井公使との間に調印を了し十日より効力を發生するが、その全文は左の通りである。

日本國タイ國間定期航空業務の實施に關する協定

大日本帝國政府及びタイ國政府は日本國タイ國間に於ける航空關係の設定及び一般國際航空關係の増進に關し兩國の有する相互の利益を確信し左の諸條を協定せり

第一條 日本國政府に依り指定せらるべき日本國の航空輸送會社はウドルンに定期著陸を爲し臺北とバンコック並に日本國及びタイ國の權限ある官憲の間に後日協定せらるべきタイ國內の他の諸地點との間に定期航空業務を運営することを得

第二條 前記日本國の航空輸送會社の航空機はタイ國內に於てタイ國政府に依り承認せられたる航空路上を飛行すべし右航空路よりの離脱は緊急の場合に於て又はタイ國の權限ある官憲の同意を以てのみ之を爲すことを得

第三條 前記日本國の航空輸送會社の航空機は前記の如く承認せられたる航空路上のタイ國政府に依り承認せられ且

五

商業用航空機に對し開放せらるるタイ國內の著陸場に於て右各著陸場に於ける民間航空運營に適用ある條件に從ひ且其の課金を負擔し著陸し又は離陸することを得

第四條 前記日本國の航空輸送會社はタイ國に於て現に又は今後施行せらるる法令及び規則並に兩國が締約國たる條約に從ふべし

第五條 前記日本國の航空輸送會社はタイ國政府が該會社に委託することあるべき郵便物をバンコック、ウドルン間に於て無料にて運送すべし

第六條 前記日本國の航空輸送會社はタイ國の領域外に始まり又は之に終る繼續的航程の一部としての場合を除くの外タイ國內の諸地點間に於ては郵便物にして前條に明示せらるるもの以外のもの、旅客又は貨物を運送せざるものとす

第七條 前記日本國の航空輸送會社はタイ國に於ける引渡の爲該會社の航空機の搭載する航空郵便物をタイ國政府の定むることあるべきタイ國內の定期著陸場に於てタイ國官憲に交付すべし

第八條 前記日本國の航空輸送會社のタイ國に於ける代理店はタイ國政府に依り承認せられたる適當なるタイ國の會社たるべし

第九條 前記日本國の航空輸送會社はタイ國政府が該會社に委託することあるべき郵便物を運送すべく又右郵便物の運送に對する日本國郵便官憲への支拂料金は第五條に明示せられたる無料運送の郵便物を除くの外本業務の經費を分擔せざる他の郵政廳に對し課せらるる料金率より高からざるものとす

第十條 前記日本國の航空輸送會社は日本國官吏の場合に於けると同一の料金を以てタイ國政府の官吏を運送すべし

第十一條 タイ國航空輸送株式會社はバンコックと臺北及び兩國の權限ある官憲の間に後日協定せらるることあるべき日本國內の他の諸地點との間に定期航空業務を運營することを得

第十二條 前記航空輸送會社の航空機は日本國內に於て日本國政府に依り承認せられたる航空路上を飛行すべし右航空路よりの離脱は緊急の場合に於て又は日本國の權限ある官憲の同意を以てのみ之を爲すことを得

第十三條 前記航空輸送會社は日本國に於て現に又は今後施行せらるる法令及び規則並に兩國が締約國たる條約に從ふべし

第十四條 前記航空輸送會社は日本國の領域外に始まり又は之に終る繼續的航程の一部としての場合を除くの外日本國內の諸地點間に於ては郵便物、旅客又は貨物を運送せざるものとす

第十五條 前記航空輸送會社は日本國における引渡のため該會社の航空機の搭載する航空郵便物を日本國政府の定むることあるべき日本國內の定期著陸場に於て日本國官憲に交付すべし

第十六條 タイ國政府の請求ありたるときは日本國政府は外國人が許されたる又は今後許さるることあるべき軍事航空訓練の課程を同時に四名迄の學生が修むることを許可すべし但し右義務はタイ國の航空業務が日本國の領域内又は領域上に於て合計三年の期間運營せられたるときに於て終止するに至るべし

第十七條 本協定は其の署名の日の後十日にして實施せられ二年間引續き效力を有すべし何れの當事國も本協定を終了せしむるの自國の意思を右二年の満了の六月前に他方に通告せざる時は本協定は何れかの當事國が之を廢棄の通告を爲したる日より六月の満了に至る迄引續き效力を有すべし右證據として下名は各本國政府より正當の委任を受け本協定に署名調印せり

○一九三九年自一月至九月對日主要商品輸出入統計

昭和十四年一月より九月に至る九箇月間の本邦對泰國貿易額は、輸出一九、〇八八、一三二圓、輸入三、〇八四、九八四圓、合計二二、一七三、一一六圓にして、之を前年同期の輸出三〇、四八二、六六九圓、輸入三、四四六、二一〇圓、合計三三、九二八、八七九圓に比すれば、夫々一一、三九四、五三七圓（三割七分減）、三六一、二二六圓（一割減）、一一、七五五、七六三圓（三割四分減）の減少である。尙本期の輸出は一六、〇〇三、一四八圓にして、之を前年同期の輸出二七、〇三六、四五九圓に比すれば、一一、〇三三、三二二圓（四割減）の減少である。其内容左の如し。

品目	輸出		輸入	
	昭和十四年一月—九月	昭和十三年一月—九月	昭和十四年一月—九月	昭和十三年一月—九月
水産物	二一、六九五	二二、〇七七	一八七、六七六	一八二、五一四
麥酒	三一、二二三	一五、〇四五	九六、二六八	三八〇、七四二
石鹼	一〇、六四七	六、〇四九	一、四〇、二九九	一、四〇、二九九
綿織物(生地)	七二九、四九八	八七、六三一	一、四三三、九二七	一、四三三、九二七
綿織物(生糸)	一、四三三、九二七	一、四五四、九六〇		

品目	輸出		輸入	
	昭和十四年一月—九月	昭和十三年一月—九月	昭和十四年一月—九月	昭和十三年一月—九月
同 (晒)	三、七四二、〇〇〇	三、二八八、一六三	三、八三八、九〇五	三、八三八、九〇五
同 (其他)	五、三三五、二九五	四、六四一、四七四	六、八五七、五四九	六、八五七、五四九
人造絹織物	一、〇八九、八八一	一、〇八六、一八三	三、〇九一、六八四	三、〇九一、六八四
綿ブランケット	四二五、八一四	二四九、七五五	七八六、一一四	七八六、一一四
綿タオル	三〇八、九三七	二五一、六四六	二〇九、〇七七	二〇九、〇七七
帽子及帽體	一六、九九九	一三、〇二六	二五六、二三二	二五六、二三二
紙類	三三六、二二五	四五三、六三二	七一八、〇三一	七一八、〇三一
陶磁器	一九八、二五〇	七六、一〇六	二一一、六二六	二一一、六二六
硝子及同製品	二六七、五七三	二〇四、九七四	六三六、一六六	六三六、一六六
鐵製品	三六一、二四七	三七九、〇九一	一、三四〇、八〇九	一、三四〇、八〇九
洋傘	五、〇九五	一、七四一	九一、三三一	九一、三三一
刷子	二七、〇二〇	一五、八九〇	六二、五六二	六二、五六二
洋燈及同部分品	四〇、七五四	三六、八〇九	一一四、四四二	一一四、四四二
其他	四、六六五、〇五二	一八、一九八、四一七	二〇、七五〇、三一	二〇、七五〇、三一
計	一九、〇八八、三二二	三〇、四八二、六六九	四〇、九五三、三二八	四〇、九五三、三二八
品目	昭和十四年一月—九月	昭和十三年一月—九月	昭和十二年一月—九月	
米	一、七二三、七五三	一、九三五、八六〇	二、三七〇、〇五一	
及				
材	七三八、二四〇	八八五、一二七	二、六三一、〇八五	

共 他 六三二、九九一 六二五、二二三 五、三六二、二七四 一〇、三六三、四一一

計 三〇八四、九八四 三、四四六、二一〇 一〇、三六三、四一一

同期の對タイ國重要輸出品十八種は、前年同期に比し増額せるは十四種にして、減額せるは四種である。増額十萬圓以上の分は、綿織絲の八七、六三一圓より七二九、四九八圓（八倍強）、綿織物（晒）の三、二八八、一六三圓より三、七四二、〇〇〇圓（一割三分増）、同（生地及び晒以外）の四、六四一、四七四圓より五、三七五、二九五圓（一割五分増）、綿ブランケットの二四九、七五五圓（七割増）、陶磁器の七六、一〇六圓より一九八、二五〇圓（二倍半）等である。十萬圓以下の増加は、麥酒の一六、一七八圓（二倍強）、石鹼の四、五九八圓（七割六分増）、人造絹織物の三、六九八圓（三毛増）、綿タオルの五七、二七一圓（二割二分増）、帽子及び帽體の三、九七三圓（三割増）、硝子及び同製品の六二、五九九圓（三割増）、洋傘の三、四五四圓（三倍弱）、刷子の一一、一三〇圓（七割増）、洋燈及び同部分品の三、九四五圓（一割増）等である。而して減額せる十萬圓以上の分は、紙類の一七、四〇七圓（二割五分減）にして、十萬圓以下の減額率は、水産物の一分減、綿織物の一分減、鐵製品の四分減等である。

次に重要輸入貿易品二種を比較するに、孰れも前年同期に比し減額十萬圓以上にして、米及び粳の二二、一〇七圓（一割減）、木材の一四六、八八七圓（二割六分減）等である。

○一九四〇—四一年度タイ國歳出入豫算

佛曆二四八二—八三年（一九四〇—四一年）度豫算法案は九月二十六日國民議會を通過し、同月三十日の官報に公

示愈々新豫算年度たる十月一日より實行豫算として實施せらるゝこととなつた。

從來タイ國の會計年度は四月一日に始まり三月三十一日に終るものであつたが、本年より農民の納税の便宜を考慮して豫算期を自十月一日至翌年九月卅日に變更を見たのである。

豫 算

前年度豫算との對照

	二四八二—八三年 銖	二四八一年 銖
歳 出	一二四、〇五八、六四三	一〇九、三九七、九八八
歳 入	一二四、〇六〇、七三五	一〇九、四二五、九四〇
資本的支出	二二、八八九、三六四	二二、一〇八、五二四
歳 出 内 譯 (通常)		四一四、二〇〇
王 室 費		
國 債		
外 債		六、五一一、六〇九
内 債		二、二六〇、〇〇〇
計		八、八八一、六〇九
契約による支出		三七、八〇〇
ラオ王族		二、三〇〇、〇〇〇
森林借區税		

其他のロイヤリテイ	二〇、六四五
國際聯盟負擔金	九六、三六七
恩給	七、〇六二、〇〇〇
計	七、二三九、八一二
廳舎修理及び建造	一、九八一、九〇五
歳出豫備金	一〇〇、〇〇〇
海軍擴張費	一、〇〇〇、〇〇〇
内閣	一、九一〇、九九〇
國防省	二八、七〇〇、〇〇〇
大藏省	九、八八六、九三〇
外務省	九六二、四九五
農務省	六、八四八、七七二
文部省	一四、五五二、九二二
内務省	(初等教育費 七、七〇一、二九一銖を含む)
司法省	二四、七八六、〇六九
經濟省	二、三〇一、六四〇
國民議	一三、三一五、三二九
	六七六、九六四
	(代議士歳費 五九六、三〇四を含む)

宮内局	五一〇、七三八
國王秘書室	五八、二六八
歳入豫算の内譯	
租税	六二、四八七、二四〇
手数料	一三、二六七、四五〇
其他收入	四三、〇六一、四三四
雜	一、二四四、四六一

資本的支出

資本的支出總額は二二、八八九、三六四銖にしてその中一三、八八九、三六四銖は國庫準備金より、殘額九、〇〇〇銖は公債により支辨せられ、その割當内譯は左の通りである。

液體燃料工場	九六二、九〇〇銖
クーボン及びスタンプ印刷機械	一八〇、〇〇〇
産馬改善費	一〇〇、〇〇〇
屠殺場及貯肉倉庫費	七六八、五〇〇
棉業改善費	一、一一九、七一五
植物油精製工場	一六、四一九
國立銀行設立基金	三〇〇、〇〇〇
國營商事擴張資金	五〇〇、〇〇〇

中央農事試験所	三〇〇〇〇
棉花栽培	三八、六九九
灌漑工事	二、五〇一、五五三
灌漑小施設	一三四、〇二四
信用組合	一八〇、〇〇〇
國立陸上競技場	一三〇、〇〇〇
職業教育改善費	七六八、〇〇〇
道路計畫豫備資金	五、一六二、四九八
道路建設	一、七七五、〇〇〇
電氣事業	一四五、〇〇〇
交通運輸改善	三、五九八、二〇〇
商業空港建設	二二、二〇〇
郵便及び電信	七七一、二二六
ツリーストビエロー	三五、四四〇
商船建造	二五〇、〇〇〇
鐵道建設	三、二一〇、九九〇
	(一〇、四、B・T)

○ 不當利益取締法による煉乳公定價格

十二月十九日附を以てパンコック及びトンブリー不當取締委員會より過般の不當利益取締法に準據し煉乳の公定價格が發表され同日以降三十日間實施されることゝなつた。
 今回の公定價格に依れば煉乳一函(四打入)十三銖、一罐二十八士丹を超えて販賣することを禁止してゐる但し本則は熊・ミルクメイド・エンド・ゲート、パリス金牌三兵士(泰國製)の各標煉乳には適用せぬことゝなつてゐる。
 尙同委員會は今後引續き食料品、日用品、酒精、文房具、建築材料、農具、運搬用家畜、乗物及び其の附屬品、藥品、煙草等に取り締法を實施する模様である。

(昭和十四年十二月廿二日穀貿易斡旋所第一七八二號)

○ 歐洲戰爭のタイ國貿易に及ぼしたる影響と 本邦商品の將來

第二次歐洲戰爭勃發後茲に約三箇月を経過するに及び各國の當國向輸出狀況も著しく變化を示すに至つた。即ち歐洲諸國の輸出入統制及び運賃、保険料と原料、勞銀より來る生産費の昂騰とは遂に當國に於ける輸出入相手國順位に

大なる變遷を及ぼすに至つたのである。
 今戦争開始前二箇月と戦争後二箇月の間に於ける各國よりの輸入額を比較するに左の如く歐洲主要仕出國たる英、獨、和、白等の諸國よりの輸入は著しき減退を示し英領新嘉坡、彼南、馬來聯邦も本國の動機により輸出量漸く減退の兆を顯はすに至つた。

△仕出國別泰國輸入統計

	七 月	八 月	九 月	十 月
英 國	一、二二九、七二八銖	四五、三五八、六七八銖	二一、九四四、九二八銖	五七七、一五〇銖
日 本	一、二四〇、三九銖	一、四五七、七八八銖	一、二三一、七四一銖	一、六一三、七九四銖
獨 逸	九七一、四五五銖	一、一六〇、七六四銖	七七〇、七〇八銖	四四四、二一八銖
香 港	八〇二、六四八銖	八六五、八九五銖	五六九、三七八銖	一、〇〇三、七二七銖
新 嘉 坡	七六四、四二九銖	四六六、二一八銖	五五一、〇七八銖	四七五、九八四銖
印 度	五八六、四四七銖	六五八、〇六七銖	五二四、一五四銖	一、一二七、七八四銖
米 國	三八四、五五六銖	三三三、四七銖	五八三、二六八銖	七五七、一一銖
支 那	二九六、五七三銖	三八六、六一銖	三九九、九三三銖	四三四、八〇七銖
蘭 印	二一六、三五二銖	三〇三、三一四銖	一一九、四四六銖	八八二、八四七銖
和 蘭	一九九、三一〇銖	三六八、六一銖	三一九、七〇八銖	一三〇、五二三銖
白 耳 牙	一七七、一八六銖	八七、六二四銖	八〇、六七〇銖	四三、六九〇銖
薩 洲	五五、一九二銖	一四一、〇三八銖	一一〇、一八七銖	六八、一〇三銖

馬來聯邦	二六、三九八銖	一〇、八一七銖	一、三六七銖	二七、〇三九銖
緬 甸	八、八二一銖	九、四七八銖	八、八七四銖	一六、九六〇銖
彼 南	五、七五四銖	五、〇三九銖	一、五〇九銖	三、一五六銖
其 他	九二四、七七一銖	八二六、九四八銖	八七八、〇二一銖	五一四、三十七銖
合 計	七、七八三、六五九銖	五二、四八〇、三七一銖	二八、〇九四、九六九銖	八、一二一、二七〇銖

右統計により各國の當國向輸出狀況を検討し、主要輸出品につき今後の情勢を豫測するに大體左の如くなると思ふ。英國は從來當國向として機械、車輛、藥品等を主要輸出品とし高級綿布に於て日本品と競争しつゝあつたのであるが今次の歐洲戦争勃發後發布せられた英國の輸出禁止令により機械、車輛及び藥品の大部分が輸出禁止となり、残る綿布も運賃保険料並に生産コストの昂騰により尠なからず値段が上昇するであらうから之も次第に日本品が絶對的勝利を占むる日が来るであらう。

前表に示す英國よりの八、九兩月間に於ける輸入増加は惟ふに輸出禁止實施懸念により一齋に車輛、機械類が積出されたものと見る可きであらう。

獨逸は元來本國より當國へ通ふ船舶は稀で當國向輸出品の大部分は英、丁、和、諸等の船舶に依つて當國へ輸出してゐたものであるが、戦争開始以來英船の獨逸積込拒否は言ふ迄もなく、中立國船舶に航行不安にしてしかも最近の如く獨逸貨を英國が没取するに至つては今後獨逸貨物の輸送は殆ど不可能となる。戦争開始前の七、八月に於ては此の事情が思惑を煽り大量の輸入が行はれたが現在當國に於ける獨逸品輸入は急激に減少しつゝある。

獨逸商品にして今迄日本品と競争的立場であつたものは洋食器(スプーン、フォーク)、珪瑯鐵器、自轉車及び部分

品、洋燈、藥品等であつたが今後其の脅威は全然無くなり獨逸品の輸入減少は主として日本品により補充されることとなるであらう。

昨年迄新嘉坡からの輸入するもの、内最も貿易額巨額に達するものは石油、ベンジン其他の油類で之が對新嘉坡全貿易額の過半を占めて居たのであるが今年當國內に於て燃料法が制定されて以來は此の輸入が止まり又一方戦争開始後の新嘉坡食料品統制により食料品が輸出能力を削減され、機械、金屬製品、護謨製品等の歐洲製品中繼貿易も歐洲自體の動亂により大打撃を受けた。

従つて今後は日本品、米國品及び自領に於て出来る麥酒、賣藥のみが新嘉坡の當國向主要輸出品となるであらうが藥品、麥酒も原料其他の關係かも或程度輸出能力を削減されるであらうから結局今後の新嘉坡は日本品及び米國品の中繼港に轉向して行くものと考へらる。蘭領印度は主として精糖、キニーネ、石鹼等を當國に供給して居るが之等に對する蘭印市場價格が今次の歐洲戦争により昂騰すれば、精糖、石鹼等は當國々産品の擡頭を漸次促がすことゝなる。然し乍ら當分の間歐洲品減少の跡を承けて蘭印製品は却つて活氣を呈すると見るのが當然である。

和蘭も中立國船舶の航行不如意なる現在に於て綿製品、藥品、護謨製品、金屬製品、鋳力等の輸出が禁止されてゐる今日では何れも輸入（當國の）減少する筈である。

和蘭よりの輸入品の内最大分野を占むる煉乳の輸入減少は本邦煉乳に大なる好影響を與へるであらう。白耳義は鐵鋼材、鐵鋼製品、亞鉛、麻布等を當國向主要輸出品としてゐるが戰時に於ては上記の内麻布を除けば他は軍需品たる關係上、極東市場への進出は不可能となる。馬來聯邦は鐵鋼材、鐵鋼製品、亞鉛等の當國向輸出品は何れも今後杜絶すべく、今後は藤製品の輸出位が僅かに旺盛とならう。

彼南は石油其他の油類の當國向輸出止まり食料品、セメント等も亦統制され自動車、機械、藥品等の中繼も歐洲動亂により衰へるのであるから、貿易額上、今後は全然問題とするに足るまいが南泰國地方市場は依然として金融關係から彼南の勢力圏内にあるから今後とも何れかの國々の商品が彼南を經由して流れ込むであらう。

次に今後當國向輸出増加す可く豫想さるゝ國々は日本、香港、印度、濠洲等である。

第一に香港は主として北、中支の製品を中繼するのであるから北、中支の乾物、茶、果物、陶磁器、電気機器、竹製品、漢藥、綿タオル、晒全巾、絹布、莫大小製品等は法幣安を利用して香港を經由し、今後盛んに進出して来るであらうし、香港加工のマニラ麻の當國向輸出も増加するであらう。

元來、香港は當國とは最も深い港で香港、盤谷間に運賃低廉なる航路あり、其の配船數も多く、且つ香港商人は資力裕かで當國商人に相當の金融もしてゐる。又彼等は其の財力により常に多量の品物をストックし、當市場の需給、状態を注視し、當市場の品不足を知れば近距離を利用して急速に積出を行ふので當國對日取引には大なる障害となるのである。従つて香港自體の有する地理的好條件と法幣下落による支那製品の輸出力により香港經由支那貨物は將來益々我が輸出品に大なる脅威を與へるものと考へなければならぬ。

印度の當國向主要輸出品はガニー袋、生地綿絲、パライ等であり之等は自國內に於て相當な生産力を有してゐる。

殊に印度からのガニー袋は當國對印度全輸入額の半ば以上を占むるもので米包裝用として當國米輸出の情勢が直ちに此の需要増減に關係するわけである。北米合衆國の當國向主要輸出品は銅、煙草、電気機器、機械及び部分品等であり之等は歐洲諸國の供給力減退に伴ひ次第に市場が有利に展開するのであるが、今後當國の對米輸入額は益々増加するであらう。

支那の生果、乾果、麵類、藥味、茶、野菜、絹布、陶磁器、竹製品等は法幣安に依つて今後の當國向輸出は愈々促進されるであらう。但し茲に支那と稱するは香港を経て來るから統計上は香港を仕出地としてゐる。

扱我國の對泰國輸出は今後右の如く變移すると豫想せられてゐるが之を基礎として將來當國向本邦主要輸出品の競争品となる可きものを舉ぐれば支那、香港の茶、乾物、陶磁器、莫大小製品、金巾、タオル、絹布、印度の綿絲、パライ、米國の電氣機器、機械及び機械の部分品等であると考へる。

然し乍ら要するに日本は地理的に見ても歐洲戰爭に介入せざる處より見ても現在最も恵まれたる状態にあり又當國經濟界も最近の米輸出數量及び價格より見て次第に活況を呈するであらうから今こそ我國商品が當市場に進出するに最適の時期と言ふ可きであり本邦生産力の擴充と輸出入統制とが圓滑に進展するならばゴイコット亦差して憂ふるに足らずと信ずる。

加之、當國と日本との間には來二月を期し、愈々待望の定期航空路が開通することとなり日泰間の連絡は茲に益々緊密の度を加へることとなつたから之を機會として今後本邦商品が大いに當市場に飛躍せんことを希望する次第である。

以上

(昭和十四年十二月八日バンコック貿易輪旋所第一七五〇號)

雜苑

○日タイ航空協定の調印式に就して

航空局國際課長 大久保武雄

願れば、大日本航空會社の前身である日本航空輸送會社が設立せられてから十一年になります。然るに我國は未だ國際商業航空の槍舞臺に乗り出す機會に恵まれなかつたのであります。私どもは東京や大阪の商工團體から幾回ともしれず國際商業航空路開設の陳情を受け、又帝國議會からは國際航空路開設促進の決議案の可決によつて鞭撻されたのであります。更に泰國や濠洲に在つて祖國日本を背負つて奮闘して居られる海外の日本人團體からは度々熱心なる國際航空路開設の叫びを聞いたのであります。私どもは國內及國外の同胞から國際航空路開設促進の要望を聞く毎に實に相濟ない、何とかして内外同胞の熱烈なる期待に副ひたいと念願し常に不斷の努力を續けてゐたのであります。

然るに今回の日泰航空協定は昨年の六月泰國側から協定文の提案がありましてから交渉は圓滑に進捗し去る十一月卅日盤谷に於て無滞調印を了したのであります。調印式の行はるゝ十一月卅日、盤谷は日本の初夏の如く爽かに晴れ渡つてゐました。此の日、泰國革命の英雄ピブン總理は官邸の調印式場にてこやかに笑ひ乍ら日本側の一行を迎へま

した。ピボン總理は泰國の革新政治の中心人物であり強靱なる意志と確固たる信念とを以て泰國の政治を指導して居りますが、彼は如何にも會ふ人に柔かな印象を與へる人物であります。握手をしても案外柔かな掌をしてゐます。顔も柔和で人に親まれます。彼は一世を怒號する豪快さや世の中を嘲哂する妖氣は持つて居りません。如何にも物柔かでありますが併し一旦國事を決すると断乎として邁進します。茲に彼の革命政治家としての青年に對する信望の源泉があるのであります。村井公使とピボン總理との間に歴史的な調印が終つた後で、私は永井遞信大臣のメツセージを朗讀致しました。彼はこれに對し自分も亦永井遞信大臣と等しく民間航空を通じて日泰間の親善なる關係を一層緊密にしたいと答へました。

私は日泰航空協定は三つの意味に於て其の意義を有してゐると考へるのであります。

即ち其の一は、日本人の海外發展の氣持を一層軽くするといふことであります。私は本年四月そよかぜ號でイラン國へ参ります途中盤谷に立寄まして今回は二度目でありました。事實私自身の氣持から致しますと、今回盤谷に参りますのは、何だか九州に邊に旅行する位にしか考へませんでした。それで出發の時も『一寸盤谷に行つて参ります』と挨拶しましたら一寸とはひどいではないかとからかはれましたが事實私の氣持は『一寸』といふ言葉が一番びつたりとくる氣持でありました。現在廿日近くを要する行程が僅か二日に短縮されるといふことは、單に時間のみ問題ではありません。新しき空の交通路の開拓により、如何程日本人の海外發展の氣持を軽くするかは、想像以上であらうと思ひます。今や我國にあらゆる意味に於て常に世界を家とし、深い認識と廣い識見の下に國家の進歩を企圖すべきの時機に際會して居ります。私は此の時局に於て、日本の國際商業航空の開拓が、雄大にして飛躍的な國民精神の向上に何物かを寄與することが出来ずならば非常に幸であると思ひます。

第二は、泰國の民衆に日本の民間航空の實力を知らしめることが出来ることであります。南方諸國に於ては、まだまだ日本の最近の航空界の實情といふものは充分に知られて居りません。日本の商業航空機が幸にも南方の空を快翔しますことは、それ自體が我國の國威を發揚するものであるといはねばなりません。

第三は、民間航空を通じて日泰間の親善が促進されるであらうといふことであります。從來日泰間の交通は必ずしも満足すべき状態ではなかつたのであります。即ち歐洲から空路五日を以て盤谷に到着してゐるに不拘、我國からは船便で廿日近くを要してゐたのであります。此のことは我國の貿易其他政治經濟の各般に如何に不便を與へてゐたかといふことは想像の外であります。現に私どもは歸途十二月十四日河内を發ちます迄、私どもが東京を出發する前の十一月廿一日の新聞しか見ることが出来なかつたのであります。之に對し歐洲からは五日前の新聞が到着し新しい情勢を詳しく知ることが出来るといつた状態でありました。此の東南アジアに至る歐洲と日本との交通の懸隔は一體何を意味するでありませうか。空間と時間とが全く逆となつてゐるのであります。泰國は地圖の上に於てはアジアにあります。即ち空間の上に於てアジアにある泰國も、時間の上に於ては正しく歐洲にあつたのであります。時間が空間を支配し國際的な政治と經濟とを支配する今日に於て、此の交通の懸隔は我國にとつて誠に致命的であります。然るに今回は日本からは他の如何なる國より早く泰國に達することが可能となつたのであります。泰國は地圖の上に於てのみならず、時間の上にもアジアの日本と緊密に繋がることとなつたのであります。私は日泰定期航空開設の日こそ、アジアの泰國が眞にアジアに還る日であると確信するものであります。更に此の航空路は泰國を経て英國、佛國和蘭の航空路と連絡することが出来るのでありますから、世界の交通に貢獻し、人類文化の發展に寄與し得る點も蓋し少からざるものがあるのであります。

此の日泰航空協定の調印の直後泰國では一年中で最も大事な國家的祝祭日である憲法祭が始まりました。

憲法祭といふのは、今から七年前ビョン總理等が企てた憲法革命が成功して新しい憲法を發布した十二月十日を記念するお祭であります。それまで泰國は專制政治であつたのでありますが、その時以來立憲政治となつたのであります。此の憲法祭では色々な行事が行はれますが、中でも主なものとしては憲法の複本を擁して青年學生が街を行進したり、新興産業を宣傳する爲に博覽會を開いたり、健康増進の爲に體育會を行つたり、ミス・タイを選ぶ美人投票會が行はれたりします。

泰國の乙女に付ては一つの美しい戰物語があります。それは今から四五〇年許り前泰國のコラトといふ町にクンジン・モーといふ一人の少女が住んでゐました。アユチャ王朝の下に在つて平和な生活を樂んでゐたコラトの町はカンボヂヤ軍が攻め寄せてきた爲に一朝にして戰亂の巻と化したのであります。首都アユチャを守る前衛コラトの町はカンボヂヤの兵の重圍に陥り、コラトは守備兵不足の爲女も亦劍をとつて戦線に立つたのであります。かくて激戦が續きました。ある日泰國の守備兵はカンボヂヤ軍の奇計にかゝつて巧みに城外におびき出されたのであります。留守のコラトを守る少女クンジン・モーは城壁に立つて歩哨の任務に服してゐましたが、彼女は直ちに之を市民に傳へました。かくて虎視眈々として城内突入の機をねらつてゐるのを認めたのであります。彼女は直ちに之を市民に傳へました。かくてコラトの乙女等は黒髪を切り、劍をとり、男裝して、カンボヂヤ軍の奇襲に備へたのであります。かくてカンボヂヤ軍は遂に攻撃の機を逸して敗退しましたが、かよわき腕によく國難を支へた泰國乙女の誇りは、今尙彼女等の肌秘めて居ります。ミス・タイの選出は單なる美の満足ののみではありません。それは泰民族の爲のよき妻、よき母を求めんとするのに其の目標があるのであります。ビユテーイ・コンテストのステージに立つ現代泰國乙女の潑刺たる姿を

見て、私は泰の民族精神が彼女等の胎内に産れ来るの日を待望したのであります。

憲法祭は此の如く色々な催があります。それは泰國革新政治の一大示威運動であるのであります。何故かといふならば、現在の泰國の政治は總て憲法の綱領となつてゐる六大精神から生れてゐるのであります。法權、財政、經濟の獨立擁護、治安の維持、民衆福祉の増進、平等權の保持、自由權の尊重、教育の普及、之が六大綱領であります。最近の泰國の政治的成功である治外法權の撤廢や、國防の充實や、農村信用組合の開設や、人材登用、民族的教育制度の徹底等は此の憲法の精神から生れてゐるのであります。私は泰國近代に於ける民族主義の興隆を見る毎に、年未だ四十二歳、若きビョン總理の信念と英斷とに敬意を表するものであります。

私どもは泰國滞在中我等の祖先山田長政の墓に參詣したのであります。山田長政の墓は昔の王城の地アユチャにあります。メーナムの流が滔々として岸を洗ふところ、青々とした林の中に朱い鳥居があります。その鳥居の奥にある小さな祠、これが日泰交通の開拓者山田長政の靈廟であります。今から三百年前我等の先輩は海を越えて泰國に渡りました。然るに今や我々は空を飛んで泰國に向ふことが出来るやうになつたのであります。一本の權の代りに操縦杆を握り、一枚の蒲帆の代りに銀翼を張つて、嘗て我等の祖先が越えた波濤の上を、プロペラの音高く南に飛行することが出来ることゝなつたのであります。三百年の昔一千人に近い日本人が日本町を建設し、信義を以て泰國人に畏敬せられたその土地に立つて、私どもは往時を追想し誠に感慨無量なるものがありました。私は泰國の爲に奮闘し國王の爲に忠勤をぬきんで、遂に奸臣に謀られて毒殺された英雄山田長政の靈を慰むる爲に、永井選信大臣の花輪を捧げたのであります。アユチャ王朝がビルマに亡びされて二百年、草深き堂塔の跡は昔の榮華の佛を傳へて居ります。併しビルマは既に亡びカンボヂヤ又滅亡した今日、泰國のみは儼然として獨立を保持してゐるのであります。世界は

流轉し運命は數奇であります。ほの／＼としてアジア民族覺醒の曙光あらはるゝの時、私は泰民族の發展を祈りつゝ、山田長政の墓前を去つたのであります。

泰民族は最早決して眠れる白象ではありません。海上交通をシンガポールに制約されて、アジアの裏門でしかなかった盤谷は今や航空路の發達と共に亞細亞と、歐州と、蘭印濠洲とを結ぶ國際航空路の一大要衝となつてきました。空の交通の上に於てはシンガポールの地位は盤谷に奪はれてゐます。現代文化にとり残されてゐた泰國は近代交通の發達と共に漸く文化に目醒めつゝあります。私は新しく締結せられた日泰航空協定が日泰兩國の發展と新しき亞細亞の建設の爲に何物かを加へることが出来るならば非常に幸であると思ひます。

○衆議院議員團の「タイ」國訪問を語る

山 口 武

衆議院タイ國派遣議員團一行は本年十月十四日神戸より商船西貢丸にて出發、西貢より陸行タイ國東部國境を経て同國に入り、鐵路上より米作中心平原を視察しつゝ十一月一日盤谷着、滞在十一日間、十一月十一日同地發再び鐵路によりタイ國馬來半島を西南下し、新嘉坡に出で同地より國際香久丸にて十一月廿五日神戸着歸京した。我が衆議院議員團のタイ國訪問は、大正八年原内閣當時愛媛縣選出政友會代議士で、タイ國とは縁故深い故政尾藤吉氏が團長として一度訪問したことがあるも、當時に於ける兩國間の關係は今日程ではなし、又其際同國の政體は君主獨裁制で議會

政治とは全然交渉であつたから、タイ國の關心も薄いものゝ様であつたとのことである。

然るに今回は之と異なり、日本タイ兩國國家と國民は今や政治外交産業交通文化諸方面に於て其關係愈々密邇ならんとしつゝあり、況んや近時の極東に於ける國際情勢の趨向は、自然同國の國際的位置にも亦變化を及ぼし來らんとするものあるに於てをやである。次にタイ國は昭和七年の政體變更後は憲法を施き議會政治を實行して居る、殊に其議會は一院制で普選に依る人民代表議會である。そうして議會政治初まつて以後、諸約國議會代表の公式訪問を受くるは今次を以て嚆矢とする。之同國人士の深く欣んだところである。加ふるに我が國とは昭和十年中同國議員が非公式ながらも多數來訪せし際、朝野より懇なる接待を受けたこともあり、旁我が議員團の訪問に對しては議會及政府で衷心より之を歡び迎へた。又市民歡迎の意味に於ては盤谷及トンブリ兩市長主催の歡迎會あり、我が議員團は親しく重なる市民と握手の機を得たのであつたが、タイ國に於て市長主催の外賓歡迎會は未だ會て例なき事であると云ふ。滞在日程は別記の通りであるが、就中三日人民代表會議議長の公式歡迎晩餐會と、十日國務總理主催の歡迎コクテールパーティーは最も盛大且鄭重に行はれ、席上タイ國藝術局女學生團は特に作られたる日本議員團訪問歡迎歌踊の妙技を演じたのであつた。又議員團の舊都アユチャ市訪問の際には、同地の男女學生が列を作り手に日本タイ兩國國旗を翳して吾々を迎へ、團員一行も遙か異境に於て斯の光景に接し印象極めて深きものがあつた。滯京中數多き會合席上に於ては、國務大臣、參議初め政府、議會の要人は交互に出席、接待、我が議員團諸氏と顔を會し談笑の裡に交を親しくすべく努められた、團員中特種事項に付研究調査を欲する人々は官邊の好意に依り種々便宜を得たことは云ふ迄もない、今次タイ國朝野の斯の熱誠なる歡待に對しては、我が議員團一行も尤二分に満足感謝に見受けた。左に議員團一行の氏名を掲ぐる。

團長 衆議院議員
理事 同

櫻井兵五郎君(民)
大野伴睦君(政)
山川頼三郎君(政)
大石倫治君(政)
山本厚三君(民)
古島義英君(民)
高橋泰雄君(政)
飯村五郎君(議)
須永好君(社)
鈴木菊男君
山野雄吉君
加藤正男君
山口武

一、議員團タイ國滞在日程

十一月二日 午前九時、東部國境より鐵路により入國、貴賓車の提供を受け午後五時十分盤谷着、オリエンタルホテルに止宿

二日 休 養

日本公使館訪問

三日 午前、宮内省初め各所へ署名歴訪

午後、人民代表議會議事堂に於て議長及副議長と會見

外務省に於て外務大臣と會見

夜、議事堂に於て議長主催歡迎公式晚餐會

四日 午前、國防省燃料所視察

赤十字社病院視察、赤十字社副社長主催の歡迎午餐會

午後、王宮内寺院見物後官立兩大學對抗フットボール試合觀覽

夜 日本公使主催歡迎公式晚餐會

五日 午前、自働艇に依りメナム河バンルアン運河觀光

午後、新聞記者團と會見

日本人會主催歡迎茶會

夜 盤谷日本一タイ協會主催歡迎公式晚餐會

六日 午前、貴賓車に依りアユチャ並にバンパインパレス見物のため出發、アユチャに於て同縣知事主催の歡迎午餐會

午後、農務省所屬の自働艇によりメナム河歸路

七日 午前、自由

外務大臣主催歓迎公式午餐會

午後、内閣宣傳部訪問、宣傳部長主催茶會

夜、藝術局劇場に於ける觀劇會

八日 午前、國立博物館及テュラロンコン大學訪問ブラ・サラサス氏邸に於ける午餐會

午後、大學病院視察

人民俱樂部訪問、人民俱樂部會長主催茶會

夜、盤谷市長主催歓迎公式晚餐會

九日 午前、官立文政大學訪問、同大學總長（現藏相）主催歓迎公式午餐會

午後、タイ・セメント會社並にブントマ酒會社視察

夜、議長私邸に於ける送別非公式晚餐會

十日 午前、盤谷及トンブリ市内觀光、トンブリ市長主催歓迎公式午餐會

午後、國務總理主催歓迎公式コクテルパーティ

夜、在留日本商社主催晚餐會

十一日 議員團主催在留邦人招待留別午餐會

午後、貴賓車にて新嘉坡向け盤谷出發

茲に筆者は東京「日本タイ協會」會員として少しく附言するの一事を有する。前記の會合席上筆者は屢々タイ國人士より「よう山口君暫く」と呼びかけられ握手を求められた、見れば孰れも過去數ヶ年間の裡に東京を訪問したる人

人で話はタイ協會の近況と協會員の消息に及ぶのである。筆者は船便の都合上、退盤を一行より數日遅らしたが、出立前夜一席舊友のみ集つて筆者の爲め全然水入らずの送別會を催して呉れた。出席者は前盤谷、日本タイ協會々長ビヤ・シリバンチョン、參議内務副大臣ルアン・チャウエンスク、參議内閣宣傳部長ウイラトオサタナダ、商務局長ブラ・モンダ、警視廳特高部長クン・シーサラコーン、トンブリ市參與シムウイライワイタヤ、前盤谷市長クン・サマーハン、内務秘書官ネートブーンウイワタの八氏で、此の内最初の六人は去る昭和九年七月、我がタイ協會と日本商工會議所合同招致の日本産業視察團々員である。想ひ出談は秩父宮殿下の臺灣を仰ひで帝國ホテルで催されたる茶會、歌舞伎觀劇、扱ては遠く北海道網走刑務所視察旅行、富士登山の難行等々、熱帯夏の夜の更け行くを忘れるのであつた、當時少壯有爲の此の視察團諸士は、今や孰れもタイ國政界に於て重要な位置を占め、新興タイ國の隆昌を双肩に荷ふて居る。諸士が筆者に托したることは、協會々員並に滞日中好意を示されたる日本舊知へ呉々もよろしくとの傳言であつた。當時諸士の視察上、乍些少世話を爲したる筆者としては此れ程愉快なる使命はない。

本文を草し終つた際、十一月廿八日同盟ニュースは豫て商議中であつた日本タイ兩國の定期航空路の協定は、今回盤谷に於て兩國代表者間に於て調印を了したりとの快報を傳へた。筆者は東亞に位する此の二國が今や空の連絡を得て將來益々親密にならんとことを冀ふて擲筆す。(一四、一一、三〇、朝日山丸船中に於て認む)

○タイ國に於ける華僑問題

天 田 六 郎

一、華僑のボイコット運動

支那人が外國の勢力に反抗する爲めの常套手段として排貨運動を起すに至つたのは餘り古いことではないが、此の運動に關する彼等の訓練は實に能く行き届いたものがある。一度此の運動が本國に於て起されると響の音に應ずるが如くに時を移さず、在南華僑にまで及んで來るを常とする。而して之れが爲めに關係國の國民は獨り支那に於てのみならず南洋の各地に於てまで華僑の爲めに散々の憂目に逢ふのである。茲では在タイ國華僑の集團的勢力が如何に大なるものであるかの一斑を示す爲めに、過去に於ける同國華僑のボイコット運動の梗概を述べることとする。

タイ國に於て日本が支那人の排貨運動の對象となつたのは一九〇八年（明治四十一年）の辰丸事件が最初である。夫れ以前には日泰間の諸關係は薄く、又兩國間の貿易も小規模であり、邦人在留民も少數であつた爲めに、排日運動が團體的に行はるゝが如きことはなかつたものと思はれる。

一九〇八年（明治四十一年）辰丸事件に關聯して起つた日貨排斥運動の首謀者徐勤が香港を逃れてタイ國に入り、一九〇八年（明治四十一年）暮から翌年一月に掛けて盛に排日を煽動し或は激越なる排日文字を並べた傳單を貼り、

或は清皇太后哀悼會等に名を藉りて多數華僑を集め排日演說會を催す等策動らざるなかりしが、同國警視廳に於ては我公使館の請求に應じて、徐の行動を嚴重監視し又は支那人の集會を禁壓する等極めて機宜の措置を執つた爲め同排日運動は大した結果を齎すに至らずして終熄した。

元來徐勤は清國愛國黨員として其の頃漸次有力となりつゝあつた支那本國の革命運動に多數の日本人が加擔して居ると言ふ様な噂を基として、華僑の排日氣分を煽らんとしたものであるが、當時盤谷に於て新聞を經營して居た有力なる革命黨員陳景華なるものと徐勤との間の勢力争に排日が利用されたものとも傳へられた。尙當時の排日運動に就て注意すべきは、華僑商人が一般に穩和にして排日運動に興味を持たず、徐勤が多數の不逞運動を利用して煽動しても彼等は全く笛吹けども踊らず、甚だ冷淡な態度を示したことがある。

然るに越えて一九一〇年（明治四十三年）に至りタイ國政府の頭税増額に對して華僑の反對運動が勃發した。本事件の興へた最も重大なる結果と見るべきものは、華僑自身が其の集團的勢力の大なるものなることを自覺したことである。従て其の後に於ける華僑の排外運動に際しては、常に此の集團的勢力が用ひられる様になり、首謀者は努めて華僑の排外運動に際しては、常に此の集團的勢力が用ひられる様になり、首謀者は努めて華僑の民族的意識を誘發した跡が見られる。

一九一五年（大正四年）に於ては彼の所謂二十一ヶ條に關聯して各地に排日運動が行はれ、タイ國に於ては同年六月頃から同運動の徵候を現はし來り、漢字新聞社、精米所及中華總商會等の各機關が協力して蕭佛成、陳立梅、乾利陳子互等の指導の下に振興國貨團が組織せられ、(一)日貨處分、(二)日貨陸揚拒否、(三)違反者制裁の三項を決議し檄文を市中に撒布した。同運動は相當統制を保ち然も比較的穩便に行はれたるが爲めに官憲も直に彈壓的取締を爲す

に於ては却て支那人の反感を激發すべきことを恐れて始めは其の取締は十分でなかつた。

然るに日本公使館の嚴重なる警告に接するや漸次其の取締を嚴にした。即ち排日首謀者を強硬に説諭し、又幾何省大臣の名を以て日貨排斥運動禁遏の布告文を發し且つ警察官多數を波止場に派して本邦船の發着及日貨の積卸に十分なる警戒を加へたが、官憲の取締加はるに伴ひ一般支那人の雷同は有效に抑制せられ溫和なる華僑は排日運動から脱退するに至つたけれども、浮浪の徒は尙ほ利己的動機から運動を続けるものがあつた。爲めに排日運動は同年春から秋に至る約半歳の間續けられ終熄したが、日泰貿易上に多大の影響を與へた。而して當時最後まで排日運動を固持した不良分子は多く英佛兩國籍の支那人であつたことは相當注意を惹いた。

次に一九一九年（大正八年）春、支那本國に於て彼の山東問題が動因となつて排日運動行はれるや、盤谷の漢字新聞は一齊に之に呼應して排日思想の鼓吹に力め、六月頃「華暹新報」(蕭佛成)の如きは盛に激越なる文字を其の紙上に掲載したるが爲め遂に一時發行停止を命ぜられ、蕭の配下にして有力なる排日運動員たりし許超然は國外に追放せられた。又英字「サヤム・オブザーヴァー」紙(當時港務局長にしてタイに歸化したる錫蘭人「ディレク」社長たり)も盛に華僑の排日運動を賞揚し之を獎勵するかの論調に出でたるが爲めに外務省の警告を受けるに至つた。當時彼南、新嘉坡等に於ては排日運動が一種の暴動化した爲めタイ國官憲も十分警戒し、市中に巡察隊を繰出し日本公使なる日本人商店並に住宅に警察官を配置したるのみならず、邦商と取引關係ある支那商店にも私服巡查を配置したのである。同年六月末に及んで新嘉坡方面から排日運動員續々入國して青年愛國黨を組織し、多く強壓手段を用ひて華商の日貨販賣を中止せしめ、新規取引は一切見合せしむることゝしたが、此の狀態は七月一杯繼續し八月に入つて稍緩和するに至つた。當時の排日運動は全く少數煽動者の脅迫に基いたもので流言蜚語が盛に行はれ、約三ヶ月に亘

つて日泰貿易を阻害し邦商にも痛手を負はしめたが、他の諸地方に於て見たるが如き在留邦人に對する暴行又は侮辱等は行はれなかつたことは主として官憲の周到なる保護に依るものであつたが、事後に於て邦人商社等が中心となつて銀二千七百銖を醸出し之を警察官の利益の爲め使用することを條件として警視廳へ寄附した程である。

續いて一九二五年六月には支那各地に於ける排外運動殊に排英運動の餘波がタイ國にも波及し被使用人階級の支那人間に不穩なる行動をなすものあり、バンコック・ドック會社及ユニテット・エンジンヤリング會社の使用労働者が多數罷工したるを初めとし、其他英國系の商社は多少とも損害を被るに至つた。當時の支那に於ける排外運動は萬縣事件並に之に續く南京事件等に就て觀たるが如く、邦商及邦貨は排斥の直接對象とならなかつた爲めに、盤谷に於ては多くの損害を受けるに至らなかつたが、盤谷香港間の就航船は香港にて荷役不能の爲め繫船せられたるもの多數に上り、同地積替邦商扱の荷物の運輸も亦涉々しからざりし關係上邦商は若干の間接損害を受けた。

其の後昭和の時代に入つてからの一大排日運動としては、一九二八年五月濟南事件に端を發したボイコットを擧げなければならぬ。同年五月上旬濟南事件の顛末が盤谷に報せられるや、華僑は一樣に興奮し中華總商會を中心に排日團を組織して一般華僑に對し、(一)五月十五日から日本商人より、(二)同二十日から印度商人より、(三)六月十五日からは支那商人より夫々日本商品を購入することを嚴禁したが、支那人波止場労働者も亦本邦貨物並に邦商關係の船積荷役を全然拒絶し、更らに精米所は米の對日不賣同盟を決議するに至つた。之が爲め従來月額百五十萬銖にも達した日本よりの輸入は忽ち十分の一以下にも減じ、又米の新規買付は全く不能となり、日本船は定期不定期に拘らず一切來航を中止するの已むなきに至りたるのみならず在留邦商の第三國との貿易取引すら不可能となるに至つたのである。

斯の如き状況は翌一九二九年三月下旬濟南事件に關する日支交渉の成立後まで約一ヶ年間繼續せられたのであつた。尤も此の間、其の後半に於ては前半に比し餘程緩漫になつたのは事實である。即ち八月初旬鐵血團員が邦貨を取扱ひたる一華商を白晝狙撃して重傷を負はしめた事件が発生したが（該犯人三名は警察の活動に依り逮捕せられ無期徒刑に處せられたるも、其の後被害者が負傷に因り死亡するに至り更に裁判をやり直して死刑に處せられた）、夫れより九月、十月頃までが絶頂であつた。十月末に三井が能率低級なるタイ人苦力を使役するの犠牲を覺悟して生駒山丸を廻航し既約邦貨の輸入を敢行するや、排日團側に於ける支那人苦力操縦上の缺陷から是等支那人苦力の就業を見るを得て船荷の積卸に豫期以上の好成績を収めたので、これをきっかけに極めて徐々ではあるが排日は漸次に下り坂に向つた。而して日本船舶の廻航さへ見るならば、邦貨の輸入は華僑のボイコットに拘らず、爲し遂げ得らるゝことが明白となつたから華僑も平然たるものが出来なくなつたのである。況んや既に邦商と印度商人との關係は段々開拓せられつゝあつたし、又此の頃から華僑は内密の手段により或は印度人又はタイ人を通じて、幾分かづゝ邦貨の取引を開始するものも出て來た。日本からの船舶の入港は翌一九二九年四月に至るまでに九隻に及んだが、其の荷役には殆んど何等の障害も見なかつた。斯くて後半期に於て形勢餘程緩和したけれども、約一年近い長期に亘つたボイコットの爲め邦商の受けた打撃は甚大なるものがあり、同時に從來邦貨を取扱ひ來つた華商にも相當の痛手を與へたのは事實であつて倒産者すら出すに至つたのである。又輸出方面に於ては日本向特殊品たる碎米の如きは著しく安値となり、唐木の仕向も亦殆んど不可能となつた爲めに邦人の輸出商が損害を受けたるに止まらず華商精米所筋にも打撃を受けたものがあつた。その他、従前華僑を顧客とした邦醫の如きもボイコット開始と共に門前雀籠を張るの始末となつたものもあり、嘗て日泰貿易が大打撃を受けたるに止まらず、在留邦人は相當廣い範圍に亘つて非常なる苦痛を受けたのである。

のである。

一九三一年九月に至り更に滿洲事件が発生した。同事件に依る全支の反日氣分は直に在兩華僑全般に波及し、タイ國に於ける華僑も他地方に於ける支那人と歩調を合せて排日運動に氣勢を擧げた。即ち漢字諸新聞の論調は最初より矯激を極め華僑總會の全般的排日決議を要求した。總商會としては官憲の取締を恐れて唯だ部分的の同業組合、例へば米仲買商、雜貨商組合、綿糸布商組合が九月末より邦商との新規取引の中絶方を申合せた。其の結果十月から大口取引は殆んど停止した。但し當時の排日運動の特徴は日本商人排斥たるの觀あり、印度人、歐米人商社等にして日貨を取扱ふものは此の運動の對象とはならなかつた模様であるが、當時邦人醫師を訪れる支那人の新患者が激減した事實に徴しても一般支那人の反日氣分の如何なるものであつたかは回顧することが出来よう。

この排日運動に對する官憲の取締は相當嚴重なるものあり、殊に香港に於ける支那人暴動化の報が盤谷に傳へらるるや、華僑の間に動搖の色見えた爲め官憲の警戒は一層の緊張を示し、時の内務大臣ナコンサワン親王及商務大臣カムベンベツチ親王の如きは華僑團體が政治運動がましき行動に出るに於ては極力之を彈壓すべき方針を明にし、又英字紙「オブザーヴァー」紙の如きも（十月十五日附）社説に於て香港に於ける暴動に際し、英國官憲が適切なる措置を缺き事を未然に防止し得ざりしことを論難し盤谷の排日氣勢を殺ぐに役立つものがあつた。

斯くて當時の排日運動に於ては暴行沙汰の如きは勃發せず、表面概して平穩裡に續行せられて居つたが、翌一九三二年五月五日に至り漢字紙が號外を以て上海方面に於ける日本軍の形勢不利、白川、菱刈兩將軍戦死の虚報を傳ふるや市内の華僑商舖は一齊に青天白日旗を掲げ、爆竹を弄するものが出たる爲め、市内目貫の華商集落地街路に彌次馬多數蟻集し、附近にある邦人商店前にて示威的姿勢を示し、遂に邦人日の出藥房内に爆竹、石等を投込むものあり、

店主の急報に依つて警官數十名が現場に出動し漸く大事なきに至つた事件を惹起した。

五月末に至り綿布商中一味の者が會合し日貨抵制勸行の申合せをなし、同月二十九日綿製品取扱各華商に對して手持日本品の申告を爲すべきこと、並に隔日に検査員を派遣して現品の検査をなさしむべき旨を記載せる警告文を配布した。之に對し官憲は日本公使館の申入に基き綿布商の集會所たる華益公所を臨檢し、又有力商店内をも手入したる外、華商の多き區域に多數の私服を派す等の取締り振りを示し此の運動の出鼻を挫いた、而して此の間六月二日「國民日報」が排日記事掲載の故を以て發刊禁止の處分を受くる等の事件も發生した。この綿布商の排日運動は一部の者が外國品の手持ち多く、排日貨の緩和と共に日本品の荷動きを見來れる情勢より被る損害を免れんがために日貨抵制の再強化を策動するに至つたものと見られた。

斯る際、六月二十四日（一九三二年）全く豫想されざりし政治革命が突如として勃發し、警察首腦部の更迭等ありたるに乘じ排日秘密結社等は再び蠢動するに至り、七月中に脅迫暴行を受けたるもの二件を出し不安の氣分を漲らしめたが、同月三十日警察官憲は排日團體たる救國鐵血除奸團、同鐵甲團、六角團、敢死團等に一齊に手入し、首魁十六名を逮捕して直に之を國外に追放するの措置を執りたる爲め排日運動も著しく微温的となり、爾後は一進一退を繰り返りつゝ何時とはなく鎮靜に歸し、一九三五年三月我練習艦隊が盤谷を訪問した際に在留邦人團體の催せるレセプション等には華商有力者を多數招待せるに洩なく出席し、茲に排日運動の全般的終熄を見るに至つた。越て翌一九三六年には日本經濟視察團と中華經濟考察團とが相前後して、タイ國を訪問したる當時に於ける在留日本人と華僑との關係は極めて和親のものであり、兩者の諸團體間に各種の交驛が行はれた程であつたことは、在留邦人と華僑との關係上近年全く珍しいものであつた。

然るに一九三七年七月蘆溝橋事件を導火線とし、今次支那事變の突發を見るに及び華僑は又もや排日運動を強化するに至つた、即ち在留華僑の間に於ては地元暴力團乃至支那本國より渡來の排日運動指導員等が盤谷中華總商會又は僑務委員と連絡し、又場合に依りては脅迫、刺傷等の暴力行爲を以つて排日を強行したのである。而して之が運動の手段としては、(一)日貨不買賣、(二)言論機關に依る排日抗日思想の普及、(三)抗日國民政府に對する國防獻金募集運動等が擧げられたが、是等の諸手段は支那各地に於ける戰鬪狀況の進展に伴れ時に若干の伸縮緩急は認められたけれども、一般に在南華僑間の情勢の變化が期待せられた廣東及武漢陷落後排日貨は停止することなく事變の進展と共に現在も尙續けられて居る。

七月中は蘆溝橋事件が大々的に報道せられ中華總商會に於て寄々會合を催し、ボイコット開始の噂もあつたが一般は大體平靜を保つた。然るに八月九日大山中尉射殺事件突發し、砲火遂に上海に及ぶとの報道傳はるや俄然ボイコットは表面化し、中旬先づ一般雜貨商に於て手持既約品を除き日本品の取引中止を申合せるに至つた。

此の間、抗日救國聯合會特務團の名を以て日貨取扱華商連に對し盛に脅迫狀が發送せられ、横濱正金銀行買辦（支那人）も脅迫に遇ひ危險を惧れ退職するに至れる事件は邦人の雇傭する支那人間に少なからざる衝動を與へた。

八月二十六日駐支英國公使負傷事件傳へらるゝや漢字諸新聞は得たりと許り之を大袈裟に報道し、日本の暴戻を論難し更に一段と抗日熱を煽るところあり、精米所及米穀商組合に於ては八月末より米の對日不賣を申合せるに至つた。尙同月中排日記事の爲發行停止處分を受けたる新聞二（漢字一、支那系漢字一）あり漢字新聞に對する官憲の取締は嚴重を加へて來たと傳へられた。

九月中南京爆撃、日本海軍の支那全海岸封鎖、廈門、汕頭、廣東南支各主要都市空襲の報道は、南方出身者多き當

地一般支那人間に大なる衝動を與へ、南支よりの避難民の渡來激増と之に混る排日宣傳員の入國が傳へられ脅迫状の外、排日暴力團の横行が危惧せらるゝに至つた。

十月五日聯盟總會の決議案に對しタイ國全權は棄權したが、之に依つて支那事變に對する同國の態度闡明せられ、且内治警察の立場から排日運動の暴力化に關する當局の警戒は嚴重であつたにも拘はらず前記暴力團横行の噂は同月に入つて遂に實現化し、中旬より下旬に掛けて日貨取扱有力華商が暴行傷害を受けたる事件にして表沙汰となりたるものゝみにても八件が報ぜられた。

之に對し日本公使館に於ては日本商品取扱華商有力者の名簿を警察當局に提出し、其の身邊警戒に關する特別手配を要求した。此の要求は暴行の豫防には役立つたが、他の合法的排日手段は愈々廣汎となり、日本船に對する支那苦力の荷役拒絶、タイ鹽の日本商社に對する不賣、十月末、日本積出を最後とし日本商品の全般的取引中止の申合等が行はれた。

此の外總商會の申合に基き華商の手持日本商品百餘に對し二十五仙宛を徴收し國防獻金に充つるの方法も案出せられ、抗日特務團より監視員二十餘名を市中に派し、大華商の多いサンペン街を中心とする方面に於ては此等の監視員は華商を戸別訪問し、獻金及日貨不賣買を強要するなどのことあり、之が爲め同方面は一時殺氣立ち多くの商店は戸扉を閉じて難を避くるの始末であつた。

曾て十餘名の經濟視察團を率ひ渡來した(一九三六年五月)南京政府外交部代表凌泳が十一月始め再び渡來し、中華總商會を中心に有力華商連と屢々會合を催し排日運動方針の指示、愛國公債賣出し等の件を商議するところあつたと傳へられ、折柄東京に於ける國民有志大會が日本の對英外交關係斷絶要求の決議をなしたる旨の報道ありたるに對

し、漢字紙は之を捉へて日本は世界を相手に戰爭せんとする人道の敵なりなどと謂ふ激越なる論調を掲げたと相俟つて排日團の蠢動盛なるものがあつた。這般の情勢は十二月に入りて暴力傷害事件にして表沙汰となりたるもの三件を出すに至つた。パネー號擊沈事件入報當時の昂奮に引續き、新嘉坡より排日宣傳員約五十名の入國が傳へらるゝなどの爲に從來若干行はれて居つた所謂裏口取引は非常に困難となつて來た模様である。

以上の如き情勢に引續き南京陥落に由り一種の捨鉢的となつた排日團の暴力行使は顯著のものあり、一九三八年一月中旬邦商と取引ある有力木材華商が腕を切らるゝの事件に續いて邦商扱の日本仕向牛皮(三萬圓程のもの)積込の解舟二隻が何者にか盗み去られた事件突發したるが、これは各級の事情により排日團の所爲と推定せられ邦人の財産に直接に加へられたる加害事件として非常な衝動を與へたる處、越へて廿一日夜三井物産會社倉庫に放火したるものあり、是等の事件と相前後して過激の脅迫狀を邦商に送るもの多く在留邦人を不安ならしめたもの甚だ大であつた。

米取扱華商が救國稅として米一袋に付四仙宛を抗日特務團に納むることとなつたのは一月末から二月に掛けてのことであつた。

二月始め臺灣人商店の使用支那人が傷害を受けた事件が発生した。斯の種の先月來よりの暴力團の横行に對し警察當局は十二日遂に秘密結社員十八名の檢擧を斷行し、其の首領の外、共產運動に關係せりとの廉を以て二十餘名を共に逮捕し追放處分に附し、又英領馬來より入國せる排日指導員約六十名が棧橋に上陸するや之を檢束して同じく追放に處したるなど、官憲の取締振りや又經濟省に於ては同國の重要輸出品の一たる米の輸出が華商の排日運動に因つて多少とも阻害せらるゝことは、精米所が凡て華僑の掌中に在る爲めなりと同省直營の精米所を開設したるが如き處置に對しては漢字紙が民間の事業を奪ふものとして攻撃したるに反し、多くのタイ字紙の賛成と支持とを得たることは

排日運動の氣勢を殺ぐにも大なる効果があつた。

越えて四月より五月に亘り徐州陥落直前までの中支に於ける日本軍の戰略行動が外部には稍々緩慢なるかの感を與へたるもの、如く、之を以て恰も日本軍が不利なる形勢にありとなした支那人一流の新聞記事が盛に掲載せられ、之と呼應して一氣に日本軍を潰滅すべしと記述したる排日團の抗日愛國宣傳文も屢々市中に撒布されたが、其の割合には暴力團は活動せざりしもの、如く四月下旬日貨取扱華商の番頭の被りたる傷害事件が報道せられたるに止まつた。然るに徐州陥落の直後五月二十五日、市内福建茶行主人臺灣人王連彭が暴力團に殺害せられたる事件が突發した。同人は假令臺灣人とは謂へ日本籍民の生命に危害を加へたる最初の事件として一般在留邦人に多大の不安を與へたのである。

此の事件發生の爲め從來支那人らしさを假裝して營業を續けて來た多くの臺灣人も其の立場を明にすることを自衛上必要とする事情に迫られ、日本總領事館指導の下に臺灣公會を結成するに至つた。

五月下旬、廣東吳鐵城の代表と稱し丁培倫來泰し、在留華僑慰問獻金募集等の用務を以て華僑諸團體と接觸した模様であつたが、漢字諸新聞は其の機會に抗日熱を煽つたことは從來の例の通りであつた。

七月初め汕頭、海南島等爆撃の報道と共に抗日團の活動が傳へられ、殊に双七抗戰紀念日の直前には種々なる流言蜚語が行はれたが、遂に十一日及十二日の二回に亘り日貨取扱の支那人二名が刺傷せらるゝに至り、更に十九日には有力なる綿布商が刺殺せらるゝに及びサムベン街方面の大手問屋筋に甚大の恐怖を與へた。

尙双七紀念日には、一般華僑商は休業し一汁一菜の粗食、歌舞音曲停止等を申合せ實行せられた。

三月一日タイ字新聞が支那人を目して東洋の猶太人なりとする論議を發表し當時各方面の注意を惹いたが、七月十

五日文藝局長にして無任所大臣を兼ねるルアング・ピジットが盤谷大學に於て爲したる歐洲政局に關する講演中、支那人を痛く誹謗せる言辭あり、講演者が政府の要人なるに鑑み強く輿論を刺戟し、議會の問題ともなつたが是等の出來事はタイ國法治下に安易に生活する支那人が愛國抗日の名の下に國法を紊り又圓滿なる同國の通商を阻害する一部華僑の不逞に對して反感を持つタイ人輿論の一つの具現と見られた。

其の後中支方面に於ける日本軍の作戰の進捗著しきものあり、又南支各都市爆撃が盛に反復せらるゝ形勢となるや暴力團躍氣の活動となり、七月上旬に發生したる暴行事件は四件に達したるが他面在留日本人全部殺害計畫の如き噂の流布せらるゝなど不穩氣分頗る濃厚なるものがあり、更に中旬には六件の華商被害事件が傳へられた。

當時既に排日貨運動は年餘に及び市中の在庫品甚だしく減少し殆んど營業不能の状態となれる華商も續出し何とかして裏口取引をなさんとするものを生ぜんとするが如き形勢現はれたるが、前記の如き暴行事件の頻發と脅迫怪文書の横行の爲め斯る形勢も阻止せらるゝに至つた。

斯る状態に鑑み警察當局は暴力團本部を襲ひ、首魁九名を逮捕したる外、排日傳單撤布に當れる十數名を検舉したが、引續き警戒中の警察當局は九月一日及二日の兩日に亘り秘密結社團を検舉し、約三十名を逮捕し、次で十日には全市に亘る阿片吸飲所を根城とする浮浪人約五千名に達する大量檢舉を敢行した。

這般の兩回に亘る不良分子の檢舉敢行は各方面の稱讚を博し、排日團抑壓に多大の効果を及ぼした。而して之に對し有力華商等が公然と警察の措置を歓迎し、且つ不逞分子の掃蕩を喜ぶ言辭を洩せることは連戰連敗の蔣介石軍に對するタイ國華僑の信用減退と暴行を織込む排日運動を好まざる華僑の増加を語る證左なりと觀察せられた。

尙前記被檢舉人の大部分は支那人にして兩回に亘つて四千餘名が汕頭及海南島方面に追放せられたるが爲め、排日

運動が餘程緩和せられて来たことは之を否定出来ないものである。

更に當時廣東及漢口の陥落が不可避の形勢にありたる事が漸次一般華僑に認識せられ、蔣に對する信用も昔日の如きものなく、華商に對する抗日團の威壓も漸く其の力を失ひ來りたるや觀測せられたるか、月末に至り漢口陥落するや一層華商の心境に變化を齎したと傳へられて居る。

排日貨運動が斯る狀況を續けつゝあつた際、一九三八年末に至り彼の汪兆銘の和平勸告が發表せられたことは一般華僑に對して異常の衝動を與へたのである。

汪の國民政府部内に於ける地位に鑑み、其の和平勸告が一般より重視せられたのは勿論であつた。元來在タイ國華僑間の政治的勢力の分野は蔣介石派と汪兆銘派とが相半して居つたので汪の和平勸告の發表に驚いた蔣派は俄然騒ぎ立て、同派報道機關を總動員して汪を賣國奴と罵り且つ抗日運動徹底の必要を絶叫するに至つたが、之に對しては流石に汪派も直に汪追従の態度は表明し得なかつたが、一般華僑の動搖は覆ふべくもなく、一九三九年一月には國民政府外交部駐泰商務處主席陳守明は飛行機にて香港より重慶に赴き蔣と會談し、又中華總商會主席蟻光炎も佛印河内方面を訪れたと謂はれて居る。

斯る情勢は直に排日貨を停止せしむる迄には至らなかつたとしても、猶一般に對して日和見の態度を持せしむるに效果ありたるは疑のない處にして、爾來排日貨運動も大に緩和せられ、所謂裏口取引も行はるゝ様になつた。

尙排日運動に關し茲に附記すべきことは濟南事變當時に於ける排日運動の遣り口が從來の運動と頗る趣を異にし、其の方法が極めて巧妙になつたことは注意に値する所である。即ち同排日運動が内部に於て周到なる組織的統制の下に行はれたことは勿論であるが、外部に於ては世間の耳目を敬てしむるが如き暴行爲に出づることを慎み、或は傳

單の貼付若は配布又は新聞紙上に於ける矯激なる言辭等に由りたる從來の如き派手な遣り方は初期に於ては相當あつたけれども全期間を通じて觀るときは努めて之を避け、主として所謂潛行運動に重きを置いた様と思はれた。これは蕭佛成の如き何十年來に亘り斯る運動に訓練せられて來た所謂老巧者の經驗の結果であつたらうと考へられる。

惟ふに對日ボイコットの爲めに輸出入ともに華僑商人が大打擊を被ることは極めて明かであるから、彼等が進んで自發的に左まで強硬なる排日を行ふと謂ふことは到底考へ得られないにも拘らず、斯く久しきに亘りて團結して執念深く排日を繼續したのは其の裏面に行はれた暴力の威嚇が容易に想像せられ得るのである。單に彼等の表面唱ふるが如く華僑の愛國的衝動が期せずして同一行動に出でしめたものでは到底あり得ないのであらうが、然しそれは要するに想像に過ぎないのである。表面には何等の事實が現はれないのみならず、威嚇を受けた筈の當人すら全く緘黙を守るは勿論、後難を恐れて却て之を否認するからである。これが官憲の排日運動に對する取締をして非常に困難ならしめた所以であり、同時に又排日運動が長期に涉つた理由でもある。尤も暴行の事實が全然表面に現はれなかつた譯ではなく、前にも述べた通り鐵血團員の華僑狙撃事件が発生したが、此の事件以來支那人の暴虐に對する輿論の忿怒が起つた、英字新聞もタイ字新聞も支那人が第三國に對する政治的運動をタイ國に於て行ふことの非理を攻撃し、第三國人に對する敵愾心の爲めに同國の社會秩序を破壊するが如き行爲に對してはタイ政府は徹底的に之を取締らねばならぬと論ずることゝ於て一致した。

ボイコットの初期に於て可なり日本人に對して毒づいて居た一英字新聞の如きすら大に態度を改めた。更に商品の賣買は商人の自由であり、從て此の自由に立入りて取締をなすことは全く困難であると當初、遁辭を構へて居た官憲も此の輿論の後援を得て可なり躍起となつて取締に努力した跡が見られた。

濟南事件に由り起つた排日運動に現はれた以上の趨勢は滿洲事變及支那事變に關聯して勃發した排日運動に於ても亦同一方向を取り排日運動は益々潜行的となり愈々組織的となつた。而して英領馬來方向に於て排日運動が屢々暴行の形となつて行はれたるに反し、タイ國に於ても斯る現象は見られなかつた。勿論日貨取扱華商が時に刺傷せられたるが如き事件は發生したるも、其の方法に於ては英領馬來方面の狀況とは非常な相違があつた。

この相違はタイ國官憲の取締に歸すべき所も尠くはない。即ち同國政府が最近國家主義的立場から華僑を對象とする措置に出づること多く、寧ろ在任華僑の勢力減殺を意圖せんとするにあるものと見らるゝ所もあるのである。加之在留華僑が本國支那に對する愛國に名を藉りて在留國の治安に影響あるべき運動を爲すが如き行爲を嚴重に取締らんとすることは當然にして、此の間の消息は政府が一九三七年寄附募集取締令を公布し又一九三八年秋に於て支那人の大規模なる檢舉及被檢舉者の大量追放を敢行せる等の事實に付之を知ることが出来よう。更に注意すべきは最近の華僑の排日運動には往々にして、共產黨系分子が指導者の立場に座する傾向が見られる點であつて、斯る傾向の如きも共產主義の流入を極度に警戒するタイ國官憲をして支那人の取締に付尙一層留意せしむる有力なる原因の一と稱し得るのである。

二、日タイ貿易上に於ける華僑の地位

華僑がタイ國に於て經濟上の實權を握り、莫大なる實利實益を壟斷して居る實情は苟もタイ國と貿易關係を有する諸外國はこの華僑の勢力を無視することを得ないのである。

我日本とタイ國間の貿易の如きも華僑が之に持つ割合は大きいのである。日泰貿易の統計表に示されたる數字を見

るに次の通りである。

	タイ國への輸入	タイ國よりの輸出
總貿易額	一九三七—三八年 一一一、八二四、四八一銖	一九三七—三八年 二八一、三二七、〇〇銖
對日貿易の占むる割合	一九・七%	三・四九%

此の外、輸入貿易に就ては新嘉坡及香港の二仲權を経由して輸入せられる日本商品は可なりの數量に達して居るから、實際の日泰貿易の數字はタイ國の貿易上に於ては、輸入に於て約二割、輸出に於て約五分を占めて居るものと見ることが出来る。此の日タイ貿易が事實、何人の手に依りて行はれて居るかと言ふ輸入商として邦商、華商及外商、又輸入品の消費者に對する直接供給者たる小賣商として邦商、華商及印度商を擧げることが出来る、然らば是等の商人間に於ける華商の地位は如何、先づ輸入の部に就て見よう。

日本商品のタイ國への輸入額は香港又は新嘉坡經由のものを合して大體月平均額約二百萬銖と見ることが出来るのであるが、此の内三分の二を邦商の取扱に係るものとし、他の三分の一の内、大ざつばながら歐商及印度商の取扱は三分の一、支那商の取扱が三分の二と見ることが出来ることは強ち失當でないと思はれて居る。

輸入品中重要なるものは支那事變下に於て稍々異つて來たが、最近年の常態下に於ては綿絲布其の他織物類、海産物を主とする食料品、亜鉛引鐵板、陶磁器、硝子器、印刷紙、珪瑯鐵器、電氣用品、金屬製品等である。

輸入日本商品を直接消費者に供給する小賣商人の状態に付ては既に述べた通り全く支那人の手に依つて居ると云つて大過ないのである。勿論タイ人の商人がないとしても、支那人の外に印度人もあり、又邦商にして其の輸入品を自

から小賣して居るものもあり、更に英獨人等の商店にて日本商品を小賣して居るものがないではないが、夫れ等は恐らく大量ではない。畢竟、輸入日本商品の總額の約八割乃至九割までは少くとも一度は華商の手を通するに非ざるものはないと云つてよい實情である。

最近日本商品のタイ國に輸入せらるゝもの年額三千萬圓を超過する所以のものは元々、日本商品の品質及價格がタイ國人の需要に適合して居る結果であると思ふべきであつて、其の功を日本工業の發達に歸せねばならぬことは勿論であるが、之れが販路開拓の任に當つたものは華僑に外ならぬのである。彼等が薄利に甘んじ、而も國內隅々まで日本品を賣擴めてくれた功績は没却出来ないものがある。若し假に華僑が日本品を從來取扱ふことなく、日本商品の賣込は全く日本商人のみに任されて居たとしたならば今日の如き盛況は恐らく之を見ることが出来なかつたであらうと思はれる。即ち華僑あるが爲めに日本商品の販路は擴張せられて來たのであるが、他面に於てこの華僑あるが爲めに日本商人の發展は阻害せられた觀があるのである。

盤谷の華僑にして日本よりの直輸入を營むものは神戸に於ける支那人問屋の手を通じて取引するを普通として居る。次に日本に對するタイ國よりの輸出品は支那人事變下に入つて幾分異つたが常態時に於ては米及チーク、其の他唐木護謨、獸皮等である。此の輸出貿易上華商が如何なる地位を有してゐるか云ふに、華商中直接是等商品の本邦向輸出に従事するものはないが、邦商及歐商の本邦へ輸出する米及木材の供給者は乃ち支那人の精米所及製材所である。尙ほ米にありては支那人精米所がストックとして香港へ輸出するものが本邦へ再輸出せられるものも相當ある。

更に日タイ貿易上に於ける華僑の地位を知る上に於て看過すべからざる一事として盤谷に於ける船荷人足が全部支那人なる事實に付茲に讀者の注意を喚起する必要がある。

タイ國に於ては日本商品は少くとも一度は華僑の手を経るのみならず、其の船荷の積卸は悉く支那人勞働者の手に依らなければならぬのである。タイ國に於ける華僑が日本との貿易上に占むる地位は蘭領印度や英馬來に於て華僑が貿易上占むる地位に比較して頗る趣を異にして居る點は能く了解することが必要である。華僑が通商貿易乃至經濟上壓倒的優勢を示して居ることは南洋各地とも同様であるけれども、就中タイ國に於ては單に優勢なりと云ふに止まらず其の全部であると稱して可なる點に於て特異の事情を有して居るのである。

他の地方に於ては華僑の外に稍々微力ではあるが日本商品の販路擴張の爲めに利用し得べき印度人や馬來人や爪哇人があり、又勞働者としては支那人に充分代位し得べきものを求むるに難くはないであらう。

然るにタイ國に於ては最近事情は變りつゝあるものとしても、商人も勞働者も全部と言はない迄も大部分が支那人である。故に華僑にして一朝、排日ボイコットを起すときは彼等の意氣込次第では、頗る徹底的に水も漏らさぬまでに日タイ貿易關係を斷絶し去ることが出来るのである。日支兩國の關係が複雑紛糾を極むれば極むる程、彼等の爲めに日タイ貿易が痛手を被むる機會は度重なる譯であるから、自然日タイ貿易振興策に付てはこの華僑の地位を十分考慮に入れなければならぬ所以が判るであらう。

○日本印象記

岡崎氏招致第二回泰國學生團十二名、昭和十四年五月四月神戸着、内地見學を終へ五月十五日歸國の途に着きたるが歸船後團員ブンチユーア・ブチンスワーン、ウドム・キョウキンケイウ、ウキワツ・アンドン、レック・ナクソーンの四君が各滞日中の感想文を寄せられたれば茲に掲載する。

〔一〕

滞日雑感

ブンチユーア・ブチンスワーン

二四八二年四月十六日の西貢丸は多くの群集と各種の言語で満たされ、此所に集つた男女は總て喜びに満ちてゐた。この人数は計へることは出来ないがその少数部分は日本へ旅立つ船客であり大部分は見送人である。正に四時(午後)船は汽笛を合圖に波止場を離れ一路本航路の終點東の國への航海に就く、この船客の中に日本タイ協會々員岡崎忠雄氏招待による日本見學タイ國學生十二名の吾々も加つてゐるのである。

船は約二時間にしてパークナムに着いたが干潮のため河口の淺瀬を乗り越えることが出来ず此處に一旦停止し翌朝二時灣に出で五時頃シーチャン島に着く。此處でも再び停止してバンコックから小舟で運んで来た米を積込まねば

ならかつた、大きな貨物船は全部斯かる煩さいことをせねばならぬのは河口の淺瀬の爲である。十八日の午前三時に至り船は此處をはなれた。

廿日の午前十一時半船は佛印のカムラン灣に入り日本向けの砂を積み込む爲又此處で停泊する。此處の砂は特別の品質を有し擴大鏡やレンズを作ることが出来る。日本人はカムラン灣の事は良く知つてゐるが砂の爲ではなく歐洲から廻つて日本攻撃に行つたバルチック艦隊の最後の寄港地として知つてゐるのである。このバルチック艦隊なるものは却つて東郷大將の艦隊に撃滅せられ、これが西曆一九〇四年の日露役の日本側の勝利の原因をなしたものである。砂の積込は小舟から大船に移すので非常な時間を要した。一方佛國當局は上陸を許可しないので吾々は船中で四日三晩も送らねばならなかつた。この間は非常に退屈であきてしまつた。漸く廿三日午後六時半に至り船は海防に向つて出帆することが出来た。

廿五日十五時船は海防灣に入る。水先案内が来るまで約半時間待ち十八時棧橋に着く。此處では上陸を許されたが船は翌朝一時出帆なので夜中までに船に歸らねばならなかつた。街は劇場や商店の灯の中に安南人の俥引の騒ぐ聲が入亂れてゐる。安南人の巡査らしいものがゐるが巡査か兵隊かわからない。此處で不便を感じたことは吾々一行は殆んど日本金しかもつてゐなかつたが日本金は兩替して呉れないことであつた。僅な銖を替へてもらつたら十銖對十三・六五ピアスターであつた。銀行ではもう三ピアスター程多いが夜だから仕方なかつた。吾々は買物をして船に歸つたのは二十三時過ぎであつた。船は午前一時海防を離れ日本領土の最初の寄航地基隆を指して一路航海の途につく。

遠近の燈臺で日本領土に入つたことを知ると間もなく船は基隆灣に入る。時正に十九時半、されど夜であつたのと當日は日本、天皇陛下の天長節の爲港外にもう一夜泊り四月三十日午前八時入港する。水上警察の人が船に乗りい

ろいろの身上について尋ねる。もしも怪しいと思へば上陸禁止されるのであるが、吾々一行は共に行った三菱盤谷出張所長新田氏と共に、その事情を話したので直ちに上陸出来た。それより直ぐ水上警察署に行き旅券の検閲をうけてから臺北へ行くべく停車場へ急いだ、汽車が出た後たつたので窮屈乍ら自動車につめ込んで臺北へ行く。基隆の町は支那式の町であり、下層階級には福建語が使はれてゐる。波止場の近くは大きな建物もあるが町を出ると山と野の間道で家は少い。兩側に商店の看板が多く立ち並ぶ道で約一時間で臺北につく。丁度そこへ日本人の案内が一人来てくれたが皆が空腹だったので先づパスを一臺やとつて菊本といふ當市一軒しかない百貨店に行き食事した。此處ではどんなものでも賣つて居り、賣子は、盤谷では一寸探せない様な綺麗な乙女ばかりで非常に愛嬌がある。吾々の目に珍しい新しいものは何でも買へる。此處を出てから臺北神社に行き一同記念撮影をする。日本では名所々に寫眞屋が居りお金を先に出し宛名を書いておくと後で送つてくれる。彼等の習慣として少しもだます様な事はないと言はれてゐる。日本では各地で外人の寫眞機持参を禁じてゐるのでは是等の寫眞師に好都合である。

神社へは丁度若い夫婦が参拜に來たが聞く所によると結婚式を挙げたばかりで、夫婦の誓を神の前ですべく來たのだといふことである。

今日は丁度日曜日だったので案内人が考へてゐた様に博物館見物は出來ず、仕方なく支那式の祠を見に行く。これは外形や書いてある文字等我國にあるそれと何ら變りない。只古代の龍を彫つた立派な柱があるので有名でその下の方は垣を造り保護までしてゐる。臺北市はそう大して綺麗な町でもない。十八時基隆に歸り食事と買物をすませて船へ歸つたのは二十一時半であつた。

翌五月一日午前十時船は基隆を出て全速力で日本第一の港神戸に向ふ。普通豫定通りなら今日は神戸に着く日であ

るがそれよりも三日おくれれてゐることになる。此船は全速力でも十三ノットしか駛れない。

五月四日、船は神戸につくと吾々のみでなく日本人乗客も皆この監獄の様な生活から逃れることが出来るので、喜びに満ちてゐた。船では寝る事と食べる事より他に仕方がないのであるが吾々は特に食事に困つた。船が水上警察署員が來るのを待つべく港外に淀泊したのは十時過ぎであつた。約半時間して警察官が四人ばかり上つて來たので、皆が検閲をうける爲列になる。警官は一々顔付などを見て舉動不審なものは居ないか見る。これが終つてから十三時船は棧橋に横付けになる。船がまだ停るかと思はれぬ中に新聞記者連中は船に來り色々の事をきく、彼等は誰よりも早く、乗船を許されて居り仕事の敏速を争ふ。されど彼等と話す充分な時間もなかつた。そこへ神戸駐在タイ國名譽副領事管谷氏も來られたので、自分は團長として一同を紹介した。次いで、岡崎氏から吾々の案内兼監督を委任された長塚氏も來られ、この他岡崎氏秘書、大谷洋行の大谷氏、名古屋日泰協會留學生を迎へて來た同會理事三上氏も來られた。吾々はこれらの人々に一通り挨拶をすませると、副領事から荷物をとつて税關へ運んで行く様命ぜられた。されど副領事が税關吏に話してくれたのと、タイ國學生の名譽の爲一般同様嚴重な取調べはうける必要はなかつた。假令調べられても吾々は禁止品や課税品をもつてゐないから何ら益はない。此處を出て約十分程歩いて五階建の商工會議所に行く丁度岡崎氏はこの會頭であるので、こゝで午餐會が行はれた。

商工會議所を出てから新田氏の案内で川崎造船所を見學する。先づ應接室に案内されお茶と洋菓子をお馳走になる。この應接法は何處の工場でも行はれてゐる習慣である。先づ最初に見たものは鐵をのせる車であつた。これは一時に十噸の鐵をのせて熔鑪に入れらしい。工場は大きな建物、庭園を有し鐵道も通じて居り、又多くの熟練工があるとの事、その規模事業の進歩してゐることは我國では想像出來ないし、又その詳細は此處に記述することも出來ない。

一時間ばかりで夕刻になつたので此處を辭し岡崎氏へ挨拶の爲念がねばならなかつた。この途中は大小の商店立並ぶ通りを記憶出來ぬ程右折左曲して車は進んで行く、我國と異なる所は道路に非常な上り下りがあることである。これは他の日本の町にも多いが運轉手は上手にこの間を進んで行く。自轉車も古いが危険の起りさうなものは全然ない。

約十七時岡崎邸に到着する。外壁の門から十分以上も登り道を歩いて家に到着する。家に入る前には皆靴をとつて入口に用意してあるスリッパをはかねばならない。これは日本に於ける客を迎へる習慣である。應接間待つこと程なくして岡崎氏は日本の「キモノ」を着て入つて來られた。暫く旅の事について質問あつてから、食堂に案内してお茶を御馳走された。この間愉快に會談し記念撮影を済ませてからプログラム通りの旅行を續けるべく同邸を辭した。これに先立つて同氏は庭園を見學さしてくれた。一寸知らないで入つて行くと人の家の庭とは氣附かぬ位大きく瀧や木もあり廻り階段も設け非常に綺麗である。

岡崎邸を出て約二十分間走り小路に入ると車は或る一軒の家の前に止つた。表には「タイ國學生團歓迎」と書かれてあつた。中に入つて行くと「キモノ」を着た日本の女が澤山ゐた。中には佛像や恐しい面を被た武士や鎧が置かれてあり、天井や壁には種々の彫刻が施されてゐる。廻り階段を昇つて部屋に入ると神戸の兼松會社支配人林氏とその一行が日本料理を用意して待つてゐてくれた。此處で始めてこれは菊水といふ神戸でも有名な日本料理屋であることがわかつた。この晩は「スキヤキ」を御馳走になつた。食事前に林氏は立上り挨拶してから、タイ國と日本は兄弟の國でありお互ひ手をつないで行くべきであるといひ又現在の日本事變、事にも云ひ及んだ。されど吾々はまた充分な日本語の知識がないので全部意味を解すことは出来なかつた。この挨拶が終ると吾々の中で一番良く日本語の出来るスバン君が立ちお禮の言葉を述べてから日本人と膝をまじへて食卓に附く。

約十七時廿五分頃吾々は林氏にお別れして、十七時五十五分發東京行の列車を捉へるべく急がねばならなかつた自動車で驛へ向ふ時はもう夜で兩側の商店には非常に多くネオンの廣告が輝いてゐた。停車場は高く作り上げてある。この時タイ國副領事や大谷氏らが吾々を見送りに來てくれた。汽車は十九時五十五分發で東京着は翌朝七時三〇分なので、一夜車中で過さねばならなかつた。皆が晝からの疲れが出てゐたのでそれ／＼眠つてしまひ眼が醒めたのは午前四時半であつた。この時はもう邊りが明るくなつてゐたので急いで顔を洗つて來て兩側の景色にみとれる。この朝生れて始めて本物の富士山の姿を見ることが出來た。日本人は彼等の誇としてゐる丈あつて非常に綺麗なものである山には頂上まで段々式の田が作られてありその間に浅い流がある。その他工場の高い煙突や車等がひつきりなしに目につく。又男女學生が自轉車にのつたり歩いたりして行き來してゐる。沿線の家は一般に木造で一階建てで低いが、小山の上の方には大きな邸宅も見られる。戦争に關する廣告も尠くなく、陛下の軍隊の武運長久祈るとか、長期戦に對する總動員とか、金賣上運動に關することが書かれてあり、軍用列車も毎日往き來してゐる。

五日七時半吾々は東京驛に到着、汽車が止つて下車すると新聞記者團が待ち構へてゐて寫眞を撮つた。驛へはタイ國學生、日本學生、公使館の人々を始めタイ國學生監督山口氏、日本タイ協會常務理事矢田氏、佐藤氏等がプラットフォームに待つてゐて迎へてくれた。これらの人々に一通りの挨拶すませてから明治神宮競技場側にある日本青年館へ自動車を駛らす。この第二建物の五階にある五〇一から五〇五番までの五つの部屋が吾々の宿泊所にあてられた。これは非常に大きなもので二つの建物からなつて居て第二の方は少し小さい。吾々は荷物を整へ身體を洗つてさつぱりした。所へ案内人がきてビール工場を見學に行くことを知らせた。九時十五分皆揃つて出て少しばかり歩いて皆が始めての地下鐵にのる。非常にこんでゐるが速い、地下鐵を降りてから又電車にのる。これも複雑で五分毎に往き來してゐる

が、満員で男女共立ちづめである。電車を降りてから上り坂を少しばかり歩いて十時十分に工場につく、應接室に待つこと暫くにして技師が来た。暫く話をしてから場内へ案内してくれた。新しく出来かけてゐる建物は東京で最高のものだと言つてゐた。彼等はタイ國の米でサイダー水を作りこれを味の無いソーダ水の代りに使ふものである。これはソーダ水よりはるかに味があつてよい。吾々は船に乗つてから歸りの船を降りるまで、ソーダ水は見たこともなく、サイダー水ばかりであつた。約一時間半ばかり見學してから應接室に歸つてビールを御馳走になる。十二時十分吾々は此處を辭して電車、地下鐵に乗り、三井物産本社を訪問する。エレベーターを降りると入口にタイ語で「タイ室」とかゝれてゐる。これは日本におけるタイ語教師佐藤氏のかゝれたもので、この爲簡單に部屋を探し得た。部屋の内部にはタイ國のチュートーのたこや、樂器や、ミスタイの寫眞や、タイ國の大きな地圖などがある。五名ばかりの日本人が仕事をして居る。訪問録に署名してから室長は日本語で話しかけて来たが吾々は充分意味がとれないのであきてしまつた。最後に吾々は此處を訪問した喜びを述べ室の事業に關するパンフレットを一部づつもらつてから室長の案内で東洋一の百貨店三越へ食事招待された。此處を出てから自動車で日本タイ協會へ向ふ。この間官廳街を通過し陸軍省、内務省、外務省、警視廳等を見る。すべて宏大なものである。約十四時三十分協會につき常務理事で十年ばかり前タイ國に駐在された前公使矢田氏に挨拶してからこゝを辭し、帝國議會見學に行く。協會から二十分程歩いて一寸した山の様な高い所にある議會につく。新しい案内人佐藤氏が手續されて入場の許可を得た。只今議會では國民に切符を賣つて軍事後投資金を集めてゐる。多くの日本人が見物に来てゐる。室に入る前靴をぬいで手にもち、そこをこなへつけてあるスリツパを履いて行かねばならぬ。天皇陛下の御部屋、皇族方の御部屋を始め大臣、大臣秘書、議長、副議長、書記官長、各黨代表、陸、海軍將校、國賓、外交團等の非常に多くの部屋を見た。會議所は二ヶ所に分れてゐる。

た、衆議院と貴族院がある。吾々は此處を一時間餘り見學してからタイ公使のレセプションに行かなければならなかつた。公使館は日本に於けるタイ國の模様の様なるものであるから、皆は非常な懐しきをもつて訪問した。約半時間ばかり歩いたり電車にのつたりして着、入口には二人の巡査が警備して居り、その奥には吾らが三色旗はうるはしくひらめいてゐる。吾々が到着したときは十六時半で公使閣下を始め書記官一同出迎へられた。公使館付武官ルオンウイーン氏、横濱駐在名譽領事、タイ人と關係ある實業家、曾てタイ國に行かれた日本官吏、タイ國留學生らと共に楽しい時を過す事が出来たが、残念乍ら僅か四十五分間でこゝを去らねばならなかつた。吾々はタイ人と共にもつと長くゐて、いろいろの様子も聞いて見たかつたが、外國語學校見學に行かねばならなかつたので十七時十五分こゝを辭す。十八時目的地的につく、この學校は殆んど全部の各國語を教へてゐる。タイ國語もあり教師は佐藤氏と獸醫學生マニット・バヤツカナンダナ君で生徒は十名ばかりゐる。二十分許り坐して見てゐる中に、授業は終つたので學生等は吾々を晚餐に招待してホテルにつれて行つた。今日は東京に於ける最初の日ですべてが珍しかつた。宿泊所に歸つたのは夜の十時で皆が疲れてゐたので何もせずねてしまふ。

翌朝六時汽車にのつて横濱に行く、當地駐在タイ國名譽領事は書記官を停車場まで出迎へに寄越してくれた。書記官はタイ國の旗をもつて来てくれたのですぐわかり、同氏の案内で市電に乗り大印のレコード會社に行く、領事は同工場で待つてゐてくれた。こゝは非常に大規模の工場でレコードの他は蓄音機ラヂオ等を製作して居り簡単に素通りして見ただけであるが一時間要した。それよりこゝを辭してキリンビールの壘製造工場を見學する。支配人は非常に丁寧に迎へてくれて詳しく説明してくれた。こゝでは殆んど人手によらず機械で作られてゐる。職工は女ばかりでこれは賃銀は安い結果は男子と變らぬらしい、場内には鐵道引込線まである。タイ領事はレコード會社もこゝへも一

緒に来てくれて通譯の勞をとつてくれた。

キリンビール工場を出てから、領事館書記官の案内で日本人の支那料理店へ招待された。横濱は日本に於ける唯一の支那料理の街で領事は副領事中川氏と共に素食を御馳走してくれた。

それより汽車に乗って横須賀軍港に行き、日露戦役に東郷大將が乗られた三笠艦を見る。同艦は陸上に揚げられてあり、彈丸の跡でこぼれたところはもと通り修繕されてあるが、一々はつきり印をつけ、又破壊されたときの寫眞も撮つてあり詳しい説明書をそへて參觀者にはつきりわかる様にしてある。戦争當時の乗組員全部の寫眞もあり、戦死者はその地位、戦死のときの様子をくわしく説明し、その衣類などまで保存されてある。殊に重要な人になると詳しく東郷大將が甲板で指揮してゐるとき露軍の彈丸がすぐそばに落ちた時の有様等は模型にまで作られて當時の様子をしのばせてゐる。兵士等全員は皆その讃辭を艦にかき残してゐる。これは參觀者全部をして當時國家の爲、命を捧げて戦つた兵士の武勇をしのばせる。艦にゐる間は最後まで兵士がゐてくわしく説明してくれた。自分等がゐる間にも主に小學生らしい日本の男女學生がひつきりなしに團體をなして見に来てゐた。或る學校では舟などを借切つて生徒をつれて見に来てゐる。青年教育に教科書ばかりでなくかゝる歴史の事實を用ひて愛國精神を吹き込むのも注目すべきことである。

横濱から汽車で大佛見學の爲鎌倉に向ふ。十五時五十分汽車が驛につくと盤谷駐在日本副領事天田氏が迎へに來られた。大佛は雨ざらしの所に作られてあり、銅製でさう大して大きなものでもない。鎌倉は日本における最良の海岸で夏には海水浴の客で一ぱいになり臨時に大きなホテルまで開かれる。鎌倉から汽車で一路東京に歸るや、急いで寶塚レヴェー見學に行く、されど到着したときはもう已に始つてゐた。これは主にレヴェーで劇は尠なく丁度盤谷で見

た音楽映畫の様である。されど西洋のものにはまだ及ばない。劇場は興行きがないが横に廣い。チャラムククルンよりは少し廣い様だが内部にはチャラムククルンの様な藝術が施されてない。二十時頃劇は一体になつたので地下の食堂で食事し再び入つて二十二時頃まで見続けた。變つてゐることは場内では喫煙が出來ず、煙草を吸ひたい人は特別に設けてある喫煙室に出なければならぬことである。

東京における第三日目は市内の名所見物であつた。朝九時に宿泊所を出て明治神宮、靖國神社、海軍館、歴史博物館、本願寺、淺草觀音、繁華街、上野動物園等に行く。この中で、最も感銘を與へたのは海軍館で、色々の水上戦の知識を與へ、その他日本國民をして無敵海軍の力を自覺させてゐる。その他日露戦争の寫眞や、東郷大將の様な有名な人を記念したり、現在日支事變の地圖や支那からの戦利品なども並べてある。この外片翼で敵機と戦ひ歸つた飛行機等もつて來て、國民をして愛國心をおこさせる良き材料としてゐる。このとなりに歴史寫眞の博物館があり、古代からの寫眞を説明付で並べてあり國民に簡單に彼等の歴史を知らしめる事が出來る様になつてゐる。

今日は午後三時半まで名所見物を物してゐたが夕方から日本タイ協會の茶會に招かれてゐたので、上野動物園から協會に急がねばならなかつた。

協會では大きな公式のレセプションとして、矢田委員長が歓迎の任に當られた。お茶を頂く前に會員一同を始めタイ公使共に記念撮影をした。お茶を頂いてから矢田委員長は立つてはる／＼海をこえて來たタイ國學生と面會する機會を得たことは愉快であるとの意味の挨拶をされ、これに次いで嘗て、タイ國に來た又世界中を廻つたことのあるらしいジャバン・アップロードの社長、中村氏が半時間にわたる演説をした。その内容はくはしく記憶してゐないが、大體次の様であつた。即ちアジアは黄色人のものであり、日本とタイ國は兄弟の國である。されど同氏はまたタイ國に行

かなかつた時はタイは何處にあるかも知らなかつたが、行つて見てその文化、風習、言語等日本のそれと非常に似てゐるのに氣付き兄弟の國であることを感じたと。又同氏は歐洲にある時は白人はあなたの國に自動車があるかと聞かれたりして非常な侮辱をうけた。されど吾々アジア人は、アジア人の誇りがあるのであり、アジアにおける白人の勢力は制限されるべきである。この爲に日本はタイ國と協力してアジア人のアジア建設に努力したいと。これに次いで吾々の中で日本語の相當に出来るものは立つて今日の歓迎に對する御禮の辭をのべて後、日本とタイの歌を歌つた。

協會を出て少し歩いてから、東京各大學のタイ文化に興味をもつ學生團の招宴に行くべく、或るホテルに入る。今夜の宴は賑やかなものであつた。團長とも云ふべき一學生が立つて長い演説をされ、かつてタイ國に居た磯部醫師がタイ國語に通譯されたがその意味は大體日支事變に關する事であつた。吾々の一人が立つて吾々に對して示された親善的態度に對するお禮をのべた。タイ學生は日本の學生と比べると政治的知識が少く、又そう大して關心をもつてゐない。日本の學生は吾々に色々の質問を發したが大抵政治や戦争に關することでは答へるのに困つた。日本學生の中にはタイ國がどこにあるか知らない人もゐた。彼等は皆アジアから白人追放に關することに非常に關心をもつてゐる。その夜は共に記念撮影してから日本學生らと共に立つて仲よく歸つた。

八日は案内人附で十一時三十分まで、自由行動が與へられることになつてゐたが、これは十五時まで延ばされ十五時から國際學友會館を訪問する。ここは日本における外國留學生の宿泊所で、日本外務省監督の下に立派な設備が施されてあり、日本語も勉強出来るし一月の宿泊料は僅か三十圓といふことである。こゝにゐるタイ國學生團がお茶を御馳走してくれた。

この夜二十時三十分吾々日本語の出来る四名は放送局に招かれて佐藤氏の作られた挨拶の文を読みに行き、J.O.A

Kの文字の入つた銀メダルを一箇づづ貰つて來た。

翌九日、日本の都であり又タイ人が日本に於いて最も多くゐる東京をはなれねばならなかつた。早く起き急いで荷物を整へ九時の汽車を捉へるべく停車場に行く。驛へはタイ公使館書記官を始め、男女タイ國留學生、矢田氏を始め多くの日本人が見送りに來てくれた。

十四時二十分汽車は名古屋につく。驛へは名古屋日泰協會理事三上氏、タイ領事、書記官等が迎へに來られ直ちに宿泊所に向ふ。宿泊所は大きな建物で、聞けば名古屋の日泰協會々長で資産家伊藤氏が孤兒育成の爲作られたもので、父母のない子や、父が戦争に行き母が一人で養ひ得ない子供等があつけられて居り、大きくなれば仕事を探してもらへるさうである。こゝの經營費は伊藤氏の出された財産で行はれてゐるさうである。

こゝで一休みしてから日本における名城の一である名古屋城を見學に行く、大きな石が使はれてゐる頂上には、八百六十磅もある純金の日本の魚が一對作られてゐる。これは一八七三年にウィーンの博覽會に出品されたことがあるさうである。

名古屋城を出てから覺王山にある佛教の寺院日蓮寺に行く、こゝには我がテラロンコン皇帝が御下賜になつた金の佛像が安置されてゐる。寺の習慣や僧の服装等はすべて日本の佛教式のものである。丁度吾々が訪問した機會に、整谷日本タイ協會書記ラビピット・サーリーが贈つた教書の講義の儀式が行はれた。こゝでお茶をいただき記念のお菓子を戴いて歸る。

この夜はタイ國名譽領事加藤氏が名古屋にゐるタイ國留學生と共に晚餐會に招待してくれた。名古屋における第二日目、即ち十日には朝九時半豊田紡績工場見學に行く、この工場の設立者豊田氏は日本におけ

る紡績業の創始者であり、工場の入口には同氏夫人の製作にかゝる同氏の銅像がある。工場は大きなもので機械は日本も西洋のもあり、職工は大低女である。こゝを出てから當地の日泰協會長伊藤氏招待の午餐會に同氏宅へ招かれて行く、邸宅はとても廣くその中に三上氏の家もあり、又同地日泰協會招致のタイ國留學生宿泊所もある。こゝで名古屋における伊藤氏經營の百貨店の支配人たる同氏の令息にも紹介された。同氏は各地に八つの百貨店をもつてゐるとの事である。同氏の宅を辭す前に吾々はタイ學生の家を見に行く。繁華街から離れとても静かな所で、その上日本の家族的生活をしてとても良い境遇におかれてゐる。伊藤氏はこれら學生の資金を出されて居るのである。同氏宅を辭してから同氏經營の百貨店へ招かれ行く、此處の百貨店も大きく東京のものに少しも劣る所はない。こゝを出てから宿泊所に行き身支度して驛に行き十七時六分の汽車で京都に向ふ。十九時四十分京都驛に到着、丁度その時滿洲國の少年團を迎へに來た日本の少年團が並んでゐる。滿洲國の少年團がまだ到着しなかつたので吾々に挨拶をして迎へてくれた。吾々もお禮の挨拶をのべた。

京都では日本式の旅館に一泊し、翌日九時名所見物に出掛ける。最初に行つたのは山の上にある清水といふお寺であつた。次いで今次事變に國家の爲命をすてた兵士の埋骨場を訪問する。入口の上り段には建設費を寄附した人の名がかかれてある。上は一萬圓から十萬圓位までである。この土地は國民の勤勞奉仕によつて作られたものであり、この近くに廣い公園があり、多くの人や男女學生が來てゐる。當地に於ける伊藤氏經營の百貨店支配人が今日の午餐會に招待してくれた。

約十三時午餐會場を辭して、登山電車にのる。丁度同じ電車に日本と滿洲國の少年團も乗り合せて日本少年團の紹介で滿洲國少年團とも挨拶を交し、お互各自の國の歌を歌つた。吾々はラック・ムアング・タイ(愛國歌)を歌つた。

ら彼等は非常に氣に入つたらしかつた。兩國の少年團は山の上で宿泊するので此處で別れ、峰から峰へ歩いて後ケールカーにのる。このケールカーは吾々にとつて始めてだつたので珍しかつた。今日は山の上で一番長く遊び歸りに京都御所を訪ねた。

京都の見物に關しては、伊藤氏經營の百貨店京都支店支配人の充分なる保護をうけた事を此處に感謝する次第である。

十九時三十分京都發、日本の工業都市大阪に向ふ。二十時十分大阪驛に到着するや、大阪國貿易協會書記古川氏、タイ領事館書記官片山氏や盤谷大谷商店の大谷氏らが迎へに來られてゐた。大阪では同地第一の西洋式の大きなニュー・オーサカ・ホテルに宿泊した。

翌五月十二日の朝は先づ大阪城見學に行く。城は新しく改築されたもので内部は大阪市の博物館とされてゐる。これより武田製藥工場を見に行く、これは百五十年前小さな藥商店から今日に到つてゐるもので、今では東洋第一である。こゝで晝食を御馳走された。

十四時鐘紡見學に行く同社は日本全國に四十ヶ所の工場を有し、支配人の言では世界第一の紡績工場であると、大阪の工場は淀川の側にあるので「淀川」といつてゐる。建物の中には二千五百人収容出来るらしい。従業員は三千人居り、中には病院、商店、クラブ、勉強室、新式の競技場、従業員養成所、慰安劇場まである。同會社では、又科學部があり布を作る原料の研究がたへず續けられてゐる。

十八時三十分桑原氏を代表とする大阪國貿易協會が晚餐會に招いてくれた。これが終つてから二十二時まで個人行動で買物することが許された。

十三日は大阪での最後の日だったので大谷氏に依頼して、電気化学館につれて行つてくれる様だのんだ。非常に立派な知識が得られるし、東洋ではこゝより他に見ることが出来ない、と前から聞いてゐた。大谷氏も吾々の願を入れてつれて行つてくれた。全く非常に良く出来てゐる。いろ／＼の電氣に關する効果利益をはつきりわかる様に説明してあり、各科とも若い婦人がゐて丁寧に説明してくれた。この地に尙又天文臺見學に行つた。こゝには廻轉式の宇宙の模型もあり、こゝにゐると全く大空の中で實物を見てゐる様な氣がした。案内人が来て丁寧に説明してくれる。もし天文学に興味を有し、又日本語の深い知識のある人なら非常な利益があらう。こゝを出てから露天の中にある博物館を見に行く、これは一寸變つたもので、今次の漢口攻撃の模型まではつきりわかる様作られてゐる。本物と同じ様な街の模型で黄河(揚子江か)にそつて走る兵士、タンク等から空には飛行機まで飛ばしてゐる。そしてその前に日本語で「國家安寧の爲に命をさゝげた兵士の事を想ひ起し、聖業遂行に兵士を援けよ」といふ様な意味の事がかゝれてゐる。この外に館内には各種の寫眞や戦死者の衣類等も滿洲事變當時からのもも集めてあり、又滿洲の建國及びその文化開發の様子等を詳しく地圖や寫眞や各種の資料で示し、又イタリーや、ドイツのポスターを並べてその愛國心を示し、又必要などときは大陸に多くの資源のあることも説いて國民の心を鼓吹してゐる。

下の地上に降ると日本軍が戦利品としてもつて來た支那の砲や、飛行機や、タンクや各種の武器も並べられてゐる。この地に北部支那の模型や支那家庭の様子などを示したのももある。吾々はこれを二時間餘りも費して眺めたが非常に効果的な愛國心吹き込の宣傳方法であると感心させられた。この建設には何十萬の金を費して居り見物人は汽車賃と入場料を支拂はねばならぬ。

十六時十分大阪を發つて十六時半神戸につく、岡崎氏の秘書商工會議所書記が迎へに來られ、波止場の近くにある日

本式の旅館に案内してくれた。この夜は神戸商工會議所の招待で神戸商業大學の生徒と晚餐を共にすることが出来た。大阪滞在の間は大阪タイ國貿易協會では非常な便宜を與へて呉れた。殊に大谷、古川氏は最後まで行動を共にして下さつた事をこゝに改めて感謝する。

十四日の午前はガス會社見學に行く、この會社のガスは全兵庫縣に供給されてゐるそうである。こゝを出てから大阪と神戸の間にある寶塚劇場を見物に行く。この劇は女子音樂學校生徒によるものであり、こゝには劇場の他に公園もあり、見物人は充分の娯樂をとることが出来る。吾々十人が劇を見てゐる間、一行の一人で體育教師をしてゐる人が大谷氏に願つて體育設備と水族館の見學に行つた。

十八時神戸に歸る。この夜岡崎氏は吾々の送別晚餐會をして下さつた。この夜は非常に愉快で吾々の中日本語の出来るものは日本語で旅行經過を申し上げたら、同氏も非常に満足された様であつた。この他岡崎氏自ら日本の歌を歌つて聞かせて下さつた。同氏は資産家で名士であるが、少しも威張る所なく親切な人である。今回吾々十二名が招待されたのにも私費を三千六百圓以上出して下さつたそうである。この事は昨年も行はれて居り、以後毎年續けて下さるさうである。思ふにこの事は岡崎氏個人として何らの利益がないのである。同氏は只タイ學生に日本の眞の姿を知らしめ、兩國の親善關係を深めるべく國家的立場から行はれてゐるのであり、誠に賞讃すべき行爲である。最後に吾々は同氏の幸運を祈る次第である。

この機會に同氏邸において吾々と撮つたサイン入りのアルバムが二冊宛皆に贈られた。吾々も記念にエナメル塗りの銀の額縁をお贈りした。二十時過同氏は吾々の航海の無事を祈りつゝ歸られた。翌日は日本における最後の日だったので皆買物に出た。各々土産を買ひ、中には日本金がなくなつてしまつて兩替所に急ぐものまで出来た。

十四時親切にしてくれた旅館の人に別れを告げ、一路車を三井埠頭に走らせ十五時出帆の朝日山丸に乗込む。神戸にはタイ人がないので見送りに来てくれたのは岡崎氏秘書、商工會議所書記、管谷泰副領事、吾々を案内してくれた大谷氏、長塚氏だけであつた。吾々は日本を出る日まで親切にして下さつたこれらの日本人に感謝する。

吾々は日本にゐたのは僅か十二日に達しなかつたといへ、將來の範ともなるべき非常に多くの珍しいもの新しい知識を得ることが出来た。

吾々は神戸灣に入つたときから感じた事は日本國とタイ國は非常に異つてゐるといふことである。即ち我國では到る處に原野荒野を見るが、日本では平地から山上に到るまで耕作され家が建てられて居るといふことである。到る處に道路、汽車、自動車を通じ老若男女がひっきりなしである。特に東京は人口六百七十萬以上も有し、ニューヨークにつぐ世界第二の都會である。そして國民は良く愛國心を養成されて居り、若い人は皆「アジア人の爲のアジア」といふことを自覺してゐる。何處に行つて若い學生と話しても必ず戦争の事や白人の勢力に關してきかれた。又宴會の後に多かれ少なかれ必ず戦争に關する話があつた。國民は愛國心といふことに到つては百パーセントまで教へこまれて居り世界の賞讃の的になつてゐる。

五月十六日十七時日本における最後の港門司をはなれてから、吾々は岡崎氏へお別れとお禮の電報を打つたら、翌日十七日十九時半岡崎氏の代理として秘書扇氏からの電報をうけとつた。

吾々から岡崎氏へ送つた電報の内容は次の通りである。

ニッポンヲサツテユクコトハナツカシイノデオカゲニナリマシテ アリガトウゴザイマシタ

そして十七日十九時半朝日山丸で受取つた岡崎氏秘書扇氏からの電報は次の如くである。

タノシイフネノクビライノリマス マタニッポンニキテクダサイオカザキサンカラミナサンニヨロシクオウギ

(二)

日本における國內事情とその文化の一端に關する

視察旅行經過略述（佛曆二四八二年）

二四八一年度盤谷日本語學校 特別科生徒番號一五二番 ウドム・キヨウキンケイウ

旅費出資者

神戸第一の資産家岡崎忠雄氏は吾々タイ青年に日本文化とその國內事情を紹介する目的で、私財の一部を投ぜられ昨二四八一年の始めに日本語科學生を日本視察旅行に招待された。この一行はシーカック・パヤーンにあつた前の日本語學校生徒五名とベンチャマ・ポビット學校日本語科生徒五名で案内人として三木先生が共に行かれた。降つて本二四八二年第二回旅行團が前と同様に招待されることになつた。今回は團長と共に十二名で盤谷日本語學校生徒から試験で選ばれた生徒と文部省が各學校から選んだ生徒から成つてゐた。岡崎氏が吾々タイ人に示された親切は忘れることが出来ないと共に同氏の御多幸を祈るより他に御恩に報ゆることが出来ない。若しかうして招待される者が増して行けば同氏の名聲はタイ人の間から忘れられることはないであらう。

第二回目被招待者の名は次の通りである。

特別科一名 即ち 小生(本文の筆者)

本科二年三名 (一) スバン・サエートマーン

(二) プラヤツ・テムカシエン

(三) ウキワツ・アングン

本科一年一名 シティフォン・オンレー

官立學校生徒 (一) ウドム・スツチャリツクン(ワチラウツ學校代表)

(二) ワーリック・セータブツ(スワンクラープ學校代表)

(三) タライバン・サニットランナアユツティヤー

(テーブシリソ学校代表)

(四) レック・ナクソーン(バーンソムディツ學校代表)

(五) ウキツ・ナグソーン(ボービツビムツク學校代表)

(六) サンタツ・サーラサーリン(ボービツビムツク學校代表)

バンコックより日本への旅、出發に先立つてバンコック日本語學校の先生や日本タイ協會では、日本における服装や風俗習慣に關して教へてくれた。又文部省では禮儀作法に關する指導をしてくれ、日本公使はお茶を御馳走して送別會を行つてくれた。又旅行中に日本公使館のブンチューア・ブヤンスワン氏は最後まで吾々の監督をしてくれた。

二四八二年四月十六日 この日は丁度日曜で吾々一行は三井埠頭にて西貢丸に乗込み、十六時盃谷を出發した。歸

へは數へきれないまで多くの人が來てくれた。吾々は三等に乗込んだのであつたが、波も大して荒れず涼しく楽しい船の旅が続けることが出來た。船中では日本へ共に行かれる三菱盃谷出張所長新田氏がいろ／＼面倒を見て下さつた。船中においては食物に關して少し食べかねる様なものもあつたが、日本へついでからの愉快さは船中の退屈を全く忘れさせてしまつた。

船はシーチャン島で米を積むべく一泊し、佛領印度支那のカムラン灣についたのは二十日であつた。この灣は佛國潜水艦フィニクシー號が沈んだ所である。こゝで吾等の船は日本へもつて行つて硝子原料とする砂を積むべく、三日間停り四月廿三日此處を後に再び航海を續けた。船は四月廿五日海防につきこゝで荷物と乗客をつむべく一夜碇泊することになつたので、吾々は上陸して町を見物した。こゝから廿九日まで航海をつゞけ臺灣の港基隆についたが、當日は丁度日本國 天皇陛下の御誕生日であつたので航海を休み港外に碇泊せねばならなかつた。この朝吾々も天皇陛下に對し奉り敬意を表した。翌三十日船は棧橋に横付けになり新田氏の招待で食費汽車賃を出していたゞいて臺北に行く。こゝは臺灣の首都で我々が最初に接した日本人の街である。此處に來るとまだ三日もかゝる日本島へ早く行きたくなる。こゝでは臺北神社と支那式の祠を見る(この島では人口の三分の一は日本人で他は支那人である)これより博物館に行くつもりであつたが時間がなかつたので百貨店に見に行く、五月一日船は基隆を出て神戸に向ふ。

神戸入港 五月四日木曜、船は神戸に入るや先づ最初に新聞記者團が迎へてきた。記者は先づ自分が一行の中で一番年長なので名前をたづね、感想きゝに來たがこの事は一行の團長たるブンチューア氏にまかせた。記者團は寫眞をとつてその日の夕刊にのせた。

案内人 神戸に入港して先づ最初に一同はタイ人が迎へて來てゐないかと探したが見あたらなかつた。しばらくし

て吾々の團長アンチューア氏の名をよぶ人があるのに気がつく、それは案内人兼保護人として来てくれた長塚氏で同氏は名刺を出して自己紹介された。氏は十年ばかり前タイ國にきて寫眞屋をしてゐた事がありタイ語を良く話される。吾々は日本に来てかくもタイ語をきけた事は非常にうれしかった。この他にタイ領事(日本人)も來られ税關吏に話し吾々の荷物検査を省いてくれる様に云つてくれたので、何ら時間も取る事なく夜の急行をとらへて東京に行くことが出來た。

神戸におけるタイ料理 長塚氏は吾々の荷物を東京の宿泊所に送る手続きをすませてくれてから一行は神戸商工會議所主催の午餐會に招かれて行つた。驚いたことは食物の中にタイ料理が混つてゐることであつた。カレーや、とうがらしの様な辛いものや、果實類にもタイ料理そのまゝのものを作つてくれてタイ國をしのばすべく、日本における最初の一日の應接をしてくれた。

十四時食事の終るとお茶をのむ、間もなく川崎造船所製鐵工場見學に行かねばならなかつた。タイ領事と商工會議所でタクシーを用意してくれた。

川崎ドック これは自分にとつて生れて始めて見た工場であり、今後機会がなければ二度と見ることが出來ないかも知れない。こゝは造船所で我國のアヌタヤ號や、トンブリ號もこゝで作られたのである。こゝで寫眞機をもちこむ事は嚴禁してゐるので吾々もしらべられた。一行の案内されたところは船や自動車等に使ふ鐵板の製鐵工場である我々は未だこんなものを見たことがないので、丸で國王が自分の都に入つて行つた様な氣持であつた。工場はすべて新式の機械を使つてをり、大仕事のものであるが自分はそれらの詳細を文にかき綴る丈の知識はない。工場内は暑い様であるが、今日は始めて日本に着いた日で少し寒さを感じてゐたので丁度よかつた。又別の部屋でお茶とお菓子を

御馳走になつた。今日は今御飯を食べたばかりにまた食はされるのであつたがお茶だけだつたのでまだよかつた。

徽章配布 これより吾々は今回の旅費を出してくれた岡崎氏へ挨拶の爲急がねばならなかつた。このとき岡崎氏の秘書扇氏は徽章をもつて來て皆に配布してくれた。吾々一行は日本につくと長塚氏を入れて十三名になつた。この數は少しも悪いと考へず、運良く愉快な旅の出來たことは以後の旅行記でもわかるであらう。

此處でいただいた徽章は、我國の十士丹位の大ききで金メッキした銀製で旭日の光線の中に白象がゐる周圍は綠色であるが、これは岡崎家の色であると秘書が説明された。今此の徽章を戴た學生は昨年の十名と共に二十二名である。今後も盤谷でこの徽章をつけてゐるものがあれば假令知り合ひでなくとも同じ仲間であるといふことがわかる。

岡崎氏へ御挨拶 吾々はフォードの黒い同型の自動車に分乗して一時間ばかり或は降り、或ひは昇りして駛つて、この間お腹がしばいでも話しをしないので、或者は眠氣を催したものとさへある。自動車には日本人が同乗してゐるのでタイ語を話す誤解をうける様な事があつてはと思ひ、又日本語を話すにしてもほんの二三人しか出來ないので長い間話せない。吾々の中ではほんとに日本語が役に立つのは、ポピビムック學校で四年ばかり前から本當に勉強して來た二人程で吾々日本語學校だけで學んだものはまだ一年にも達せず先生から教へられた基本の言葉を鸚鵡の様に覚えてゐるだけである。岡崎邸につくと自動車を降りて相當上り坂を歩かねばならない、山の頂上に到り愈々大きな建物を見る。この邸は空氣が良いので十八日間の船の旅の疲れを忘れさすに充分なものであつた。先づ最初に吾々は、日本家庭の風習に従つて靴をとりスリッパにかへてから秘書の案内で、化粧室に行き身なりをととのへてから應接室に入る。此處で五六分の間、親切に吾々を招待して下さつた主人公の入つてくるのを今か今かと入口を眺めてゐた。

そこへ同氏が日本の着物で入つて來られたので一見すぐに主人公であることがわかつた。一同は立つて日本式のお辭儀をした。同氏は六十歳ばかりに見える非常に落着きのある立派な紳士で我がタイ人にくらべれば、チャオプラヤ・ラームラーク氏式の人である。同氏はいろいろ旅行中の事についてたづねられ船が豫定よりも三日もおくれた事に残念の意を表された。

お茶を御馳走される以前に吾々は一同は盤谷で撮つた記念撮影を同氏に提供した。お茶をいたゞいてうれしかつたことは、二十日ばかりも船の中で食べられなかつたサンドウィッチなどがあつたことである。この間岡崎氏はいろいろの話を入れ、又わづかでも吾々に日本語を話さしてそれを聞かれるのが満足な様であつた。吾々も出来るだけ同氏の意に副ふ様に日本語でお話した。同氏は少しも高ぶる態度を見せず良く話し良く笑はれるので、吾々の中には同氏の使用人になつても満足だと思ふ者さへ出てきた。同氏は又旅行中に見たこととおぼえて來て歸りに話する様になつた。吾々は東京行の急行に乗らねばならなかつたので此處でゆつくりすることも出来ず、同邸を辭さねばならなかつた。これに先立つて同氏は氏の廣い庭園を見せてくれた。とても廣い所で凡ゆる木が植えられてある。櫻の木も見る事が出来たが花は散つてしまつてゐたのは残念である。木は我國のタコブといふ木によく似てゐる。その他、古い日本式の家や、花園や、カーベットの様な芝生などを見せてくれた。或る一部分は最近の水害でこぼれてゐる所もある。こんな山の上にあるのにどうして水害を蒙つたかと思つたが、案内人の話では日本の水害は我國のと異り、山上から流れて來るのださうである。この點山の麓の家などは危険に曝されてゐるのである。こと之に關しては我が國は最も天然の災害から免かれてゐると謂はねばならぬ。

ゲインシャ 今夜十八時から林氏の招待で菊水といふ所でスキヤキを御馳走になる。入口はシャム學生歡迎といふ意

味の事が書かれてあつたが自分は漢字が讀めないの片假名の「シャム」(當時はまだ國名改めず)だけしかわからなかつた。こゝでも靴とスリッパとはきかへて上らねばならなかつた。こゝでは食卓をかこんで日本人と入りみだれたたゞみの上にひざを割つた。それらの人々は全部記憶することは出来なかつた。今日は日本の酒があつたので少し度があつたが、食慾をすゝめる位のものであつた。きれいな女の人が來て御飯を入れてくれたりした。これはゲインシャである。この食堂の中には古代日本の文化を示すいろいろのものがおかれてあり、來る客毎に見る様にしてある。これを丁寧に見るなら一日かゝるであらう、とにかく日本人はこんな所にでもかゝる愛國心を起さず資料をもつて來てゐるのであつて、この僅なものが大きな完成の基をなしてゐるのである。吾々が東京へ向ふ汽車は夜の七時出發だったので急いで食べこゝを出ねばならなかつた。

神戸より東京へ 吾々は驛に來た時一人一杯であつた。驛には婦人が取付のラウド・スピーカーで汽車の時間や行先を放送してゐる。吾々には地名以外には聞き取ることは出来ない。汽車が來ると案内人は吾々を分けて別の入口から乗る様忠告した。そうでないと汽車は待たずに出てしまうからの事である。この點我が國のと異つて居り又荷物なども大きなものは持込むことは出来ない。我々の荷物も既に東京に送られてゐる筈である。驚いた事は日本人は誰でも汽車の中で寝ることを何とも思はずよく寝てゐることである。吾々は學校で教へられて來た如く、靜かにする様心がけた。汽車は三等であつたが非常にきれいである。

吾々の乗つた汽車は食堂車がついてゐて、こゝには人形の様にかいな女の子が三人働いてゐる。彼女等は吾々がタイ人であるといふことを知るや、側にきていろいろ我國の様子を聞きたがつた。今、日本でタイ人といふと非常にうけが良い。食堂車の監督の人は若い女の人が吾々と話してゐるのを何もいはずに棄てゝある。車内には洋食も、日

本食もあり、料金は圓で考へると相當高いがタイ金で考へると安いものである。彼女等は非常に愛嬌良く住所まで書いてくれたりしてひまがあれば東京でも、神戸でも、又會へるかも知れぬといはれたので吾々も國へ歸るのがいやになつた。

汽車では寢臺車を取らなかつたので鳥の様に寝ねばならなかつた。皆は衣類の用意はしてゐなかつたので、非常に寒さを感じた。この事は後輩諸氏に忠告しておく、日本人はレインコートをオーバーの代りにきてゐるのであるが、吾々もこれを買つて寒さをしのぐことが出来た。當夜車内の温度は最高十八度か二十度（攝氏）であつたらう。

この夜車中で吾々の護衛に来て呉れた祕密警察の人に會ふ。彼は吾々一行の寫眞の入つた新聞をもつて来て見せて呉れた。その中には一番年長の自分（二十八歳）と年下のスパン君（十七歳）の事もかゝれてあつた。自分はこの新聞を買はふとしたが毎日何回も出てゐるので到々探し得なかつた。吾々は一行の事をかいた新聞を買ひ集めたりしたが時には買そこねたり、他の新聞を買つたりした。

フジサン 翌朝四時四十分空が明るくなつた時は遙かに遠く富士山を眺める事が出来た。吾々は皆起き上つてこれを眺めた。聞く所によると日本人でしばしばこゝを通過してゐる人でも雲などの關係からこれを眺める事が出来ないのは度々だそうである。彼等の説によると道でこれを眺める事が出来たものは運は良いのであると、自分等も兎にかくこの説を信じることにした。日本視察に招かれて来たことは勿論、又以後の旅行記を讀んでも吾々は幸運であつた事は判断出来るだらう。自分は雪を頂いた富士の寫眞を何枚もフィルムに收めた。不思議に思つた事に日本は日の出の國といはれる丈あつて四時過ぎにもう明るくなり、五時には太陽を見た。

東京驛着 七時過吾々は東京驛に着くやタイ國留學生が男女共非常に多く出迎へてくれ、寫眞機や撮影機までもつ

て来て寫眞を撮る者もあつた。又新聞記者一行も來られた。これより吾々は先づ宿泊所、青年館に行く。こゝは五六階もある大きな建物で吾々はその一番上に宿泊した。こゝは我が國のバンカッピの様な郊外にあるのでこゝへ行くのに地下鐵にのらねばならなかつた。

ビール會社見學 宿泊所についても吾々の荷物がまだ届いてゐず、又船が三日もおくれた爲プログラムを縮めたり省いたり、少しも自由の時間がなくなつてゐるので、吾々は顔を洗つたり服をきかへたり休息をとつたりする間もなく直ぐ大日本ビール會社の工場見學に行かねばならなかつた。こゝで始めて米からビールになるまでの全行程を見ることが出来た。終つてから支配人はサンドキッチャ、ビールを御馳走してくれたが吾々は昨夜充分なゐないので食ふことより休むことを考へた。

タイ室訪問 正午近くになつてから世界で第二か第三といはれる商店、三越百貨店の上にあるタイ室（當時はまだシャム室といつてゐた）に行き訪問録にサインしてからタイ國の商品を見る。それより支配人はこの百貨店の食堂で晝食の御馳走してくれた。當日は非常に疲れてゐたので、ボヤリとして仕舞ひ、日本語は全くきゝとる力もなくなり何回も「わかりません」といはねばならなかつた。食事にはタイ語の教師佐藤氏も來られ、始め日本語で話してゐられたがこれが解るのはほんの二三人であるので結局タイ語を使はれた。

タイ協會訪問 二時半頃吾々は佐藤氏の案内でタイ協會を訪問常務理事矢田氏（嘗て我國駐在日本公使）に御挨拶申上げ吾々が行く各都市の案内書を書いて來々。

國會議事堂見學 三時頃帝國議事堂の見學に行く、當日は參觀を許す日だったので全部見せてもらった。この議事堂は何百萬圓の金を費して三年前に出来上つたもので、我國の議事堂の十倍もあらう。

タイ公使訪問 吾々はタイ公使ビヤ・シー・セナ閣下から茶會に招待されてゐたので午後四時半タイ公使館に行く。先づ公使閣下は今回の見學に當り良きを探り、悪しきを棄てゝとの意味の訓話をなされた。食物はタイ國女子留學生等が作つて呉れたものであり、又留學生も共に出席された。公使閣下は吾々は昨年生徒よりもきちんとした服装してゐるとおほめ下さつた。

タイ語授業見學 六時過十五ヶ國もの外國語を教へてゐるといふ東京外國語學校見學に行く、この處にはタイ語の科目もあり佐藤氏とマニットトバヤツカナンダ氏がこの授業にあたり、此處には十名ばかりの生徒が居り、各々タイ語を讀んで吾々にきかせてくれた。

タイ語同和會主催晚餐 約七時半これらのタイ語學生が主催で佐藤、マニット教師もともに或る料亭で御馳走された。この間日本の學生で、アジア新秩序建設に關することや、オークヤーサーナービムツク（山田長政）以來の日タイ親善の事に關して述べるものもあつた。吾々は全部ききとれないが、その大要はわかつた。會話はタイ語と日本語を混合で互に教へ合ひわからない時は英語を使ふ様にした。公式の挨拶は同じ言葉でなければ行かないので、日本語のときはウキッ・ナクソーン君に英語の時は團長で日本公使館にゐられるブンチュア・ブランスワン君にお願ひした。他の者は鵲鴉式の日本語しか出来ないがそれでも話すと非常に喜ばれた。廿二時宿所にかへりいろく荷物を整へねたのは廿四時であつた。長い旅の疲れで今日はぐつすりねこんでしまつた。

横濱行 五月六日プログラムに従つて今日は横濱に行くべく八時四十五分の汽車をとらへ、九時横濱驛に到着することゝは港市である。先づ當地在のタイ國領事が迎へてくれた。領事館員は驛に来て小さなタイの旗をふつて迎へてくれたのですぐわかつた。

レコード會社見學 横濱につくや直ちに倉田領事の紹介で大印 His Master Voice と Columbia とのレコード會社見學に行く、こゝはレコードの他にラヂオ、蓄音機、マイクロフォン、トキキフィルム等も作つて居り、吾々はそれらの製作全行程を見せてもらつた。工場では女工が多く非常な愛嬌を示し用事なくとも出て來たりした。終つてから何時もの様にお茶とお菓子の御馳走になる。

壘製造工場見學 十時十五分キリンビール工場見學に招待されたが、ビール工場は昨日見てゐるので今日は壘製造工場だけ見る。見るものすべて珍しいがそれらを全部こゝに説明する間がないのでこれで省略する。

支那料理 正午にタイ領事は、中川副領事と共に吾々をつれて支那料理屋に行きベミー（麵類）等を御馳走してくれた。こゝでは日本の女が賣つたり、サーヴィスしたりしてゐるが料理人は支那人か日本人か知らない。こちらのベミーは大きな皿で一杯食べきれない。中には色々のものを混ぜてゐるので一見何かわからない。こゝでの味は我國とは少し異るとしても故郷を思ひ出すに充分なものがあつた。又辛い「トウガラシ」まで食べた、人は註文出來るそうでこれらは臺灣からもつて來られたのだといふことである。

軍艦見學 十三時四十分吾々は軍港横須賀に行く吾々は宿所を出る前からこゝへは寫眞機もちこめないと聞かされてゐたので誰ももつて來なかつた。こゝへは吾が海軍々人が研究に來てゐた爲、こゝの人々はタイ人といふとよく知つてゐる。道を通ると人々は「シヤム、シヤム」といつてゐる。こゝで吾々は海にゐる軍艦の見學はせず、死んだ軍艦即ち陸に揚げて博物館の様になつた軍艦を見た。この艦の名を「三笠」といひ、若し四十年前の日露役の歴史を知つてゐる讀者ならこの艦の勇名はおぼえてゐるでしやう。これは東郷大將指揮の下にロシアとの戦いで幾多の彈丸を浴び乍らも立派な勝利を得て歸つたのである。實際見るとこれで良く戦に出て歸つたと思はれる程彈丸の跡が一杯で

ある。彼等はいかゞ艦を後代の人の教育に使つてゐるのである。中に入つて戦死者の寫眞の前に立つと吾々は止つて敬禮せねばならぬ、この中に艦の寫眞帳や、繪葉書を買つてゐる。吾々は何處に行つても繪葉書を買ふことだけは少しもあきなかつた。

大佛見學 横須賀からの歸路電車で鎌倉に行き日本で第二に大きい露坐の大佛を見學する。吾々は驛から自動車でこゝへ來た。大佛は高さ四十八呎、周圍九十七呎である。吾々はこのにお参りをすませると直ぐ歸途につかねばならず、買物する間か殆んどない。こゝでも繪葉書や、大佛の模型など賣つてゐるが、一寸立止つて買つてゐると走つて行つて一行に追ひつかねばならぬ。

繪葉書購買者 何處へ行つても繪葉書を買つたりする暇がないので遂に代表を一人きめてこれを買はしめ、後で皆に分配する様にした。日本へ來てから新聞を買ふ代表一人と繪葉書買ふ代表一人と結局二人の代表が選ばれた。この爲吾々はばらばらになつて大き過ぎる事もなくなつた。

寶塚見學 吾々は鎌倉から相當の間電車にのり、電車を降りてから又地下鐵をとらへて寶塚劇場に急いだ。劇は十八時から始まるのであつたが、吾々は到着したときは既に始つてゐた。十八時過ぎて居りもう切符も賣切れてゐたが一人の日本婦人が迎へてくれて、一人當り二圓宛の入場券を前買してくれてあつたので何等心配なく入場出來た、此處は非常に大きな劇場で食堂、賣店、映畫場等があるがこれを見る間もなく急いで劇場の内部に入らねばならなかつた。吾々はすべてを忘れさつてこの劇に見入つた。出演者は皆選ばれたものばかりなので可愛い綺麗な顔をしてゐる。約二十時頃、休憩に入つたので場内の食堂で食事する。非常に多くの客が入つてゐる。此處には浴場、喫煙室まである。約三十分休憩の後再開、始めはレビューで段々物語になつて來た。支那の物語をやつてゐたが言葉は「ワタシ」とか

「アナタ」以外にさゝとれず意味がわかりかねた。此處でもらつたプログラムの英文解説をこれより三日かゝつて讀んでやつと話の筋がわかつた。劇は二十二時終つた。これは法律で時節柄電燈節約の目的で大商店や劇場は廿二時と定められてゐるのである。

外へ出てから案内人は吾々に自由に歸る様にといはれた。吾々も宿所の地名青山四丁目をおぼえてゐたので、別に反對することもなくこれに従ひ案内人と別れることになつた。案内人は電車にのる所まで送つてくれて、四番目の停車場で降りる様言はれた。電車にのつてうつくしくしてゐると誰かが、着いたと言ふので見ると「アオヤマ」と書いてある。皆がそろつて下車した所が、一つ手前の驛であつた。事務員にたづねやうと思つたが運轉手以外には人が一杯で探せない。電車の扉は自動式で閉閉するので降りてしまふと飛びのることも出來ない。仕方なく外に出て巡查にきいて歩いて歸る。宿所についた時は二十三時過でエレベーターの人は廿二時限りで歸つてしまつてゐたので仕方なく、五階も六階もの階段を歩いて上らねばならなかつた。宿所へタイ國留學生が來てくれてゐたので午前一時まで風呂を浴びたり共に話をしたりした。旅舎へはタイ學生が來て知らない人でも兄弟の様にいる／＼世話してくれた。

東京市見物 二四八二年五月七日今日はバスで東京市内を一通り見物する。吾々は旅に疲れて居乍らも四時頃にもう明るくなるので眼が覺めてしまふ。朝防毒面をつけた兵士等が演習してゐるのを見た。吾々の宿所にも學校や男女學生が泊つてゐたが話す時間もなかつた。この朝タイ國女學生らが宿にきてくれたので買物を依頼した。

八時バスを借切つて市内見物に出掛ける。バスには吾々の案内人の外にきれいな乙女が乗込んでいろ／＼説明してくれた。但し説明の言葉は吾々の案内人が通譯してくれない限りわからなかつた。

今日は日曜日で名所公園等には非常な人出であつた。乙女の案内人は道々説明してくれた。宮城の前では一同帽子

をとつて 天皇陛下に敬意を表した。それより海軍館を見、正午には白木屋で食事してから東京市にある佛教の寺や淺草観音、上野動物園等へ行く動物園ではタイ國から来た象が日本人の良き遊び友達となつてゐるのを見てうれしかった。上野動物園には印度アフリカの象もゐるが危険があるのでこれらは鐵の檻の中にあるのに、我がタイの象は「ハナコサン」といふ名まで貰つて子供等とははひれてゐる。もとはタイ人が養つてゐたが、今では日本人がこれを養つてゐる。この動物園は世界中の凡ての動物を集めてそれ／＼の温度周囲の事情等に充分の設備を施してある。若しこゝに行くなら、吾々は世界中の動物に關する知識を得ることが出来るであらう。又その構内は我國のルムビニー公園の約十倍もあらう。

十五時二十分吾々は日本タイ協會主催の茶會に招かれて行つた。こゝへはタイ公使を始めて且てタイ國へ來られた二荒伯や、女子青年團フジ嬢等も見えた。日本人が立つて「東亞新秩序」「日泰親善」等に關するスピーチがあつて後、記念撮影して此處を辭す。それより學生南洋會主催の晚餐會に招かれて行く、この宴は夕刻から八時頃まで、終り又記念撮影して一同分れ分れに日本學生の案内で市内の繁華街を見學する。こゝには又我國のビヤホール式の喫茶店が多いが、吾々は學生なので女もさううるさい事はして來ない。今夜は英語で日本學生といろ／＼の意見の交換しながら街を歩く、

二四八二年五月八日今日午前中は自由であつたが、自分は何よりも散髪屋へ急いだ。こゝも我國の様にきれいで中には女の人が來てマツサージやひげそりまでしてくれる。今日は月曜で三越や、大丸の如き大きな百貨店は休みのなので充分な買物は出来なかつた。

國際學友會館訪問 十五時外國留學生の宿泊所國際學友會館に行く、こゝにはタイ學生も多い。この他ビルマ印度の

學生もゐる。場内を見學してからお茶の御馳走になる。

地震 この國際學友會館にゐるとき約十七時頃電燈などがゆれて地震が起つた。されど直ぐやんでしまつた。此處にゐる生徒はなれてゐるので何も感じないらしい、若し我國であつたら皆びつくりするだらう。

日本語放送 今夜二十時吾々は日本語で東京放送局から放送する様招待された。これには次の四名が選ばれ他のものは自由行動がとれた。

一、團長ブンチュニアブランズワン（されど團長は日本語がわからないのでサンタツ・サーラサーリン君代つて放送）

二、ウキット・ナクソーン

三、小 生

四、スパーン・サエートマーン

文章は佐藤教師が作つてくれたのであり私の放送した内容は次の様である。

私はウドム・キョウケンケイウと申します。今度吾々一行十二名が暹羅學生を代表してまいりましたが吾々は日本語を學んで居りましたので日本へは一度参りたいと思つて居りました所、この度岡崎様の御招待によりましてお國を訪れる機會を得ました事を幸福に存じます。さて東京へついて見ると壯麗なる建築物と市民の大群集とには驚きました。市民各位も落着があつて何處で戦争してゐるのかわかりません。流石は東洋の盟主世界の一等國民だと感心致しました。東京の主なる施設や横濱、横須賀、鎌倉等の名所を見物させて貰ひましたが、躍進日本の姿がはつきりと認識されました。滞在四日、明日午前九時東京を去り西下名古屋、京都、大阪、神戸見學の上、歸國の途

につきますが、實に名残り惜しい事でありませう。どうか皆様シャムといふものをこの上御認識下さいまして弟の國をお引立あらん事を切望いたします。

この放送を終つてから局内の各所を見學する。ラヂオ劇放送所には雷や、雨、風等の音を出す機械まである。最後に吾々四名は記念として「J.O.A.K」の文字のはいつたメダルを貰つた。今日は東京の最後の日だったので日本の學生が来て街へ案内してやると待つてゐてくれた。されど今夜は寒く雨がひどく降つてゐたので自分は宿所に止まり、荷物をととのへた。吾々の中では日本の學生と共に外出したものもあつた。

小さな鞆用意 これより吾々は名古屋一夜、京都一夜、大阪二夜、神戸一夜の旅をつゞけるので大きな荷物は先きに神戸に送り届け小さな鞆一つもつて行くことにしたので小さな鞆をもつてゐない者は手提鞆を買つたりした。

名古屋行 東京を去る前夜、日本學生南洋會の人々は吾々全員に記念品をもつて来て贈呈してくれ、又去るに臨んでは驛まで見送つてくれたのに非常に感謝せねばならぬ。この他タイ公使館書記官、タイ國男女留學生始め多くの人が見送つてくれたので東京を去るのがなつかしくてたまらなかつた。

日光見學不能 吾々の船は三日もおくられた爲、日光見物を中止せねばならなかつたのは残念である、とにかく日光は日本第一の天然の美をそなふる所と云はれて居り、此處を見ないで日本を見た云へぬ位評判の高い所である。吾々は案内人ともに十三名といふ數字は、この悪運に出會つたのか知らぬがとにかくこの事を後輩諸子にゆづる。

九時發の汽車で東京を發ち名古屋についたのは十四時先づ名古屋城を見てから十五時過ぎ日蓮寺にゆづる。

日蓮寺 これは日本とタイの高官名士連によつて建設された寺で、今日吾々はブラ・ビビツサーリー氏よりブラマ・ライの經書をあづかつて來たので寺ではそれを迎へるべく公式の儀式をもつて吾々を迎へてくれた。寫眞技師など

大勢來りこの儀式を新聞に發表した。

この國の僧は各種の色の衣を着て居り、又女子も一緒にゐる。寺を見物してから吾々はお茶の御馳走になり、お菓子をしていただいて歸途につく。

十八時一先づ宿所に歸る。これは或る學校を提供されたもので、此處で始めて吾々は純日本式の生活を味ふ、東京の宿所はまだふとん付のベットもあり、幾分新式のものであつたが、此處は純日本式の部屋で床の上に寝、風呂は船と同様桶であつた。

タイ領事招待晚餐會 此の夜名古屋駐在タイ國領事伊藤氏が觀光ホテルで晚餐に招待してくれ、これが終つてから當地にゐるタイ學生の案内で街を見る。

幼稚園見學 この夜の吾々の宿所は幼稚園式の學校であつたので、十日朝食事前に案内されて小さな子供等の勉強狀況を見に行く。こゝにゐる子供は大孤兒か、或ひは父が新秩序建設に支那に行つてゐるものである。又出征兵士の未亡人、或ひは遺族等も此處で働いてゐる。この朝一同の戦役兵士の冥福を祈る儀式に吾々も参加して教師や此處にゐる女の人々と記念撮影した。これは當地の資産家伊藤氏の經營によるものである。伊藤氏はこの他タイ學生も養成されて居り本年も二名招聘された。

九時半豊田紡績見學に案内されて行く、支配人の話によれば、こゝは日本で最初の紡績機械の製作を始めたのださうである。吾々は綿から絲になるまで絲から布になるまでの全行程を見せてもらつた此處には何千といふ従業員がある。

伊藤氏へ御挨拶 十二時半吾々は毎年二名宛のタイ學生に留學資金を出してくれてゐる伊藤氏に御挨拶に行く、こゝには今七名の學生がある。同氏は吾々に澤山のタイ料理を御馳走してくれた。タイ音楽のレコードをかけてくれた

のでなつかしい故國をしのぶことが出来た。この日は皆疲れてゐる上お腹一杯御馳走になつたのでねむけを催した。

京都市 十七時名古屋驛發京都についたのは十九時四十分であつた。
少年團の歓迎 驛につくと日本少年團の一團が整列してラッパを吹奏して吾々を迎へてくれた。かゝる歓迎は吾々にとつて始めてあつたので一寸驚かされた。その上、吾々の誰もが學生服をきてゐなかつたのは一寸悪かつたが、吾々も列を作つてお禮の意を表した。

鳥居旅館宿泊 この夜は驛の側にある日本式の旅館鳥居旅館に宿泊し、又疊の上になた。それまでは學校、青年會等に泊つて旅館などに泊らなかつたのでネーサン（女中）なるものを知らなかつたが、此處に來ると澤山ゐる吾々を迎へてくれた。彼女等はアイロンをもつて來て衣類のしはをのばしてくれたり、縫ひてゐるものを縫ひてくれたりしたので、吾々は日本を去りたくなかつた。されど吾々は學生として來てゐる以上その行もつゝしまねばならなかつた。

二四八二年五月十一日 九時山の上の清水寺に參り、次いで新しく建てられた戦死者の遺骨をおさめてある神社へ參拜する。この神社の建設費出資者の名が階段のそばの板の上にかき並べられてある。今日も新聞記者團が來たが吾々はもう一ぱい新聞を買つたので自分等のことがかゝれてあつても、これ以上買ふ氣はしなかつた。十一時半この或る百貨店支配人が吾々を招いてアラスカ・ホテルの七階で午餐を御馳走された。この屋上にも或は百貨店の屋上にも子供等の遊び場は作られてあるが、これは日本は人が一ぱいで平地の遊び場が少い爲だらう。

登山電車 十三時登山電車で山に登る。始め電車につて途中まで行きそこからケーブルののりかへて、峰を越えるのである。この間全く飛行機にゐる様な氣がした。こゝで多くの滿洲國少年團と一緒にになり、互に話合ひ寫眞を撮

つたり、日滿タイの各國歌を歌つたりして愉快であつた。少年團一行は山上に泊るので頂上につくや別れた。山上には子供の遊び場もあり、こゝには何百といふ人が來てゐる。山上は海拔八〇〇メートルで空氣はとても良い。歸りもケーブルと電車で下山し、十七時京都御所にお參りしてそれより歩いて歸る。この邊で兵士や看護婦が演習してゐるのを見た。宿所につくと急いで十九時の汽車で大阪に行かねばならなかつたのは残念であつた。京都の事は曾て本で讀んだことがあるが、古の都にしてゲイシャのきれいなことは日本一であるといはれてゐるが本當かうをかう行つて見る機會がなかつた。

大阪行 十九時三十分京都發同夜二十時十分大阪についた。驛へはタイ領事の書記を始め、大谷氏等が迎へに來てくれ宿所新大阪ホテルに案内された。大谷氏は盤谷チャームクルンの裏にある大谷洋行の主人でタイ國の植物見本を持ち歸られ良い結果を得てゐるとの事、この他大阪のタイ國貿易協會書記も迎へに來られた。

記章配布 大阪につくと迎へに來られた人は記念の爲に日本とタイの旗を入れた記章を皆に分けてくれた。
新大阪ホテル こゝは新式の七、八階もある立派なホテルで各部屋には氣持のよいベットがあり、浴室では何時でも温水、冷水の用意がされてある。こゝのネーサンはきれいな洋装した女の人はばかりである。吾々の荷物は大きなものを神戸に送つてしまつてあるので、もつてゐるものは十三人分、三輪車二臺につめる位しかないで、こんな大きなホテルに入るのには一寸體裁が悪かつた。吾々は浴衣や、附屬のものをもつてゐなかつたが、浴室は各部屋にあつたので良かった。又幸なことにはこゝでは朝以外に食事しなかつたことである。晝や夜こゝで食事すると、吾々の誰もイヴニングドレスをもつてゐない。若しタイ國學生旅行團であるとわかつてくれれば良いがわからない時はタイ人の恥である。ホテルの屋上から幾條もの河が集つてゐるのが見られ全く我國の様な氣がした。

工業都市 大阪は全く聞いてゐた如く、工業都市である。どちらを見ても煙をはいてゐる何千もの煙突が林立してゐるのを見る。

二四八二年五月十二日九時半 この朝雨が降つてゐたのでバスにのつて、大阪城を見學し次いで東洋一の製薬工場、武田工場を見に行く、この薬は我國へも送つて來られてゐる。先づ吾々は見學するに當り記章をいたゞいた。これのないものは工場に入れぬらしい。これも秘密を守る目的と危険の防止からである。此處で色々の機械を用ひる或る種の實驗を見せてもらつた。

科學圖書館 工場を見學してから世界中の科學圖書を集めてゐるといふ圖書室に案内してくれた。自分はタイの書物を探ねたら技師は残念乍らまだないが、世界の書物を集めるといふ名に負はず爲、今後吾々に探してもらひたいと云はれた。自分等も我國の名を知らず爲、是非この事は應援したいものである。我國の科學局も立派な英語の科學書を發行してゐる筈である。

正午こゝで晝食をいたゞいてから紡績工場を見學に行く。

鐘紡工場 十四時世界一といはれてゐる鐘ヶ淵紡績工場を見學に行く、こゝには三千人以上の従業員が居り、中には従業員及びその家族の爲に學校、病院、劇場、運動場等である。ここでは米國、印度、エチプトの棉花を毎年八百萬トンばかり買つてゐるらしい。

大丸百貨店見學 今日午後少しの時間があつたので、大阪一の賣店大丸百貨店へ案内してもらつた。吾々はこゝでいろいろの買物をした。もう二、三日しか日本にゐないので急いでほしいものを買ふ様にした。中には日本金がなくなり、急いで兩替する者もあつた。こゝで各自製薬工場や鐘紡でいたゞいたものや買物等で一ぱいの荷物であつた。

こゝでは大谷氏にお世話になつた。又賣子の女の子等も珍しいので愛嬌ふりまいたり丁寧に買物を包んでくれたりした。

大阪タイ國貿易協會晚餐 十八時半より大阪タイ國貿易協會主催の晚餐會に出席する。今日の席に出られた人は、大阪の大實業家ばかりであつた。

二四八二年五月十三日十一時 天文臺の見學に行く、こゝは東洋一の天文臺で大阪に來たら見落し出来ない名所である。宇宙の模型まであり、全く本物の星を見てゐる様な感もさせられる。これより電気化學館を見物したが、その詳細に到つては書きつくすことが出来ないで省く。

現事變博覽會 ここには漢口戰の實情の模型も作り眞實の如く、軍隊を配置してその隊の名も書いてあるので、出征軍人の家族に兵士の居所までわかる様になつてゐる。聞く所によると外國人を入れぬことになつてゐるが、吾々だけ特に許されたのだと、これは吾々の一生忘れることの出来ない名譽である。

大阪發 十六時十分大阪を發つて最初に上陸した神戸に向ふ、十六時三十分神戸驛につくや岡崎氏の秘書扇氏が迎へに來てくれて神戸館に投宿する。

商會議所晚餐會 十八時から神戸商會議所に於て神戸の學生との交誼晚餐會があつた。この夜は非常に愉快に意見の交換をなし、兩國の歌を歌つたりして盛況裡に解散、吾々の旅館は繁華街のそばにあつたので歸つてからしばらく散歩に出る。

二四八二年五月十四日瓦斯會社見學 九時半神戸瓦斯會社を見に行く。ここでは石炭をもし燃料ガスを作つて家々や工場に供給してゐるのである。吾々はかゝる工場を見るのは一生の中これが最初で最後かも知れない。

寶塚劇場見學 二十時半、吾々は今一度寶塚劇場を見に行く、劇場では入口にタイ國旗を掲げて吾々を迎へてくれた。その他大阪、神戸間の大きな建物ではタイ國旗を掲げて吾々を迎へてくれたのに感慨無量であつた。先づ吾々は食堂で食事した。この間記者團が来て又寫眞を撮つたりインタビュー申込んだりして来た。觀劇最中まで寫眞をとつたり話し込んだりするものもあつた。劇場は壯大なもので内部に植物園、動物園、ホテルまである。劇は始めレヴェーで後程スペインに關する物語を演じてゐた。出演者は何百人と居り、かつてアメリカへ出演に行つたさうである。一つのプログラムを約一ヶ月位演じ、そこではこれに關するレコードや、雜誌まで賣つてゐる。

岡崎忠雄氏にお別れ、十八時から岡崎忠雄氏は最後の送別會を日毛ビル食堂でしてくれた。同氏は何時もの様にキモノで出席されたが、とても若く丈夫さうに見える人である。今日の宴會場はいろいろの花や、日本とタイの國旗で飾られてあつた。岡崎氏は先日同邸で吾々と共にとつた寫眞をもつて來てくれた。

今日の宴では同氏の願に依り、皆な少しづつ日本語で旅行經過の報告をした。日本語の上手なものは相當長くお話をした。同氏は非常に愉快な方で少しも高ぶる所なく、面白く、吾々と共に歌を歌はれたりしたので皆は尙、一層尊敬の念を厚くした。又吾々にき、乍らタイ語を話されたりして二十時頃愈々吾々の航海の無事を祈られつゝお歸りになられた。そして吾々の兄弟タイ人が再び日本に來る事を望まれた。願くば諸君が日本訪問の折は同氏にも御面會される様お願ひします。

不思議なことに吾々は何處の宴會でも、新秩序建設、日支事變、日本タイ親善に關する話をきかされて來たが、主人公岡崎氏だけはそんな事に少しもふれず愉快な話ばかりされてゐた。

記念品贈呈 お別れする前に當り吾々はタイ語で「貴下の資金をうけた第二回學生旅行團より贈る」と書き込んだ

寫眞額を記念に贈呈した。

二四二八年五月十五日 朝荷物をと、のへてからしばらくの間、自由に外出する時間があつた。吾々は來る時よりも荷物がふえてゐたので、大抵のものは袍等を買ひ足したりせねばならなかつた。皆は實際日本にもつと長く居たかつたが居れないのは残念であつた。神戸を出る時は誰でも財布は貧弱になつてゐた。

朝日山丸 十五時吾々の乗込んだ朝日山丸は神戸港を出た。出帆に先立つて記者團が又訪問して來た。この外、岡崎氏秘書扇氏、長塚氏を始め、大谷氏と大阪領事の書記は記念品までもつて見送つてくれた。一行は盤谷を出るときはとび上る程の喜びが皆の顔にあふれてゐたが今日の船出は皆淋しさうでなつかしさで一杯であつた。この他日本の女の人までタイと日本の旗もつて送つてくれた。今回の旅行で日本滞在はわづかの間であつたが、非常に各方面からお世話になつたことは永久に忘れられない。殊に岡崎氏には何と云つてお禮してよいかわからぬ。只始めにいつた様に同氏の御幸福を心からお祈りする。この他日本滞在の間終始、行動を共にしてくれた案内人の長塚氏を始め覚えきれない程、各方面から記念品等をいただいた事に感謝せねばならぬ。

要約 今回の旅行の目的を大體要約して述べると次の如くである。

- 一、日本文化と國內事情の見學。
- 二、機會ある毎に日本人とタイ人との親善を一層強固にする。
- 三、タイ人の名を日本人に一層良く知らせる。
- 四、日本の良い點を出來得る限り紹介して吾國の發展を期す。

されどこれらの四項を詳しく述べやうとすれば、非常に多くになるので省略することにしてほんの一例だけを以下

に述べる事にする。

九〇

見學 工場の見學においては、自分等は一生タイ國で見ることが出来ない、たゞう様な大きな工場を幾つも見た。正に日本は東洋における歐洲であり、東京は極東のニューヨークである。自分は或る歐洲に行つた人から聞いた事であるが、街の秩序において東京の方がロンドンよりも良いといはれてゐる。交通機關も非常に發達して居り、今地下を走つてゐるかと思へば直ぐ高架を走つたりします。乗客も満員であるが教育が良く行届いて居り誰も降りる人が降車してしまはないと乗らない。又服装においても彼等の特有のキモノを着る事が好まれてゐるが、これも愛國心の表はれの一つである。この他此處に書きつくす事の出来ない程多くの文化教育等の發達してゐる様子を見た。

日本タイ親善強化 即ち吾々學生代表は凡ゆる機會に日本人と會ひ意見を交換したが、これらの事は將來兩國國民の親善關係を一層強化することに貢獻した筈である。

日本にタイ人を了解させる事 吾々はどこに行つても良く了解されどんな日でも二、三ヶ所から歓迎をうけ、又タイ國旗を掲げてくれた。只今では日本人は我國の事に非常な關心をもつて居り、タイ語を勉強する者や、タイ國の歌を歌ふ者も多くなり、我が國王の徳をたゞへる歌やルアッドスパン（スパンプリの皿）といふ歌は廣く知られてゐる。ここで一ついひ落せない事は一行の最年少者スパン・サエートマン君の事である。同君はラヂオ放送以外の凡ゆる席で團長の演説を通譯された。主な公式の宴では日本側で誰かスピーチすると日本人でタイ語の出来る人がきれいに通譯してくれたのに對し、我が方も團長ブランチューア・ブランスワン君は日本語が出来ずタイ語で演説するとスパン君は直ちにきれいな日本語に通譯された。かくもバンコックの學校で勉強した日本語が充分役に立ち、日本人賞讃の的となつたことは吾々タイ人全部の名譽でもあらねばならぬ。

文物紹介 日本の立派な文物を紹介する外に吾々は新聞で日本人の親切な事を發表したり、又タイ人と共に語る機會毎に日本人の良い事を知らせて來た。この他喜ばしい事に我國では日本の方針を随分採用してゐる。法律で髪を短くするとか大きな服をさせたり、一人遊びを禁止する様な事を定めてゐるが、日本では自發的にこれらの事を行つてゐる。日本の學生は學生である間は何處に行くのでも學生服をきて出る。この他日本では旅行を奨励し、至る所で記念印をおす所もあり、これらの集める競走まで行はれて居る。又繪葉書等も到る處で安く（一枚我國の半サタン以内）手にいる。我國では旅行奨励は最近始めたが、未だかゝる程度に達してゐない。

この他にまだいろいろの事があるが、他にも日本へ行つた人が書いてゐるので自分はこれで筆をおく。

〔三〕

日本に於ける印象の處々

バンコック日本語學校學生 ウキワツ・アंकン

本年四月中旬自分は神戸資産家、岡崎忠雄氏招待のタイ國學生團の一員として日本の文化國內事情見學に行き、東京、京都、大阪、神戸等のきれいな景色や發達した文化に接する事が出來た。これらの風俗、習慣、文化、景色等我國のそれと比して非常に面白い對照になることに氣附いた。

日本は非常に人口の多い國で、幾條もの道路には交通激しく自動車、電車等幾線も通じてゐるが、六つか、七つの子供でも、この間を自由に往き來してゐる。若し我國であれば保護者がなければ危険な話であらう。これ等日本の子

供等は交通機關の危険を感じないばかりでなく、尙泥棒や、惡漢の危険をも少しも感じてゐないらしい。これ等の事よりこの國では惡漢等といふものは滅多にないといふ事を示してゐる。これも立派な法律があり、又社會秩序の維持が行き届いてゐるからである。若し車が人に衝突して人を殺したときは運轉手は大きな罰金の他に直ちに、運轉免狀が永久に取上げられるらしい。これは人命の重要さを考へれば、その職業を絶つのも當然の事であらう。然し運轉手も熟練者であり、車も良いので交通事故は殆んどないとの事である。

日本では子供や婦人に對する危険防止は良く行き届いて居り、殆んど四つ角には小さな巡査の駐在所があり、又私服警察も各地にゐる。日本の巡査は身體が大きなものが多い。小さいものゝあるが小さいといつても決して惡漢に對抗出來ないといふことはない。彼等は皆惡漢をとらへることに對してそれ相當の訓練をうけてゐる。彼等は又小刀をもつてゐるが、そんなものを殆んど使はず、柔道で相手を押へ、縛りつけるらしい。惡漢も逃げる見込がないと思つたら争つて痛い目をするより大人しく縛られるものが多いらしい。

以上の様な理由で、子供等や婦人は何等危険もなく外出出来るのである。今子供等の事にいひ及んだ序にいふが日本の學生や若いものが團體や個人でも道を歩くときはとてもおとなしくて、立派な態度で、どなり立てたり女の尻を追つたりしてゐるものは一人もない。彼等は道を歩く時は何時もほゞゑみを見せて居り、學生は皆制服で男子なら髪を短く、女子でもウェーブなどはなくきつとした服で何處へ行くのでも朝から晩までそれを着てゐる。學生のピアホールや普通の喫茶店は許されてゐるが、それ以上の所はいれない。

教育制度について一つ驚くべき事には、日本では小學級の學校が非常に大きく、立派な建築、廣い運動場もあり、幾千もの生徒を入れてゐる。これに反し中學以上の學校は段々小さくなつてゐて、運動場などは少い。されど、日本

學生には充分の運動場はどこでもある。

日本の學校では又如何なる科目よりも體育といふことを第一においてゐる。殊に現戰時下においては特に教練の時間をふやして心身の鍛錬につとめて居り、病氣で出來ないものには坐つてこれを見せる様にしてゐる。服装なども皆學生帽はもつてゐるし、只ゲートルをまくだけで、立派に兵士の服装が出来るのである。誰でもこれを逃げることは出來ない。この他ラヂオでは、毎朝音楽と共に體操の號令をかけて各戸で誰でもこれに従つて行ひうる様である。又工場でも、毎朝従業員が集り列を作つてこの體操をして後、仕事につく事になつてゐる。この他食堂では毎日その日の獻立を書き、榮養、ウィタミン、カロリー等の量分もかいて労働者の體力保全をはかつてゐる。此の他又工場内に廣場や木蔭や水泳場、ベイスボールのグラウンドもあり、大きなになると全く一都市の如く従業員子弟教育の學校や、病院まであり、全く工業の進んだ國であり、又體育を重視してゐる所が見られる。これでもまた日本政府は充分満足しないで宣傳局では國民心身上に關する十項を掲げてポスター等を作つてゐる。身體向上に關する五項の内容は、睡眠食事は時間通り、食物は身體に榮養のあるものを攝ること、毎日運動する様との事で、又精神向上に關する五項は毎日の苦勞を忘れて愉快になれとか、新しい生活を樂しめ等の事がいはれてゐる。この事は日本人をして辛抱強く愉快なそして強壯な國民とせしめた原因である。吾々は日本人を知つてからまだ日が浅いが、この點を忘れてはならない。美麗と清潔を好む事は恐らく日本人に優るものはなからう。家でも廣い場所でもキッチンと取揃へてあり、何ら亂すことがない。又日本式の家にはこはれ易い木のわくに白い紙をはつた戸などを使つてゐるが、紙のやぶれた所もなく、けがれることもなく注意深く取扱はれてゐる。吾々の中で日本品は長い使用にたへずこはれ易いとの事であるがこれは日本人の様に注意深く使はないからである。

日本人は全部男女をとはず、服装はきちんとして居り、吾國の様にスポンだけで上衣がないとか靴をはいてゐないとかいふ様な者は一人もなく、皆それ相當の服装して帽子をきるか、洋傘をもつてゐる。女子は各種の色の衣類を用ひるが男子は黒か白か黒に近い茶色の色しか用ひず、けばくしい色は弱い者であると考へてゐる。

服装の様式は男子は主に日本の着物をきてゐるが、實業家や、官吏等は洋服の方が便利であるといつてその方を選んでゐる。一方婦人はウェーブも紅もぬつたりして洋装してゐるものが多いが、日本人の女はその體格、環境からいつて日本の着物をきてゐる方がきれいである。洋装に似合ふ日本の女の人は非常にわづかである彼等は人の服装にさう注意しないので服装は案外自由である。

美麗を愛することにおいても、もう一ついはねばならぬ事は、日本には到る處に自然の美がそなはつてゐることである。到る處にきれいな花が作られてゐるが「花を折るべからず」などの立札は見付事はない。この點にも日本の子供等の教育は良く行きてゐるといはねばならぬ。この事に關する子供等の教育には「汝等は汝等の自然の美を愛せよ」といつてゐるのであつて「汝等は花を折ると巡査につかまる」といつてゐない。若し後の方法で教へるならば巡査のゐないときに花はなくなつてしまふだらう。此の故に日本の家では紙の扉でもこはすものがないのであらうこの點子供等の教育と、子供の良く教へ守ることは範とすべきである。

清潔を守ることに於いては、非常に嚴重である。驚いた事には或る小學校を見に行つた時である、學校では子供等が通學して來た時はいてゐた革か何かの靴をぬがせて、校内では裏がゴムの黒い靴をはいてゐる。これは運動にも便利であり、又グラウンドも革の靴もいためすにすむ多くの得がある。又便所などもきれいで後では病源を招くもとなる手を必ず洗はせる事にしてゐる。この點神社なども入口にきれいな水をたくはへてあり遠くからきた人々に手を

洗はせてまづすがくしてから参拜する様にしてゐる。又寺や議事堂、博物館等では參觀者に靴をとらせたり、靴に布の覆を被せさせたりしてからでないといふ所はない。確かにこの清潔を守る事においては日本人は世界第一であらう。

次に日本の工業について略述しやう。若しも吾々は高い所にゐると至る處に工場の煙突が林立してゐるのを見る。特に大阪は黒煙と油煙でいつばいである。正に日本島全部は工場の島といつてよい位である。三菱造船所などは男工ばかりであるが、他のさう大した労働を要しない所には女工もゐる。従業員の數は一工場に百や、二百でなく何千とゐるのである。中にも東洋一といはれる鐘紡などは何萬の従業員がゐる。そして工場内には従業員養成所、劇場、運動場、労働者の子弟養成所、病院、學校等もあり、又賣店もあり、どんなものでも場内で安く手に入る様になつてゐる。工場では従業員はその生命であり血であるのであつて『良ければ使ひ使ふ以上は充分保護する』といふ主義をとつてゐる。工場の仕事も非常に進歩したものであり、すべて新式の機械を應用してゐるので話したり忘る間がない。又従業員の賃銀は非常に安く、最高男一バーツ女五十士丹で安ければ三十士丹から、五十士丹で充分採し得る。何となれば日本人は仕事なく遊んでゐるのを非常な恥と考へてをり、又人からも侮辱されるからである。

又女でも工場の他、交通機關やホテル等で夜でも晝でも働き、嫌がらず愉快さうに仕事場で寝たりすることさへあるこれ等の人は又非常に親切である。大阪の百貨店などでは下から上まで吾々の買物を案内してくれた人もあつた。又何も買はなくとも入口まで送つてくれて「アリガトウ」といふ所もあり、又電車なども人が一杯になり停車時間は一定してゐて、時間が來れば自動式に扉を閉めて出るのであるが、降りおくれたり混雑したりすることはない。只一つまだ行はれてゐないのは出入口を別々に書いてあり乍ら、どちらからでも出入してゐることである。

日本では間接的に子供等に旅行を奨勵してゐる。學校では日曜や、休日には團體で海岸へ蟹とりに行つたり、魚釣

りや山へ昆蟲採集に行つたり、或は汽車にのつて他縣の名所、舊蹟を訪問したりしてゐる。そして子供等に旅行記をかきこませるノートをもたせたり、集印帳をもたせたりしてゐる。日本では各地に、名所、停車場、講事堂、博覽會場から劇場、商店に至るまで各特徴や景色と日附を彫り込んだ印があつて旅行者は之を集めて、行つた所の記念にしてゐる。又旅行案内所は全國の各府縣にあり、東京丈でも十ヶ所以上あつて、鐵道ホテル、商店等と連絡をとつて親切丁寧な旅行者の世話してゐる。我國にもかゝる案内所は出来てゐるが、かゝる規模利益においては日本には及ばない。

今回の旅行で氣づいた一番大きな點は、日本では武勇の獎勵が非常に盛んであるといふことである。これは今回の事變の爲でなく日本はまた世界から大國として認められない時代から行はれたことである。これは子供の時代から教へこまれるのであつて、この事に關した書物や、寫眞等は本屋の店先で自由に讀むことが出来るし、又は古今の武器の玩具もあり、男子の節句や、その他の祭に右の武士の服装させたり、又博物館では戦争や兵器に關する知識を興へたり、子供等に玩具の武器を用ひさせたり、又飛行機に關する新知識を興へるにも實物の飛行機をもつて来て、各部につき技師がくわしく説明してゐる。又横須賀では、日清、日露の役で東郷大將が乗られた戦艦三笠を陸上にもつて来て彈丸の跡には一々印をつけ、戦死者の寫眞や、當時の衣類を並べて國民に見せてゐる。それを見たものは必ず感激させられその様子を話さないではゐられない。遠近を問はず、毎日その見學者は非常に多く自分等がある間だけでも船を借切つて見に来た小學生が二千人以上もあつた。船には案内人がゐて、一々詳しく説明してくれる。

もう一ヶ所大阪と神戸の間の大きな遊戯場の側に日支事變に關する博覽會が行はれてゐたことは本當の戦場の様子、飛行機の攻撃や、街の火災、タンクの進撃等實物の様に作られてゐる。又日本軍占領都市の戦利品、滿洲國五ヶ年計畫の様子、戦場で勇名を馳せに人の寫眞や血のついた衣類、武器等も並べてあり、非常に良い國民精神鼓吹の道具と

なつてゐる。これが基となつて日本人は老若男女を問はず、愛國精神の團結となつて現はれ各地に何萬何十萬の會員を有する愛國婦人會、軍事後援會等が出来て居り、何等己が利益を省みず、一心國家の爲につくしてゐる。又資産家で私財をこの方面に投ずるものも多く名古屋の或る資産家は出征遺族を自費で養つたり、仕事を紹介したりしてゐる。この他一般民衆も兵士の爲に、衣類を縫つて送つたり靴や帽子を送つたりして、愛國心を充分發揮してゐる。以上述べたことはわずか短時日の間に見た事でもた充分でないとしてもこれ丈でも諸君の役に立てば幸である。

〔四〕

日本への旅

レック・ナクソーン

日本へ旅した友人や書物等では日本といふ國は景氣のよい、又非常に文化の發達した國であるといふ事を聞かされてゐたので出發前はおさへきれぬ喜びで一杯であつた。

二四八二年四月十六日こそ忘れることの出来ない日である。吾々は新式遠洋航路の日本船西貢丸に乗込む。船は廣く航海中は何等苦痛を感じなかつた。この間船では吾々に凡ゆる便宜を興へてくれた。もう一日忘れることの出来ない日は、日出づる國の第一の港、神戸に第一歩を印し長い間夢に見て来たきれいな家を目のあたり見ることが出来た日であつた。吾々はここにゐる間は僅かであつたが、今回吾々を親切にも御招き下さつた岡崎忠雄氏に御面會出来たのはうれしかった。

吾々は日本滞在中はいろいろの文化に接し、全く吾が身を忘れてしまふ程であつた。日本人は非常につゝしみ深く古代からの風習を重んじ、家や町はきちんとして皆朗らかである。工場では一心不乱に従業員が働いて居り、學校では小さな子供から大學生に至るまで充分教育が行き届き、商業も又盛んで日本人全部が好む所らしい。

御承知の通り只今日本は支那と戦争してゐるので國內も平靜で、何の面白味もなからうと考へるものもあるが、戦争してゐる限り必要以上の贅澤はないにしても、やはり日本は以前と何等變る所なく、住み良い國で此處にゐると何處で戦争があるのか全くわからない位である。

日本を去る最後の日は誰でもなつかしきかなしきで一杯であつた。皆がもつと長く居たかつたが、どうすることも出来ない。歸りの船朝日山丸にゐる時は、毎夜日本の夢ばかりみてゐた。時には大洋に飛び込んで、日出づる國まで、今一度泳いで行きたいと考へる位であつた。

されどこれらの考へをすてて遂にバンコックに歸らねばならなかつた。とにかく吾々一行はバンコックへ歸つてもすぐ近くの國日本で見えて來た事は吾々の腦裡から永久に忘れられないであらう。(終り)

雜報欄

○秩父宮殿下中支戦線御視察

昨年五月中、北支、滿洲を親しく御視察遊ばされた秩父宮殿下には畏くも再度中支方面軍狀御視察のため十二月二十五日東京羽田飛行場御發、八日間に亘り約二千軒の中支の空を終始飛行機を以て御翔遊ばされ各地を御視察、前線將兵及び傷病兵の上に深き仁慈を垂れさせ給ひ、本年一月三日午前、上海御發空路御無恙同日午後三時五十分羽田飛行場御着御歸還遊ばされた。

○秩父總裁宮殿下、元駐日泰國公使ビヤ・スーバン・ソムバット氏並に同氏家族に賜餐

元駐日泰國公使ビヤ・スーバン・ソムバット氏は二人令嬢同伴、所要を帯び昨年十月初旬來朝したるが秩父總裁宮殿下には同氏が多年、日泰親善關係の増進に盡力し居るを喜ばせ給ひ本年一月十五日同氏及二令嬢を赤坂御殿に御招き被遊、同妃殿下御揃ひにて御出席鄭重なる晩餐を賜はつた。同氏は兩殿下の厚

き思召に恐懼感激した。尙ほ、同氏及び家族は一月下旬退京歸國した。

○秩父總裁宮殿下へ元泰國經濟相ブラ・サラサス氏より

タイ猫一番献上

本年一月廿四日再度來朝したる元泰國經濟大臣ブラ・サラサス氏は秩父總裁宮殿下に泰國産小猫一番を献上申上たいとの希望で二月一日に矢田常務理事同伴赤坂御殿に參殿献上の手續を了した。

○タイ國攝政首座殿下に大勳位御贈進

畏き邊に於かせられては友邦泰國の攝政首座アティット・デバヤ・アバ殿下が綾谷、日本タイ協會總裁並に東京、日本タイ協會の名譽總裁として日泰兩國の親善關係増進に妙からず御盡力あせられたるを思召させ給ひ、同殿下に對し昨年十一月、

大勳位菊花大綬章を御贈進あらせられた。同殿下には同月二十八日 天皇陛下に御謝電を寄せられたる趣拜承する。

○タイ國政府より近衛會長外 數氏に贈勳

昭和十四年九月十二日タイ國政府は左記諸氏に勳章贈與したる旨發表した。

- 樞密院議長公爵 近 衛 文 麿
- 元内閣總理大臣 廣 田 弘 毅
- 贈與白象一等大綬章 村 井 倉 松
- タイ國駐劄特命全權公使 伊 東 隆 治
- 贈與王冠一等勳章 松 嶋 鹿 夫
- 外務省通商局長 水 野 伊 太 郎
- 贈與王冠二等勳章 伊 東 隆 治
- 外務省通商局勳任事務官 伊 東 隆 治
- 贈與白象二等勳章 伊 東 隆 治
- 外務省通商局第五課長 伊 東 隆 治
- 贈與白象四等勳章 伊 東 隆 治
- 贈與王冠四等勳章 伊 東 隆 治

尚ほ、昭和十四年九月二十日タイ國皇帝誕辰に際し在泰三十三の三木榮氏に對し左記勳勲の發表があつた。

タイ國農務局長技師 三 木 榮

○タイ國政府磅リンク不變を 聲明

本年二月三日泰國政府は同國爲替政策並に通貨に關し從來通り磅リンクを持續し近き將來に於ても何等變更せざる旨を公表した。

○タイ國ウタラデイトに製糖 工場建設

盤谷の西北六四〇軒のラムバーン縣ココア官營製糖工場の一日の製糖能力は三〇〇噸であるが、現在泰國内の甘蔗栽培量は一日五〇〇噸以上の能力ある工場を必要とし且つ將來益々需要増加の傾向ある爲、政府は近くココアより南方一六〇軒の地點ウタラデイトに一五〇萬銖の資本金を以て新たに製糖工場を建設することとなつた。同地方は目下土地を開拓し感んに甘蔗を栽培してゐる。

○タイ國にも寒波

水道管の破裂、凍死人騒ぎ等は日本や倫敦だけではなく、常夏の國タイ全土にも二十年振りと云はれる寒波が襲來した。比

較的温度の高い盤谷すら一月に氣温は十度位に低下し市中には外套やブランケットを引つ被つた異様な姿が往來してゐた。此の寒波は北部チェンマイ、チェンライ地方が最も甚しく池沼の凍結、鳥類の凍死を見た程で朝晩は零下二度と云ふ低下振りで、ドイステツツ山嶺には珍らしく降雪があつた程である。ベンコンツク・タイムスに依れば内務副大臣は各縣知事に回章を廻して、貧困者にして防寒具の用意なきものには各縣四百銖の豫備金を以て衣類等の配給をなすべきこと、若し之にて足らざる場合は國庫より補助をなす旨宣言したとのことである。

○一九四〇年度のミス・タイ 決定

盤谷市アジア石油會社勤務シングスマリ氏娘、リヤム・ペーサヤナキーン(一八)嬢が本年度のミス・タイに當選した。同嬢は身長一米五五、體重四五斤五、胸圍八三、腰圍六六、脚圍四にて盤谷タイピスト學校を卒業してゐる。來る四月中旬日泰定期航空便にて來朝する由。

○盤谷に日本人會館建設

泰國在留日本人會にては皇紀二千六百年記念事業として在留邦人が毎月日本人會々費の一割宛を積立て、約五十萬圓の豫算にて盤谷市に日本人會館を建設することになつた。

○タイ國派遣衆議院議員團歸 朝並に新任駐日泰國武官海 軍少佐ルアン・ソンプラナ 氏歡迎晩餐會

昨年十一月二十二日歸朝したる櫻井兵五郎氏を團長とせる衆議院タイ國派遣議員團一行並に同月十一日來朝したる新任駐日武官海軍少佐ルアン・ソンプラナ氏の歡迎を兼ねて十二月二十四日午後六時より丸の内中央亭に於て歡迎晩餐會を開催した。當夜席上近衛會長代理徳川副會長の歡迎(別記)挨拶あり之に對し櫻井兵五郎氏及ルアン・ソンプラナ氏の謝辭(別記)があつた。尚ほ出席の主賓氏名は左の如くである。

- (主賓) 櫻井兵五郎殿 (政) 大野 伴 陸 殿
- (政) 大石 倫 治 殿 (民) 山 本 厚 三 殿
- (民) 古 島 義 英 殿 (政) 高 橋 泰 雄 殿(不参)
- (議) 飯 村 五 郎 殿(不参) (政) 山 川 頼 三 郎 殿
- (社) 須 永 好 殿 (書記官) 鈴 木 菊 男 殿
- (囑託) 山 野 雄 吉 殿 (囑託) 加 藤 正 男 殿
- (囑託) 山 口 武 殿
- 駐日武官ルアン・ソンプラナ殿
- 尚當夜出席者芳名左の通りである。

ヴィラ・ヨーダー武官殿
 ルアン・ラタナツプ書記官殿
 外務部 山下 芳 郎殿
 参謀本部 宮林 大 尉殿
 海軍省 柴 中 佐殿
 名譽會員 今村 信次 郎殿
 同 林 久治 郎殿
 常務理事子爵 三島 通 陽殿
 理事 事 矢田 部 保 吉殿
 評議員 井上 雅 二殿
 三井タイ室 宮原 武 雄殿
 維持會員 辻 富 三殿
 大日本航空副總裁 齋 藤 武 夫殿
 遠山 主 事
 佐藤 囑 託
 副會長 侯爵 德川賴貞

(主人) 近衛會長 (代理)
 德川副會長の挨拶

諸君
 本夕は先般御歸朝になつた衆議院タイ國派遣議員團櫻井團長等の御一行と、今回タイ國より新に駐日海軍武官として御着任になつたルアン・ソンプラナ少佐の歓迎を致さんが爲め此晚餐會を催した次第であります。

従つて今日に於ける日本タイ兩國の關係は政治、外交、産業文化凡有る方面に於て益々密接の度を加へつゝあるのであります。此機會に於て東亞の先進國たる我々は手を携けてシツカリと此れを抱き共に提携指導して以て世界平和の爲め盡すべきであると堅く信ずるものであります。

諸君は此意義ある最も重大なる使命を果して御歸朝になつた事を衷心より御祝し申上ると同時に感謝申上る次第であります。尙又今回御來任になつたルアン・ソンプラナ武官には何卒兩國親善の爲め御盡しあらん事を切望致します。

茲に茲に諸君と共に杯を擧げ主賓各位の御健康を祝し度いと思ひます。

櫻井團長の謝辭

只今、徳川副會長閣下より吾々訪泰議員團に對し過分の御言葉を送りまして光榮感謝して居る次第であります。私は茲にタイ國に關し贅言を要する以上に皆様が御解りのことと存じますから此點省略させて頂きますが、タイ國朝野が吾々に與へられました歓迎に關し御報告を申し上げたいと存じます。吾々は西貢に上陸しアンコール・ワットを経てアランヤに赴きますとタイ國政府は吾々一行のために専用歡迎列車を差廻されたのであります。盤谷に十日、アヌチャに一日滞在し馬來鐵道にて英領政府歡迎委員は國境外まで見送られたのであります。盤谷滞在、首相兼攝外相、大藏、内務、文部、經濟、無任所各大臣、

實は種々の事情がありまして歳末未かも日曜日と云ふ最も悪い日を決定せねばならぬ事に相成りました爲め自然陪賓、協會側にも御差支の方が多数にありまして出席率が少なく此點洵に遺憾に存する次第であります。此歳末御多用の中を御繰合せ御臨席下さいました主賓並に陪賓の方々には特に感謝申上る次第であります。曩に一度大正八年原内閣當時故政尾藤吉博士を團長とする我衆議院議員團一行のタイ國訪問が行はれた事がありますが、當時に於ける兩國の關係は今日程に親密でなく又其際同國の政體は君主獨裁制で議會政治とは全然没交渉であつたから自然タイ國の關心も薄いものであつたと云ふ様な事を聞いて居ります。然るに其後昭和七年の革命以來、政體も變更し憲法を發布して議會政治を實行し殊に其議會は一院制で普選に依る人民代表議會である上に議會政治はつて以來締約國議會代表の公式訪問は今回を以て嚆矢とする次第であります。から同國朝野の關心は實に深大であつて其歡迎振りも亦前例なき非常なるものであつたとの事を聞き洵に慶賀に堪へざる次第であります。由來同國は英、佛、殊に英國に遠慮氣兼ねなし我國との親善關係を希望しながらも常に充分なる好意を示す事が出来なかつたに不拘今回之等の制肘を受けず頗る大膽率直に御一行を歓迎致しました事は一つには近時歐洲情勢の變化に依るべきも他面我國力の進展に依るもの大なるを感ずる次第であります。而して今回の同國に於ける御一行に對する歓迎は同時に我國に對する歓迎であつて如何に同國々民が我國を敬慕し居るかを物語る證左であると考へる次第であります。

議會、盤谷及トンブリー兩市長より連日の歓迎を致され、特に議會の歓迎に於て音樂隊は「君が代」を吹奏されたとき、感極まつて落涙せんばかりでありました。地方視察に際しては、沿道、小、中、女學校生徒が國旗を振つて歓迎して呉れました。アヌチャにては山田長政の偉勳を偲び、同地に於ても鄭重なる歓迎を受け、歸途バンブイン驛を拜觀致しました。吾々はタイ國視察に當りて前例になき鄭重なる歓迎待遇を受けました。この歓迎たるや獨り吾々議員團一行に與へられたのみではなく日本國家國民に寄せられた待遇として皆様に御報告を申し上げる次第であります。

人民議會歡迎委員長の言葉に「タイ國と日本とはよく似た多くの點がある。是は日泰親善の要素である。古來より今日迄、日泰間に一度として思はしからぬ印象を残した事はない」と言はれました。これは兩國共通の民族精神がよく動いて居るためではないかと思ふが、タイ國史を聞くと、タイ民族は蒙古より發して隋漢の時代を經過して唐の世に到り南支那に高度の文化を有する南紹帝國を建設しました。然るに一二五三年、南紹帝國は元の忽必烈軍の鐵蹄下に蹂躪されたのでタイ民族は之に屈しないと言ふて一族兄弟相携へて南下したことはタイ民族の誇りであると思ひます。緬甸から侵略されても又、英佛から壓迫されても領土の一部を割いてまでも獨立を保持すると云ふ不屈の精神は日本精神とよく近似しております。この民族精神は支那の民族精神とは異つてゐる。支那では古へから統治者は天の命に依て國を革め治めると云ふ風で支那民族に不羈獨立の精神

と云ふものがない。日泰兩國共に佛教であり大乘、小乗の別はあるが人生觀は相同じであります。タイ國僧侶は持戒堅固で人をして崇拜の念を生じめます。私の獨斷的の考へかはしらぬが、今の東印度諸島に渡つた民族はその始原は印度支那半島から出發してゐるものと存じます。寛永以前、足利以後、我が民族がタイ國に渡り、山田長政は八百名の日本人を指揮してゐたとき、當時のタイ國の面積は現在の倍の面積があつて日本人も三千八百は在在してゐたらうと思はれます。して見ると日本人の血は大分タイ民族の血管中に流れ込んでゐるだらうと存じます。私は大藏大臣ルアン・プラヂット氏に對して、「あなた方の顔は日本人とソックリですネ」と言ふとプラヂット氏は「私はアユチャに相當廣い地所を持つて居りますので、日本タイ協會の人々から、貴君はアユチャ日本人の後裔かも知れぬと言はれたことがあります」と大笑された。

先程も申上りました人民議會歡迎委員長の言葉に「古來から日泰兩國間に曾て悪い印象が一つも残されてゐない」と言はれたが「將來も斯くある可し」と言はれたものだと思はれており

盤谷市長は歡迎の席上、「大洋は荒れても兩岸の岸を洗ふ水は平和であるべきだ」と申されたが私も「然り」と答へました。大體、日泰兩國間に利害相反することは一つもない。日本の理想は高度の文化によりて亞細亞諸民族と融合したい。日本と支那との間に宿命的感情の差違があるが日泰兩國間には一つも感情の隔りがない、我國はタイ國に於て領土的野心なく利害相反

すると毫もありません。タイ國は必要物資を米國より仰いでゐるが元より日泰兩國は經濟的に産業的に密接である可き筈であり、泰國に於て必要とせらるゝものは我國より供給し又、我國の必要とする棉、護謨、米、皮革等を泰國より供給する可きであります。日泰兩國は互に相融和し苟くも其間疑惑と云ふものありとせば一掃すべきであります。吾々は他國に比し一割でも二割でも安く良品を泰國に供給し産業技術を泰國に送れば宜しい。そこに利益打算と云ふものを考へれば妙な感情が湧き起る。斯かることは資本家から言へば或は多少の論があるだらうが、日泰兩國は利益感情を捨て、虚心坦懐に打合せ合ふことが親善の基礎であると存じます。其外、音楽、藝術等のこともありますが本席はこれにて報告の一端を申上げて失禮させて頂きます。御懇篤なる御招待を賜りまして厚く御禮を申上ります。(拍手)

ルアン・ソンプラナ武官の謝辭

私は今度駐在武官として御國に參つたものであります。本席御國の議員の方々が我國に御來訪下さいました我國の待遇に對して感謝の御言葉を承りまして至極満足に感じてゐる次第であります。先程、徳川副會長閣下から日泰親善關係促進に關し難有き御言葉を拜聴しまして感激して居りますが、私は身分職責上、積極的に日泰親善關係助長に狂奔する譯には參りませんが日本タイ協會の方々の意を體し及ばず乍ら努力する積りであります本席は鄭重なる御歡迎の宴を頂きまして難有く存じます。誠に簡單乍ら一言謝辭を申述す(拍手)

○訪泰日航機「大和號」の往還

昭和十四年十一月二十五日、大日本航空輸送會社航機「大和號」は日泰航空業務の實施に關する協定調印の重大使命を帯びて盤谷に赴く大久保航空局國際課長外、仁富外務事務官、齋藤日航副總裁、永淵理事等を搭載して午前七時十分東京羽田空港を出發、東京、臺北、河内を経由、廿七日午後一時十八分(日本時間)盤谷郊外ドン・ムアング飛行場に安着した。約二週間滞在上、十二月十一日午前十時五十分ドン・ムアング飛行場出發、同月十六日午後三時四十分羽田飛行場に無事歸還した。

○大日本航空株式會社盤谷駐在員首席の任命

大日本航空株式會社に於ては日泰定期航空運營開始に伴ひ、帝國飛行協賛屬託たりし加治木智種中佐を招聘し盤谷駐在員首席に任命、二月一日附發令した。

○日泰航空路印度支那迂回に變更

東京盤谷間五千軒の空を結ぶ日泰定期航空は二月上旬より大日本航空株式會社によりて運航開始の豫定なりし處、昨年末、

○天田通譯官の歸任

昨年三月初旬盤谷より賜暇歸朝中なりし公使館通譯官天田六郎氏は同年十二月四日神戸出帆大阪商船西貢丸にて歸任せられた。

○タイ國看護婦見習生四名來朝

曩に盤谷、日本タイ文化研究所より當協會宛看護婦修業志望に付紹介斡旋方依頼ありたる泰國女性フワン・ソーマケリタン(二六)、プラバイ・ウキチット(三一)、プラニー・ナークアクラーウ(一八)、アンチャリ・チャナバイ(一七)の四名、大阪商船盤谷丸にて一月廿四日未明、神戸入港來朝、同日夜東

京驛に到着した。翌二十五日午前、順天堂醫院に落着き午後三時、同院に於て修業せしむることとなつた。

○上野動物園よりタイ國へ仔獅子一番寄贈

昭和十三年秋、當時の駐日公使ラクサ氏の斡旋にてタイ國より虎一頭を贈られたが、其の返禮に昨年九月、上野動物園にて出生したる仔獅子牝牡二匹をタイ國ロップリー動物園へ寄贈することになり、來る四月頃、泰國へ送らるることになつた由。

○專修大學南洋事情研究會のタイ國留學生招待

專修大學南洋事情研究會にては日泰學生の親睦を圖る目的を以て昭和十四年十二月二十一日午後六時より神田小川町川新家料亭に於てタイ國學生チャンタナカラ、コーソン兩君外八名を招待し歡談を交へた今後、日泰學生親和會設立を申合せ十時過會した。

○名古屋日暹協會の改稱

名古屋日暹協會は本年一月一日より名古屋日泰協會と改稱した。尙ほ同協會經營據莊業善寮内在宿泰國留學生の近況左の如

くである。

記

スネー(二十二歳) 八高三年理科に在學中にて本年三月同校卒業後は名古屋帝大理工學部電氣學科に進入學の豫定。

ウタイ(二十一歳) 八高三年理科に在學中にて三月同校卒業後は名古屋帝大理工學部應用科學科に進入學の豫定。

チャムノ(二十二歳) 名古屋高商三年に在學中にて三月同校卒業後は東京商科大学に進入學の豫定。(以上三名は昭和十一年二月渡來)

タウキウ(十九歳) 愛知一中三年に在學中にて成績良好五年卒業後は一般中學卒業生に伍して八高理科受験の見込(昭和十一年四月渡來)

ソンボン(十七歳) 縣立明倫中學二年に學成績頗る良好同校五年卒業後はタウキウ同様八高理科受験將來航空學科修得の希望。

エーケ(十六年) 明倫中學一年に在學中(以上二名昭和十二年四月渡來)

チャムラ(十九歳) 目下業善館に於て日本語學習中
ブソン(十八歳) 右チャムラスと同様日本語學習中

○神戸タイ國名譽領事館事務

所移轉

神戸駐在タイ國名譽領事榎並亮造氏より十月十二日附同領事館事務所は神戸市神戶區江戶町百番地に移轉致したる旨通知があつた。

○北島多一氏令息の逝去

本會理事醫學博士北島多一氏長男信成氏は昨年十二月廿六日午前三時淀橋區西大久保一の四三九の自宅にて流行性肺炎の爲逝去された。享年三十八歳、十二月廿七日午後二時より三時迄自宅にて告別式を営まれた。

○伊藤次郎左衛門(治助)氏の逝去

多年、日泰親善關係促進に努められし本會理事伊藤次郎左衛門(治助)氏は昨春來胃腸病にて名古屋市西區茶屋町三丁目目の自宅にて療養中の處本年一月二十五日午前七時逝去した。享年六十三歳同月三十日午後自宅に於て告別式を営まれた。

○藤田平太郎男の逝去

本會々員男爵藤田平太郎氏は二月十六日京都に於て逝去せらる。洵に哀悼に堪へず。

協會記事

○臺灣總督府より補助金下府

豫て本協會より臺灣總督府へ昭和十四年度分補助金下付方申請中の所、今般同府より金壹千圓也を補助する旨の、一月二十六日附指令第六七八號を接受したるが、協會の會計年度は歴年で、既に十四年度を経過して居る爲め、本年度即ち十五年度の經常費へ繰入れる事となつた。

○理事會及評議員會の開催

昭和十四年十二月二十日霞山會館に於て、本會理事會及評議員會を開催し、左の事項に付報告又は協議を爲した。

- 理事會報告事項
- 一、理事伊藤次郎左衛門氏辭任の件
- 二、拓務省明年度補助金増額下付方申請の件
- 三、臺灣總督府本年度補助金の件
- 四、東京外國語學校にタイ語本科復活設置方要請の件
- 五、兒童映畫をタイ國文部省へ寄贈の件
- 六、「タイ」讀本發刊の件
- 七、會員異動の件

○協議事項

- 一、昭和十五年度收支決算案作成の件
- 二、池田成彬氏、並伊藤治助氏を名譽會員に推挙の件
- 評議員會協議事項
- 一、昭和十五年度收支決算案作成の件
- 昭和十五年二月十五日霞山會館に於て、本會理事會及評議員會を開催し、左の事項に付報告又は協議を爲した。
- 理事會報告事項
- 一、看護婦志望の泰國女子斡旋の件
- 二、臺灣總督府補助金下付の件
- 三、會員異動の件

○協議事項

- 一、昭和十四年度收支決算報告に關する件
- 二、昭和十四年度剩餘金の處分に關する件
- 三、目白タイ國學生會館の經營に關する件
- 評議員會協議事項
- 一、昭和十四年度收支決算報告に關する件
- 二、昭和十四年度剩餘金の處分に關する件
- 役員の異動
- 理事 伊藤次郎左衛門氏は舊職辭任せらる。
- 會員の異動
- 前號掲載後の異動は左の通りである。
- (イ)左の二氏を新に名譽會員に推挙す
- 池田 成彬氏(東京) 元大藏大臣、内閣參議

伊藤治助氏(名古屋) 本會特別會員(次郎左衛門と改名)

(ロ)新入會員(五名)

- 維持會員 櫻井兵五郎氏(東京)(二口) 衆議院議員
- 通常會員 田村四郎氏(横濱) 横濱貿易公司社長
- 同 飯野浩次氏(東京) 三菱商事株式會社業務部長
- 同 川畑光志氏(同) 日本タイプライター株式會社常務取締役
- 同 菅谷 諷氏(神戸) 神戸駐在タイ國名譽副領事

(ハ)退會々員(拾名)

- 維持會員 矢野恒太氏 昭和十五年一月四日退會
- 通常會員 浮田郷次氏 同
- 同 松本 學氏 同
- 同 長興 又郎氏 同
- 同 徳富猪一郎氏 同
- 同 田邊九萬三氏 同
- 同 宮城 道雄氏 同
- 同 溝口順次郎氏 同
- 同 森 平兵衛氏 同
- 特別會員 伊藤 治助氏 十五年一月二十五日逝去

會員總數 名譽會員 八名 特別會員 十一名

(二百十四名) 維持會員 十六名 通常會員百七十九名

○會員の消息

- △近衛文麿公(會長) 昨年十二月十五日紀元六百年奉祝會々長に就任さる。
- △荒木貞夫男(名譽會員) 同年十二月一日内閣參議に親任せらる。
- △細川護立侯(評議員) 本年一月廿四日紀元二千六百年奉祝綜合美術展覽會委員長に就任さる。
- △酒井忠正伯(理事) 今般勸業銀行參與理事に當選就任さる。
- △鎌谷正輔氏(維持會員) 十二月廿一日日鐵査役に就任さる。
- △安宅謙吉氏(特別會員) 同年十二月十九日勸選議員に任ぜらる。
- △八田嘉明氏(通常會員) 昨年十二月九日大日本荷造包裝協會聯合會々長に推選され同月十八日物資利用委員會々長に就任さる。

○寄贈圖書

一、滿洲國出現の合理性(フロンソン・レリ) 一部 駐日滿洲國大使館

An Outline of the Manchoukuo Empire (1933) 藤森理事官 一部 同 氏

Nippon Today and Tomorrow (1940) 大阪毎日新聞社 三部 英文 毎日

○新刊圖書

一、見たまゝの南方亞細亞(高岡大輔) 一部 日印協會發行

○財團法人日本タイ協會總裁

- 總裁及役員並職員
- 總裁 秩父宮雅仁親王殿下
- 名譽總裁 アテイット・デバヤ・アバ殿下
- 總 裁 役
- 會長 公 爵 近衛 文 麿
- 名譽會長 駐日タイ公使 ビヤ・シー・セナ
- 同 駐タイ國日本公使 村 井 倉 松
- 副會長 侯 爵 德 川 頼 貞
- 理事長(代理) 伯 爵 二 荒 芳 徳

〔非賣品〕

昭和十五年二月二十六日 印刷納本
昭和十五年二月二十九日 發行

東京市麹町區霞夕關三丁目四番地三

發行所 財團 **日本夕イ協會**

法人 電話銀座二六五六番
振替口座東京一四八三二番

編輯人 遠山 峻

印刷人 東京市澁橋區戸塚町一丁目三三〇番地

河田 保治

印刷所 東京市澁橋區戸塚町一丁目三三〇番地
明立印刷株式會社

